

福岡県道路施設維持管理基本計画  
台帳整備要領（案）

平成23年12月

福岡県 県土整備部 道路維持課

改訂履歴

改訂日	版	改訂内容
2007. 3	1	新規作成
2008. 2	2	「6. 台帳整備の時期、種類および台帳整備を行う者」の一部改訂 特記仕様書（案）の一部追加
2008. 9	3	「添付資料1 台帳整備に関する特記仕様書（案）の一URL改訂 「添付資料3 様式類」 橋梁台帳様式－1【下部工】【上部工】の行数の追加 「添付資料4 橋梁編」 I. 橋梁台帳（その1）基本諸元の記入方法45. 個数【落橋防止システム】の説明追加、49. 径間長の定義を追加、注意書きとして、下部工及び上部工が9基、6径間を越える場合の記入方法を追加 II. 橋梁台帳（その4）6. 工種・種別・細別・単位の工種追加 III. 点検台帳の記入方法、橋梁台帳様式－1 記入例を追加 「添付資料4 トンネル編」 記入方法1. 入力規則1.1 共通事項に⑩距離標を追加 1.4 様式-4, -5⑤工種・材料・数量の工種追加 1.5 トンネル点検台帳に注意書き追加 「添付資料4 舗装編」 記入方法1. 入力規則1.2 各様式の入力例と入力規則(1) 舗装台帳⑧幅員(横断図)に説明追加、⑫CBR入力規則を追加、⑬目標TA入力規則を追加、⑭舗装構成の材料種類の改訂
2009. 5	4	「3. 台帳整備の流れ」定期点検（直営）データベース登録・更新の流れ変更 「6. 台帳整備の時期、種類および台帳整備を行う者」の一部変更 「添付資料4 橋梁編」入力規則、記入方法に説明書きを追記 点検台帳記入例の追記 「添付資料4 舗装編」③路線名記入方法変更
2009. 10	5	事務所名称
2010. 12	6	台帳データ登録時に必要なデータを下記に修正 ・ 台帳データ発注者確認書（様式い）【追加書類】 ・ 台帳データチェック表（様式ろ） ・ 台帳データ登録申請書（様式はー〇） 注意事項等の追記ほか
2011. 12	7	「2. 対象施設」パターン(7)(8)の追加 「6. 台帳整備の時期、種類および台帳整備を行う者」の一部変更 「添付資料3 舗装編」各様式色の変更 道路データベースからのダウンロード箇所フロー図作成（橋梁・トンネル・舗装） 注意事項等の追記ほか

## 目 次

1. 目的 .....	1
2. 対象施設 .....	1
3. 台帳整備の流れ .....	2
4. 台帳データの種類および保存方法.....	4
5. 様式 .....	5
6. 台帳整備の時期、種類および台帳整備を行う者.....	6
7. 台帳整備に要する費用.....	7
添付資料 1 ー 台帳整備に関する特記仕様書（案） .....	11
添付資料 2 ー 台帳データ登録申請書・証明書 .....	13
台帳データ登録申請書・証明書の様式.....	14
台帳データ登録申請書の記入例.....	26
添付資料 3 ー 様式類.....	30
橋梁編.....	31
トンネル編.....	39
舗装編.....	47
添付資料 4 ー 記入要領 .....	51
橋梁編.....	52
台帳 記入方法・記入例.....	53
点検台帳 記入方法・記入例.....	82
対策工事を行った場合 記入方法・記入例 .....	107
トンネル編.....	119
台帳 記入方法・記入例.....	120
点検台帳 記入方法・記入例.....	137
対策工事を行った場合 記入方法・記入例 .....	147
舗装編.....	155
台帳 記入方法・記入例.....	156
点検台帳 記入方法・記入例.....	166
対策工事を行った場合 記入方法・記入例 .....	170

## 1 目的

台帳整備要領（案）（以下「本要領（案）」という。）は、調査、設計、工事、点検の各業務において、施設諸元、設計計算書、図面、点検結果、補修履歴などを蓄積することで、維持管理に活用することを目的とする。

## 2 対象施設

台帳整備を行う対象施設は以下のとおりとする。

- 1) 橋梁
- 2) トンネル
- 3) 舗装

※橋梁は、橋長 2 (1.5) m 以上および溝橋（カルバート）土被り 1 m 未満のものとする。

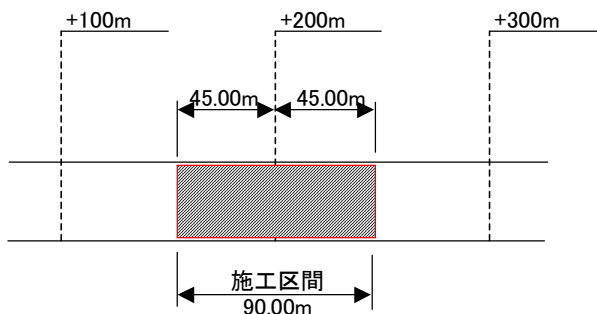
舗装は、距離標間で延長が 50 m 以上のものとする。（詳細は下図 パターン(1)～(8)参照）幅員の区分について、以下に例を示す。

例) ・車道幅員 3.0 m × 2 車線（上下線） = 6.0 m の場合

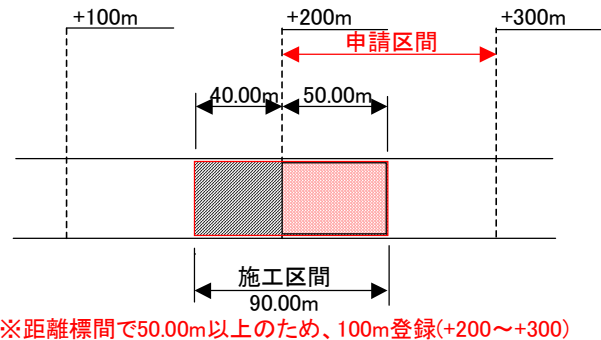
6.0 m 施工 → 2 車線（上下線）にて登録

- ・路肩及び歩道設置工事のみの施工→登録不要
- ・施工延長が 50m を超え、車道半分を先行施工→登録不要
- ・施工延長が 50m を超え、車道半分を後行施工→登録必要
- ・施工延長が 50m を超え、片側 2 車線以上ある場合で、上り若しくは下り車線を全幅施工した場合→登録必要

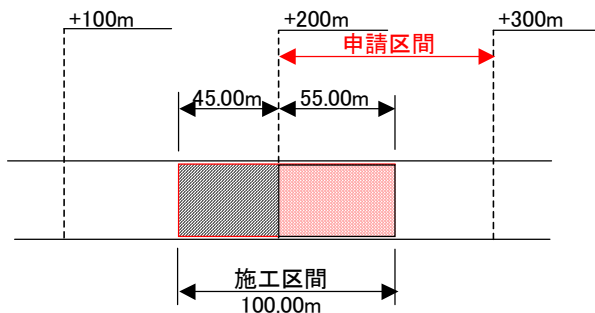
パターン(1)



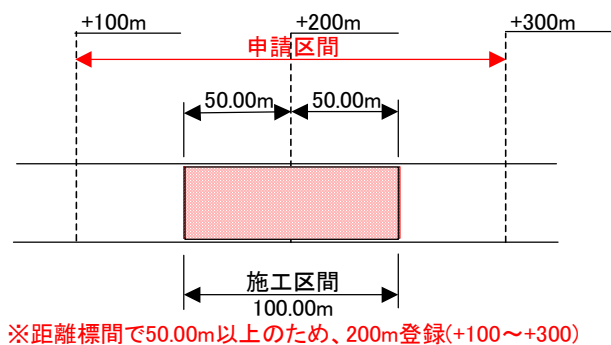
パターン(2)



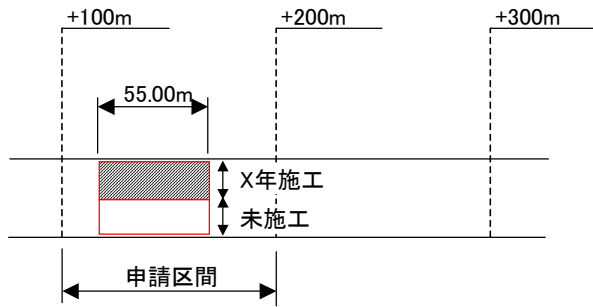
パターン(3)



パターン(4)

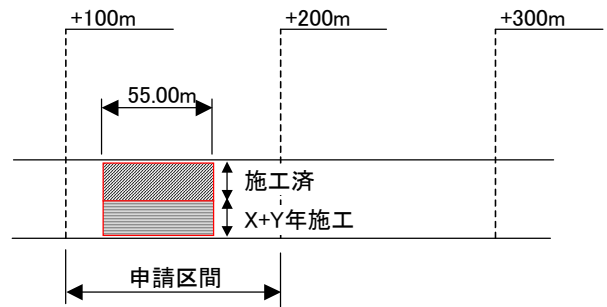


パターン(5)



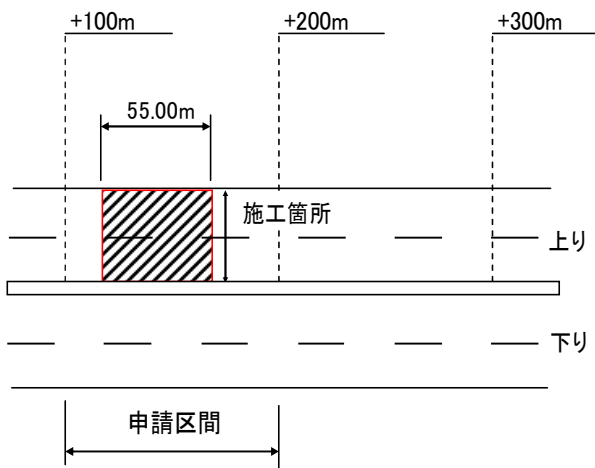
※50m以上だが、車道半分のみ先行施工のため登録不要

パターン(6)



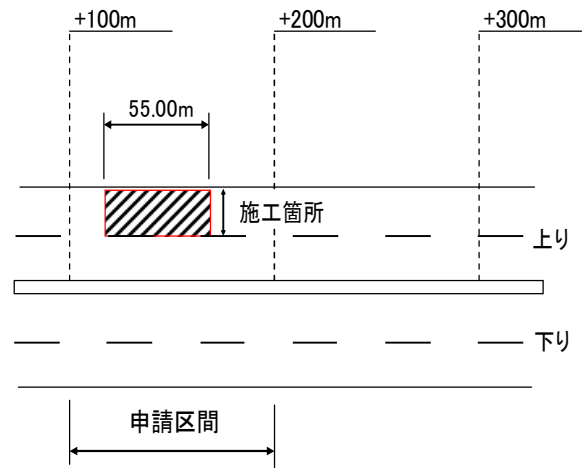
※50m以上かつ、車道半分を後行施工のため登録必要

パターン(7)



※50m以上で、片側2車線以上、上り車線  
全幅施工のため登録(+100~+200)

パターン(8)



※50m以上で、片側2車線以上だが、  
1車線のみの施工のため登録不要

### 3 台帳整備の流れ

台帳は、委託コンサルタント、工事請負者が作成する台帳データを、(財)福岡県建設技術情報センターが、一元的にデータベースに登録・更新することとし、出先事務所が作成する台帳データは、道路維持課がデータベースに登録・更新するものとする。

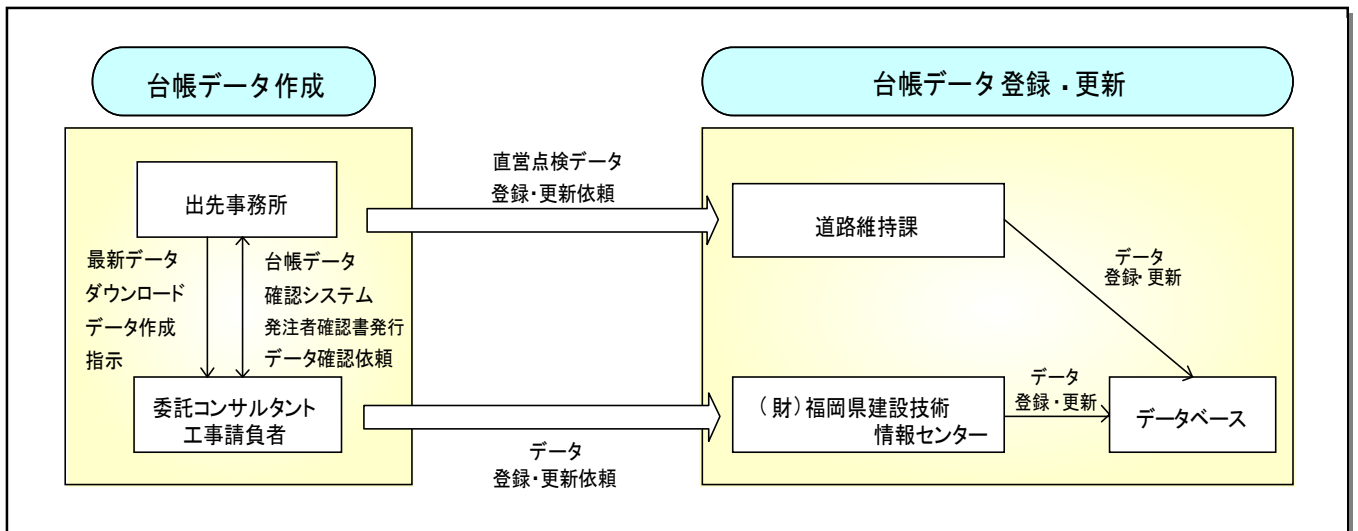
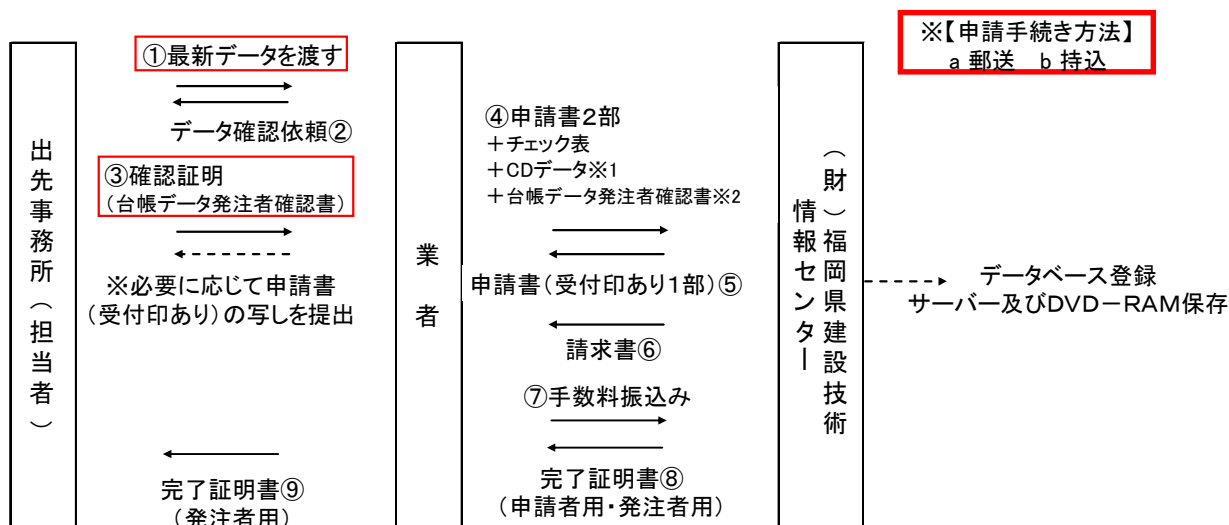


図1 台帳整備の流れ

1) 委託の場合



- 委託業務または工事の発注時には、「台帳整備に関する特記仕様書」を契約書に添付する。
- 委託業務または工事の完了時には、受注者は、（財）福岡県建設技術情報センターに所定のデータを添えて、台帳データ登録申請書を2部（申請書のカラーコピーによる2部提出は、受け付けることが出来ませんので注意して下さい）提出するものとする。  
また、受注者は、発注担当者より最新の台帳データを受け取るものとする。
- 受注者は、（財）福岡県建設技術情報センター発行の台帳データ登録完了証明書（発注者用）を検査調書に添付のうえ、検査員の確認を受けるものとする。
- なお、台帳データ登録完了証明書の発行に日数を要する場合は、申請書提出後に（財）福岡県建設技術情報センターから返送される受付印が押印された申請書の写しを検査調書に添付すること。

※1 申請する際のデータ形式は以下のとおりとする。

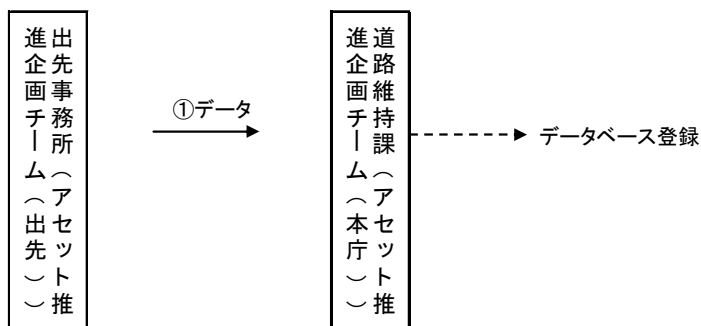
項目	データ形式
図面	SXF（SFC）形式
設計計算書	PDF形式
台帳様式	Excel 2003形式
台帳申請書	Excel形式

注) 申請にあたっては、橋梁；1橋につき1申請・舗装；1路線につき1申請とする。

注) 提出書類はCDにも格納する（格納データ：台帳データ、チェック表、  
台帳データ登録申請書(様式-は)）

※2 設計業務で図面・設計計算書のみの申請の場合は、台帳データ発注者確認書（様式い）の提出は不要。（ただしチェック表に担当者の押印等が必要です。）

## 2) 直営の場合



- ・ 出先事務所長（アセット推進企画チーム（出先））は、道路維持課長（アセット推進企画チーム（本庁））に所定のデータを提出するものとする。
- ・ 道路維持課長（アセット推進企画チーム（本庁））は、出先事務所（アセット推進企画チーム（出先））から提出されたデータをとりまとめのうえ、データベースに登録するものとする。

## 4 台帳データの種類および保存方法

台帳データには、施設データと点検データがあり、各データは本庁のデータベースサーバーに保存することを原則とする。

なお、容量が大きく、使用する頻度が少ないデータは、（財）福岡県建設技術情報センターが、サーバーおよびDVD-RAMに保存し、管理することとする。

台帳データの種類と保存方法

データの種類		保存媒体	保存場所
施設データ	施設諸元	データベースサーバー	本庁
	図面	サーバー、DVD-RAM	（財）福岡県建設技術情報センター
	設計計算書	サーバー、DVD-RAM	（財）福岡県建設技術情報センター
	写真	データベースサーバー	本庁
	補修履歴	データベースサーバー	本庁
点検データ	点検結果	データベースサーバー	本庁
	写真	データベースサーバー	本庁

## 5 様式

台帳整備の様式は以下のとおりとする。

	内 容	様式番号			
		橋梁	トンネル	舗装	
				目視点検 区間	路面性状 調査区間
施設データ					
(その1)	基本諸元	1	1-1~1-2	1	1
(その2)	図面	2	2	—	—
(その3)	現地写真	3	3	—	—
(その4)	補修・補強対策総括票	4	4	1	1
(その5)	補修・補強対策調書	5	5		
点検データ					
(その1)	点検履歴総括票	A	A	B	A
(その2)	点検結果総括票	B	B-1~B-2		
(その3)	点検結果記入票	C	—		
(その4)	損傷図	D	D-1~D-2	—	—
(その5)	主要損傷写真	E	E	—	—
(その6)	詳細調査総括票	F	F	—	—
(その7)	詳細調査概要	G	G	—	—



6 台帳整備の時期、種類および台帳整備を行う者

台帳整備の時期、種類および台帳整備を行う者は、原則として以下の通りとする。

道路施設名	台帳の種類	様式番号	新設設計	補修補強設計 <sup>※6</sup>	新設工事	補修補強工事	点検時		詳細調査
			設計業者	設計業者	施工業者	施工業者	点検業者	直営	調査業者
橋	施設台帳	1	○ ※1	-	○ ※2	□	△	△	△
		2	-	-	○	□	△	-	△
		3	-	-	○	◎	△	-	△
		4	-	-	-	◎	-	-	-
		5	-	-	-	◎	-	-	-
		設計計算書	○	○	○	□	-	-	-
		図面	○	○	○	□	-	-	-
梁	点検台帳	A	-	-	-	○	◎	◎	○
		B	-	-	-	○	○	○	○
		C	-	-	-	○	○	○	○
		D	-	-	-	○	○	-	○
		E	-	-	-	○	○	○	○
		F	-	-	-	-	-	-	◎
		G	-	-	-	-	-	-	◎
トンネル	施設台帳	1-1	○ ※1	-	○ ※2	□	△	△	△
		1-2	○ ※1	-	○ ※2	□	△	-	△
		2	-	-	○	□	△	-	△
		3	-	-	○	◎	△	-	△
		4	-	-	-	◎	-	-	-
		5	-	-	-	◎	-	-	-
		設計計算書	○	○	○	□	-	-	-
	図面	○	○	○	□	-	-	-	
	点検台帳	A	-	-	-	○	◎	◎	○
		B-1	-	-	-	○	○	-	○
		B-2	-	-	-	-	-	○	-
		D-1	-	-	-	○	○	-	○
		D-2	-	-	-	○	○	-	○
		E	-	-	-	○	○	△	○
F		-	-	-	-	-	-	◎	
G	-	-	-	-	-	-	◎		
※3 舗装	施設台帳	1	-	-	○ ※2	○	△	△	-
		設計計算書 ※5	-	-	○	□	-	-	-
		図面 ※5	-	-	○	□	-	-	-
	台点帳検	A	-	-	-	-	○ ※4	-	-
		B	-	-	○	○	-	○ ※4	-

○: 必ず作成し、変更があれば修正する。

◎: 必ず追記する(前データは削除しない)。

□: 施工後、構造・寸法等の変更があれば必ず修正

△: 点検時に変更箇所があれば修正や追記する。

※1 作成するが、登録申請は行わず、報告書(委託成果品)に添付する。

※2 新設設計時報告書に添付されている台帳データを県土整備事務所担当者より受け取り追記・修正する。

※3 橋面(トンネル)舗装施工時は、舗装台帳と橋梁(トンネル)台帳も同時に作成する。

※4 路面性状調査(県庁分)は様式Aを、目視点検(事務所分)は様式Bを作成する。

※5 舗装施設台帳における設計計算書及び図面は、工事箇所毎説明書及び平面図・標準横断面図とする。

(工事箇所毎説明書については、積算運用の手引き第V編舗装参照)

※6 補修補強設計と点検・詳細調査を同時に実施する場合は、図面・設計計算書及び点検台帳を修正追記すること

注) 国や他自治体(県界等)、道路管理者以外(河川等)の施工で、県管理となる施設も台帳整備を行うこと

1) 各施設を整備した際の台帳作成例

例1) 橋梁新設の場合

- 新設設計後は、橋梁台帳様式1を作成し、成果品に添付する（未登録）。なお設計計算書及び図面は登録する。
- 上部工本体工事完了後は、橋梁台帳様式1, 2, 3を作成する。又上部工のみの工事であっても、上部工・下部工の設計計算書及び図面を再提出する。

例2) 橋梁補修を実施した場合

- 詳細調査補修設計後は、点検様式A～Gまで作成し、設計計算書及び図面も登録。
- 施工完了後は、橋梁台帳様式1, 2, 3, 4, 5及び橋梁台帳点検様式A, B, C, D, Eを作成する。なお、1, 2は変更箇所があれば修正する。

例3) 舗装打換え（もしくは切削オーバーレイ）を実施した場合

- 舗装台帳様式1・舗装点検台帳2（様式B）を作成する。  
（橋面舗装の場合は、橋梁台帳様式1, 3, 4, 5及び橋梁台帳様式A, B, C, D, Eも併せて作成する）

※各提出データについては、次ページのフロー図を参照。

2) 橋梁架設までに数年を要する場合

基本的に上部工完成後に施設台帳1～3を作成すること。

なお、施設台帳1【業者名】の欄に下部工・上部工を施工した業者名全てを記入する。

例) 複数の施工業者がいる場合

【業者名】				
施 工	上部工	A1～P6 (株)〇〇	設 計	
		P6～A2 □〇(株)		
	下部工	A1 (株)〇〇工業		
		P1～P3 △△△(有)		
		P4～P8 □□(株)		
		A2 ○△□(株)		

※補修補強工事及び点検時の場合は記入不要。

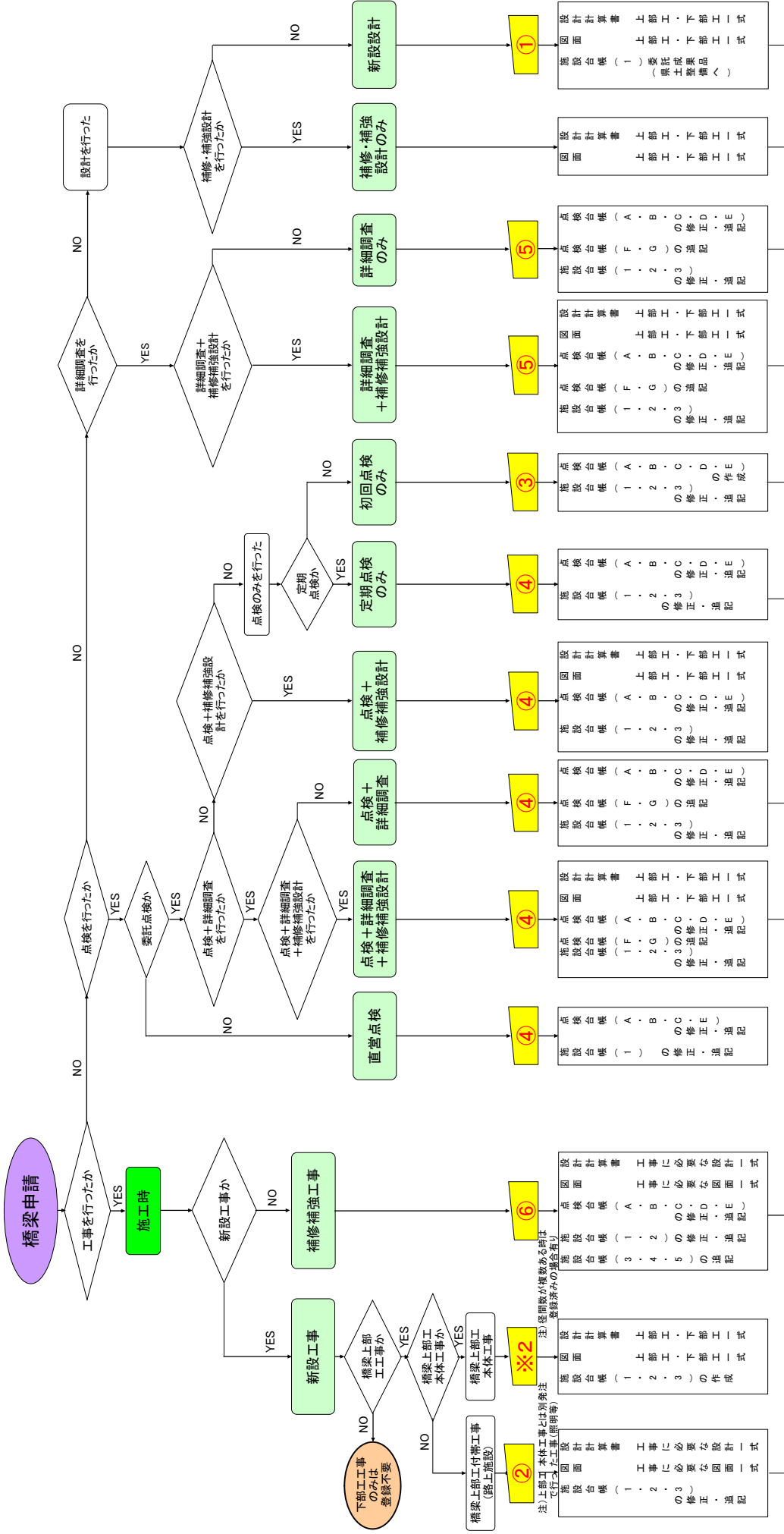
7 台帳整備に要する費用

1) 委託の場合

別途定められた費用を支払うものとし、その費用は、諸経費（委託工事の場合）または共通仮設費率（工事の場合）に含まれる。

2) 直営の場合

特になし。（道路維持課による登録・更新）



注) 道路施設データベースからのダウンロード時の注意点

ダウンロード時に選択するクリック及びひチェック項目の種類

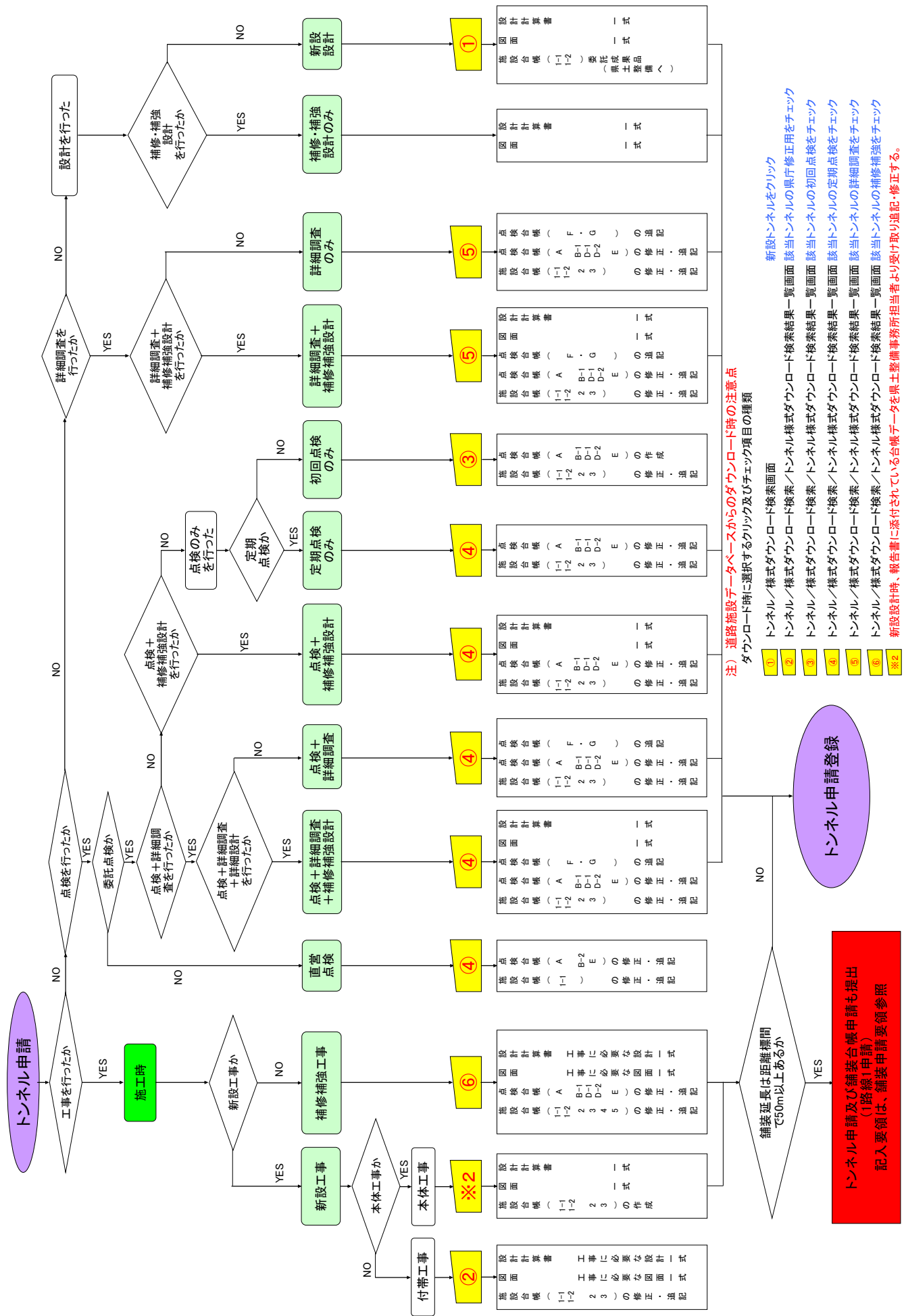
- ① 新設橋梁をクリック
- ② 該当橋梁の県庁修正用をチェック
- ③ 該当橋梁の初期点検をチェック
- ④ 該当橋梁の定期点検をチェック
- ⑤ 該当橋梁の詳細調査をチェック
- ⑥ 該当橋梁の補修補強をチェック
- ※2 新設設計時、報告書に添付されている台帳データを県土整備事務担当者より取り取り追記・修正する。

橋梁申請及び舗装台帳申請も提出(1路線1申請)  
記入要領は、舗装申請要領参照

橋梁申請登録

橋梁舗装の距離標間延長が50m以上あるか

新設橋梁をクリック



(注) 道路施設データベースからのダウンロード時の注意点  
ダウンロード時に選択するクリック及びチェック項目の種類

- ① 新設トンネルをクリック  
トンネル/構式ダウンロード検索結果一覧画面 該当トンネルの県庁修正用をチェック
- ② トンネル/構式ダウンロード検索結果一覧画面 該当トンネルの初回点検をチェック
- ③ トンネル/構式ダウンロード検索結果一覧画面 該当トンネルの定期点検をチェック
- ④ トンネル/構式ダウンロード検索結果一覧画面 該当トンネルの詳細調査をチェック
- ⑤ トンネル/構式ダウンロード検索結果一覧画面 該当トンネルの補修補強をチェック
- ※2 新設設計時、報告書に添付されている台帳データを県土整備事務所担当者より受け取り追記・修正する。

トンネル申請登録

トンネル申請及び舗装台帳申請も提出  
(1路線1申請)  
記入要領は、舗装申請要領参照

注) 道路施設データベースからのダウンロード時の注意点

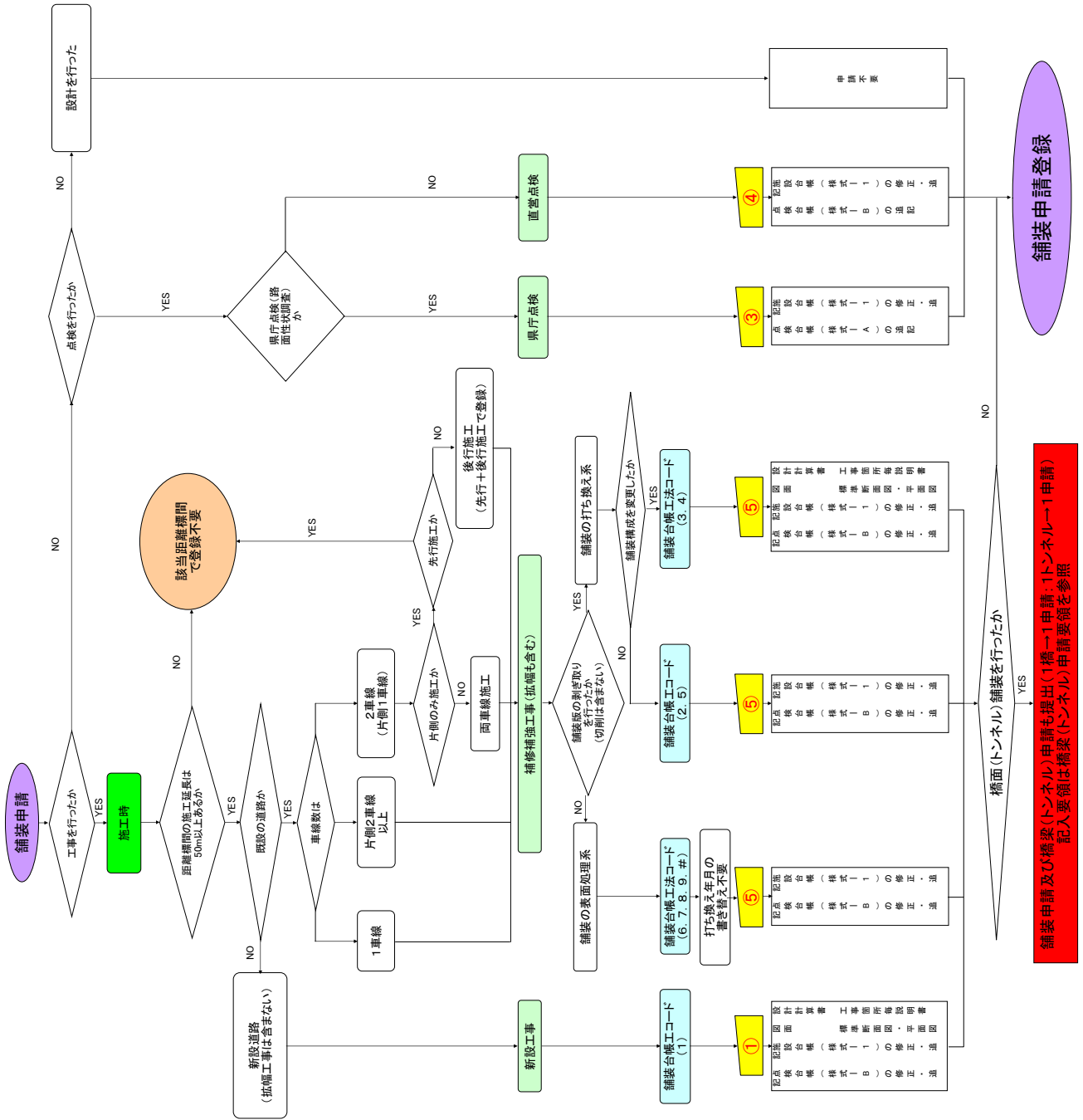
ダウンロード時に選択するクリック及びチェック項目の種類

- ① 舗装/様式ダウンロード検索画面  
新設道路をクリック
- ② 舗装/様式ダウンロード検索/舗装様式ダウンロード検索結果一覧画面  
該当距離帯の黒字修正用をマウック
- ③ 舗装/様式ダウンロード検索/舗装様式ダウンロード検索結果一覧画面  
該当距離帯の黒字点検をマウック
- ④ 舗装/様式ダウンロード検索/舗装様式ダウンロード検索結果一覧画面  
該当距離帯の直営点検をマウック
- ⑤ 舗装/様式ダウンロード検索/舗装様式ダウンロード検索結果一覧画面  
該当距離帯の補修をマウック

※ (1)~(9)(#?)は、舗装台帳様式-1の施工履歴工法コード

※ 新設道路の路線番号は、2

※ 舗装構成を変更した場合は、必ず設計計算書及び図面の提出。



舗装申請及び橋梁(トンネル)申請も提出(1橋=1申請、1トンネル=1申請)  
記入要領は橋梁(トンネル)申請要領を参照

舗装申請登録

添付資料 1

< 台帳整備に関する特記仕様書（案） >

## 台帳整備に関する特記仕様書（案）

受注者は、業務（工事）完了時には発注担当者の指示に従い、「台帳整備要領（案）」に基づき、施設データ、点検データ、設計計算書、図面などの関係データを（財）福岡県建設技術情報センター（以下「センター」という）へ登録申請を行い、センターが発行する台帳データ登録完了証明書（発注者用）を発注者に提出しなければならない。

なお、センターが台帳データ登録完了証明書の発行に日数を要する場合は、先にセンターの受付印が押印された台帳データ登録申請書の写しを発注者に提出し、登録完了後、すみやかに登録完了証明書（発注者用）を提出するものとする。

- ※ 受注者は発注担当者から施設データ、点検データの最新データを受け取ること。
- ※ 発注者は必ず確認証明を行うこと。

### ◆ 『台帳整備要領（案）』入手先

福岡県庁ホームページ【福岡県のみち（維持・管理）】参照。

<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/d12/fukuokakennomichi-ijikannri.html>

### ◆ 『台帳データ登録申請書』入手先

（財）福岡県建設技術情報センターホームページ【道路施設データベース申請】参照。

<http://fcti.jp/page15/page15-01.htm>

添付資料 2

<台帳データ登録申請書・証明書>



○ 台帳データ登録申請書・証明書の様式

(様式い)

発注者確認印	
担当者	係長(副長)

### 台帳データ発注者確認書

Ver20111201

(財)福岡県建設技術情報センター理事長 殿

下記データを確認しました。

県土整備事務所名	
----------	--

路 線 名	
-------	--

登 録 台 帳	
---------	--

**※この確認書は、上記発注者確認欄に押印後申請者に渡し、必ず下記提出書類とあわせて(財)福岡県建設技術情報センターに提出してください。**

(財)福岡県建設技術情報センター提出書類一覧
①台帳データ発注者確認書(様式い)(本様式)
②台帳データチェック表(様式ろ)
③台帳データ登録申請書(様式は一〇)
④申請データ

※②③については、申請者が(財)福岡県建設技術情報センターのホームページよりダウンロードしてください。

ダウンロード先 : <http://fcti.jp/page15/page15-01.htm>

※②③④の書類については、CD(又はDVD)に入れて提出すること。

※②③については、印刷したもの(紙ベース)も提出すること(枚数は下記)。

- ②台帳データチェック表(様式ろ) . . . . . 1部
- ③台帳データ登録申請書(様式は一〇) . . . . . 2部



11006022008039

# 台帳データチェック表

(様式ろ)

Ver20111201

事務所名 (管理事務所)	路 線		種別	路線番号	路線名
施設コード (橋梁の場合)	施設名称	施設箇所			
施設・点検 データ	施設種別	施設データ	トンネル	橋 梁	舗 装
業務名	起工番号	業務内容			
発注機関	事務所名	課	係	請負業者名	
				発注担当者(確認者)	

施設データ										点検データ									
橋 梁					トンネル					橋 梁					トンネル				
項目	数量	チェック	項目	数量	チェック	項目	数量	チェック	項目	数量	チェック	項目	数量	チェック	項目	数量	チェック		
1	枚	<input type="checkbox"/>	1-1	枚	<input type="checkbox"/>	A	枚	<input type="checkbox"/>	A	枚	<input type="checkbox"/>	A	枚	<input type="checkbox"/>	A	km	<input type="checkbox"/>		
2	枚	<input type="checkbox"/>	1-2	枚	<input type="checkbox"/>	B	枚	<input type="checkbox"/>	B-1	枚	<input type="checkbox"/>	B	枚	<input type="checkbox"/>	B	km	<input type="checkbox"/>		
3	枚	<input type="checkbox"/>	2	枚	<input type="checkbox"/>	C	枚	<input type="checkbox"/>	D-1	枚	<input type="checkbox"/>	様 式							
4	枚	<input type="checkbox"/>	3	枚	<input type="checkbox"/>	D	枚	<input type="checkbox"/>	D-2	枚	<input type="checkbox"/>	様 式							
5	枚	<input type="checkbox"/>	4	枚	<input type="checkbox"/>	E	枚	<input type="checkbox"/>	E	枚	<input type="checkbox"/>	様 式							
			5	枚	<input type="checkbox"/>	F	枚	<input type="checkbox"/>	F	枚	<input type="checkbox"/>	様 式							
						G	枚	<input type="checkbox"/>	G	枚	<input type="checkbox"/>	様 式							
図面	枚	<input type="checkbox"/>	図面	枚	<input type="checkbox"/>	図面	枚	<input type="checkbox"/>	図面	枚	<input type="checkbox"/>	様 式							
設計計算書	式	<input type="checkbox"/>	設計計算書	式	<input type="checkbox"/>	設計計算書	式	<input type="checkbox"/>	設計計算書	式	<input type="checkbox"/>	様 式							

(登録申請に関する注意事項)

- ※ このチェック表は、必ず台帳データ(〇〇)申請書(以下:申請書)と一緒に提出してください。
- ※ 申請者は、このチェック表を作成後、発注担当者の確認を受けて下さい。
- ※ 発注担当者は、請負者の申請様式、図面、設計計算書の内容を確認してください。
- ※ 舗装と橋梁を同時に申請する場合は、舗装用として「台帳データ(舗装)申請書」+「台帳データ(橋梁)申請書」+「台帳データチェック表」を作成して各1部ずつ計2組提出してください。

# 台帳データ(橋梁)登録申請書

(様式 は-①)

Ver20111201

(財)福岡県建設技術情報センター理事長 殿

平成 年 月 日

下記データを作成しましたので、申請いたします。

事務所名 (管理事務所名)		路線	種別	路線番号	路線名
橋梁名コード		施設箇所			
施設名称					
施設・点検	<input type="checkbox"/> 施設データ <input type="checkbox"/> 点検データ	業務内容	<input type="checkbox"/> 調査・設計 <input type="checkbox"/> 点検 <input type="checkbox"/> 詳細調査 <input type="checkbox"/> 施工(新設時) <input type="checkbox"/> 施工(補修補強時)		
発注機関		業務名	起工番号		業務名 あるいは 工事名

(手数料税込み)

施設データ					点検データ				
項目	単価	数量	単位	金額(円)	項目	単価	数量	単位	金額(円)
様式	1		枚		様式	A		枚	
	2		枚			B		枚	
	3		枚			C		枚	
	4		枚			D		枚	
	5		枚			E		枚	
						F		枚	
						G		枚	
図面			枚						
設計計算書			式						
基本料金			式		合計金額				

申請者

〒

住所

会社名

(印)

電話

担当者

(印)

受付番号	
受付印	

# 台帳データ(トンネル)登録申請書

(様式 は-②)

Ver20111201

(財)福岡県建設技術情報センター理事長 殿

平成 年 月 日

下記データを作成しましたので、申請いたします。

事務所名 (管理事務所名)		路 線	種別	路線番号	路 線 名
施設名称		施設箇所			
施設・点検	<input type="checkbox"/> 施設データ	業務内容	<input type="checkbox"/> 調査・設計	<input type="checkbox"/> 点 検	<input type="checkbox"/> 詳細調査
	<input type="checkbox"/> 点検データ		<input type="checkbox"/> 施工(新設時)	<input type="checkbox"/> 施工(補修補強時)	
発注機関		業務名	起工番号	業務名 あるいは 工事名	

(手数料税込み)

施設データ					点検データ				
項 目	単価	数量	単位	金 額(円)	項 目	単価	数量	単位	金 額(円)
様 式	1-1		枚		様 式	A		枚	
	1-2		枚			B-1		枚	
	2		枚			D-1		枚	
	3		枚			D-2		枚	
	4		枚			E		枚	
	5		枚			F		枚	
							G		枚
図 面			枚						
設計計算書			式						
基本料金			式		合 計 金 額				

申 請 者

〒

住 所

会社名

(印)

電 話

担当者

(印)

受付 番号	
受付印	

# 台帳データ(舗装)登録申請書

(様式 は-③)

Ver20111201

(財)福岡県建設技術情報センター理事長 殿

平成 年 月 日

下記データを作成しましたので、申請いたします。

事務所名 (管理事務所名)		路線	種別	路線番号	路線名
施設名称	舗装	施設箇所			
施設・点検	<input type="checkbox"/> 施設データ <input type="checkbox"/> 点検データ	業務内容	<input type="checkbox"/> 調査・設計 <input type="checkbox"/> 点検 <input type="checkbox"/> 施工(新設時) <input type="checkbox"/> 施工(補修補強時)		
発注機関		業務名	起工番号	業務名 あるいは 工事名	

(手数料税込み)

施設データ					点検データ				
項目	単価	数量	単位	金額(円)	項目	単価	数量	単位	金額(円)
様式	1		100m		様式	A		100m	
						B		100m	
図面			枚						
設計計算書			式						
基本料金			式		合計金額				

※各様式の数量は、100m単位(100m未満は切り上げ)で記入して下さい。

申請者

〒

住所

会社名

(印)

電話

担当者

(印)

受付番号	
受付印	

### 台帳データ(橋梁)登録完了証明書

殿

受付 番号	
----------	--

事務所名 (管理事務所名)		路線	種別	路線番号	路線名
橋梁名コード		施設箇所			
施設名称					
施設・点検	<input type="checkbox"/> 施設データ	業務内容	<input type="checkbox"/> 調査・設計	<input type="checkbox"/> 点検	<input type="checkbox"/> 詳細調査
	<input type="checkbox"/> 点検データ		<input type="checkbox"/> 施工(新設時)	<input type="checkbox"/> 施工(補修補強時)	
発注機関		業務名	起工番号	業務名 あるいは 工事名	

(手数料税込み)

施設データ					点検データ				
項目	単価	数量	単位	金額(円)	項目	単価	数量	単位	金額(円)
様 式	1		枚		様 式	A		枚	
	2		枚			B		枚	
	3		枚			C		枚	
	4		枚			D		枚	
	5		枚			E		枚	
						F		枚	
						G		枚	
図面			枚						
設計計算書			式						
基本料金			式		合計金額				

平成 年 月 日

上記データの内容を確認し、登録が完了したことを証明します。

(財)福岡県建設技術情報センター 理事長

### 台帳データ(橋梁)登録完了証明書

受付 番号	
----------	--

事務所名 (管理事務所名)		路線	種別	路線番号	路線名
橋梁名コード		施設箇所			
施設名称					
施設・点検	<input type="checkbox"/> 施設データ <input type="checkbox"/> 点検データ	業務内容	<input type="checkbox"/> 調査・設計 <input type="checkbox"/> 点検 <input type="checkbox"/> 詳細調査 <input type="checkbox"/> 施工(新設時) <input type="checkbox"/> 施工(補修補強時)		
発注機関		業務名	起工番号	業務名 あるいは 工事名	

平成 年 月 日

上記データの内容を確認し、登録が完了したことを証明します。

(財)福岡県建設技術情報センター 理事長



### 台帳データ(トンネル)登録完了証明書

殿

受付 番号	
----------	--

事務所名 (管理事務所名)		路線	種別	路線番号	路線名
施設名称		施設箇所			
施設・点検	<input type="checkbox"/> 施設データ	業務内容	<input type="checkbox"/> 調査・設計	<input type="checkbox"/> 点検	<input type="checkbox"/> 詳細調査
	<input type="checkbox"/> 点検データ		<input type="checkbox"/> 施工(新設時)	<input type="checkbox"/> 施工(補修補強時)	
発注機関		業務名	起工番号	業務名 あるいは 工事名	

(手数料税込み)

施設データ					点検データ				
項目	単価	数量	単位	金額(円)	項目	単価	数量	単位	金額(円)
様 式	1-1		枚		様 式	A		枚	
	1-2		枚			B-1		枚	
	2		枚			D-1		枚	
	3		枚			D-2		枚	
	4		枚			E		枚	
	5		枚			F		枚	
						G		枚	
図面			枚						
設計計算書			式						
基本料金			式		合計金額				

平成 年 月 日

上記データの内容を確認し、登録が完了したことを証明します。

(財)福岡県建設技術情報センター 理事長

### 台帳データ(トンネル)登録完了証明書

受付 番号	
----------	--

事務所名 (管理事務所名)		路線	種別	路線番号	路線名
施設名称		施設箇所			
施設・点検	<input type="checkbox"/> 施設データ	業務内容	<input type="checkbox"/> 調査・設計	<input type="checkbox"/> 点検	<input type="checkbox"/> 詳細調査
	<input type="checkbox"/> 点検データ		<input type="checkbox"/> 施工(新設時)	<input type="checkbox"/> 施工(補修補強時)	
発注機関		業務名	起工番号	業務名 あるいは 工事名	

平成 年 月 日

上記データの内容を確認し、登録が完了したことを証明します。

(財)福岡県建設技術情報センター 理事長

### 台帳データ(舗装)登録完了証明書

殿

受付 番号	
----------	--

事務所名 (管理事務所名)		路線	種別	路線番号	路線名
施設名称		施設箇所			
施設・点検	<input type="checkbox"/> 施設データ <input type="checkbox"/> 点検データ	業務内容	<input type="checkbox"/> 調査・設計 <input type="checkbox"/> 点検 <input type="checkbox"/> 施工(新設時) <input type="checkbox"/> 施工(補修補強時)		
			発注機関	業務名	起工番号

(手数料税込み)

施設データ					点検データ				
項目	単価	数量	単位	金額(円)	項目	単価	数量	単位	金額(円)
様式	1		100m		様式	A		100m	
						B		100m	
図面			枚						
設計計算書			式						
基本料金			式		合計金額				

平成 年 月 日

上記データの内容を確認し、登録が完了したことを証明します。

(財)福岡県建設技術情報センター 理事長

### 台帳データ(舗装)登録完了証明書

受付 番号	
----------	--

事務所名 (管理事務所名)	路線	種別	路線番号	路線名
施設名称	施設箇所			
施設・点検	<input type="checkbox"/> 施設データ <input type="checkbox"/> 点検データ	業務内容	<input type="checkbox"/> 調査・設計 <input type="checkbox"/> 点検 <input type="checkbox"/> 施工(新設時) <input type="checkbox"/> 施工(補修補強時)	
発注機関		業務名	起工番号	業務名 あるいは 工事名

平成 年 月 日

上記データの内容を確認し、登録が完了したことを証明します。

(財)福岡県建設技術情報センター 理事長

○ 台帳データ登録申請書の記入例

(様式い)

発注者確認印	
担当者	係長(副長)

### 台帳データ発注者確認書

Ver20111201

(財)福岡県建設技術情報センター理事長 殿

下記データを確認しました。

県土整備事務所名	福岡県土整備事務所
----------	-----------

路線名	(主)筑紫野古賀線
-----	-----------

登録台帳	橋梁台帳 (〇〇橋)
------	------------

下記項目が入力されています。  
 橋梁台帳 〇〇橋  
 トンネル台帳 〇〇トンネル  
 舗装台帳 〇〇Km〇〇〇~〇〇Km〇〇〇

※この確認書は、上記発注者確認欄に押印後申請者に渡し、必ず下記提出書類とあわせて(財)福岡県建設技術情報センターに提出してください。

(財)福岡県建設技術情報センター提出書類一覧
①台帳データ発注者確認書(様式い)(本様式)
②台帳データチェック表(様式ろ)
③台帳データ登録申請書(様式は一〇)
④申請データ

※②③については、申請者が(財)福岡県建設技術情報センターのホームページよりダウンロードしてください。

ダウンロード先 : <http://fcti.jp/page15/page15-01.htm>

※②③④の書類については、CD(又はDVD)に入れて提出すること。

※②③については、印刷したもの(紙ベース)も提出すること(枚数は下記)。

- ②台帳データチェック表(様式ろ) . . . . . 1部
- ③台帳データ登録申請書(様式は一〇) . . . . . 2部



40497.78602

※同一工事でも、複数の施設種別(橋梁・トンネル・舗装)の場合は台帳データ発注者確認書も複数枚、必要となります。  
 (1路線・1申請、1橋・1申請、1トンネル・1申請)

# 台帳データチェック表

(様式ろ)

Ver20111201

事務所名 (管理事務所)		福岡県土整備事務所		路線		路線番号		路線名	
施設コード (橋梁の場合)		12345678		施設名称		施設箇所		〇〇市〇〇〇	
施設・点検データ		<input checked="" type="checkbox"/> 施設データ <input type="checkbox"/> 点検データ		施設種別		<input checked="" type="checkbox"/> 橋梁 <input type="checkbox"/> トンネル <input type="checkbox"/> 舗装		業務内容 <input type="checkbox"/> 調査・設計 <input type="checkbox"/> 点検 <input type="checkbox"/> 詳細調査 <input checked="" type="checkbox"/> 施工(新設時) <input type="checkbox"/> 施工(補修補強時)	
業務名		起工番号		業務名あるいは工事名		請負業者名			
		423-12345-001		橋梁架替工事		(株)〇〇建設			
発注機関		事務所名		課		係		発注担当者(確認者)	
		福岡県土整備事務所		〇〇課		〇〇係		〇〇 〇〇	

橋梁		トンネル		舗装		点検	
項目	数量	項目	数量	項目	数量	項目	数量
図面	10 枚	図面	枚	図面	枚	A	km
設計計算書	1 式	設計計算書	式	設計計算書	式	B	km

台帳データチェック表は、施設種別ごとにファイルを作成してください。数字や文字が、二重に表示される場合は、申請以外の施設種別の登録申請シートに入力されたセルが無いことを確認してください。

台帳データチェック表の記入は、課・係・発注者・発注者のみ記入です。その他の記入箇所はリンクしているため記入は不要です。(発注担当者の押印は、不要です。ただし設計時の登録の場合は発注者確認シートの提出が無いため、このシートに押印をお願いします。)

(登録申請に関する注意事項)

- ※ このチェック表は、必ず台帳データ(〇〇)申請書(以下:申請書)と一緒に提出してください。
- ※ 申請者は、このチェック表を作成後、発注担当者の確認を受けて下さい。
- ※ 発注担当者は、請負者の申請様式、図面、設計計算書の内容を確認してください。
- ※ 舗装と橋梁を同時に申請する場合は、舗装用として「台帳データ(舗装)申請書」+「台帳データ(橋梁)申請書」+「台帳データチェック表」を作成して各1部ずつ計2組提出してください。

台帳データ(橋梁)登録申請書

(様式 は-①)

Ver20111201

(財)福岡県建設技術情報センター理事長 殿

※1施設につき2部(正・副)申請  
(1橋:2部、1路線:2部)

平成 22年 10月 1日

下記データを作成しましたので、申請いたします。

事務所名 (管理事務所名)	福岡県土整備事務所	路線	種別	路線番号	路線名
			(主)	19	〇〇〇線
橋梁名コード	01234567	施設箇所	〇〇市〇〇〇		
施設名称	〇〇橋		例)平成21年度の場合 421-00000-001		
施設・点検	<input checked="" type="checkbox"/> 施設データ	業務内容	<input type="checkbox"/> 調査・設計	<input type="checkbox"/> 点検	<input type="checkbox"/> 詳細調査
	<input type="checkbox"/> 点検データ		<input checked="" type="checkbox"/> 施工(新設時)	<input type="checkbox"/> 施工(補修補強時)	
発注機関	福岡県土整備事務所	業務名	起工番号	業務名 あるいは 工事名	
			421-00000-001	橋梁架替工事	

工事契約書等の確認の上記入

調査設計:点検:詳細調査の場合は点検データに(レ)  
施工(新設時):施工(補修補強時)の場合は施設データに(レ)(手数料税込み)

施設データ					点検データ					
項目	単価	数量	単位	金額(円)	項目	単価	数量	単位	金額(円)	
様式	1	〇〇	1	枚	〇〇	様式	A		枚	
	2	〇〇	1	枚	〇〇		B		枚	
	3	〇〇	1	枚	〇〇		C		枚	
	4			枚			D		枚	
	5			枚			E		枚	
							F		枚	
					G			枚		
図面	〇〇	5	枚	〇〇						
設計計算書	〇〇	1	式	〇〇						
基本料金	〇〇	1	式	〇〇	合計金額				〇〇〇	

申請者

〒 000-0000

住所

〇〇市〇〇

会社名

(株)〇〇建設

電話

092-0000-0000

担当者

〇〇〇〇

会社印及び担当印は必ず押印する。  
(カラーコピーは、NG)

(印)

(印)

受付番号	
受付印	



添付資料 3

<様式類>

## ○橋 梁 編

入力にあたっての注意事項

データ入力を行う際は、台帳整備要領(案)に従い入力するものとするが、下記の点に注意してください。

橋梁

各様式の着色セルの意味

対応するセルとリンクしているもの(自動反映)

プルダウンにより選択入力するもの

※共通事項については、P56の追加方法を、参照してください

※データ登録に際し、シートの削除は行わないでください。

※シート名の変更は、行わないでください。

※セルのコピー&貼り付け操作は、行わないでください。

(ただし、記入項目がシート内に収まらない場合は橋梁P56の追加方法を、参照してください。)

※セル書式設定等の変更は、行わないでください。

※写真データは圧縮して貼り付けてください。

(様式ファイルの書式設定やレイアウトが変わり、システム登録できなくなります。)

橋梁台帳(その1):基本諸元

様式-1

Ver 20111201

橋梁名コード	橋長	m	作成年月日	年	月	日	改訂年月日	年	月	日													
事務所 (フリガナ)	径間数		【架橋状況】																				
橋梁名	橋面積	m <sup>2</sup>	交差状況	名称	管理者	交差角	計画河川 (鉄道道路幅)	計画流量 (建築限界高)	【交通条件】														
橋梁区分	平面形状								調査年度	年													
橋梁種別	斜角	°							交通量	台/日													
橋の等級	最小半径	m							大型車交通量	台/日													
上部工分種・橋脚一体の別	横断勾配	%	【高欄・防護欄】																				
歩車区分	設計水平震度	kh=	設置場所	高欄・防護欄 の種類別	材料	形式	高さ (m)	塗装面積 (m <sup>2</sup> )	【舗装】														
重要度区分	設計活荷重	当初	歩道端(左)				m	m <sup>2</sup>	種別	車道													
路線番号	変更		車道端(左)				m	m <sup>2</sup>	厚さ	cm													
路線名称	バス路線		中央分離帯				m	m <sup>2</sup>	【照明】														
距離標	通字路		車道端(右)				m	m <sup>2</sup>	種別														
所在地	緊急輸送道路		歩道端(右)				m	m <sup>2</sup>	基数	基													
北緯	迂回路の有無		歩道端(右)				m	m <sup>2</sup>	【適用示方書】														
東経	側道橋の有無								上部工														
架設年次	遮音壁の有無		【添架物】																				
供用開始年	落下物防止柵の有無		種別	寸法	本数	重量(kg/m)	管理者		下部工														
通行制限	床版防水工の有無								下部工														
荷重	点検施設の有無	kN	【工費】																				
高さ	踏掛版の有無	m	1橋当り																				
幅	排水施設	m	上部工																				
			下部工																				
【職員(m)】																							
全職員		有効職員		左側				右側															
		地覆幅	地覆高	歩道幅	路肩幅	車道幅	車線数	中央帯	分離帯	車線数	車道幅	路肩幅	歩道幅	地覆高	地覆幅								
		m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m								
【下部工】																							
【躯体】			【基礎及び支持地盤】				【付属物】			【落橋防止システム】													
橋台	構造形式	使用材料	平均高(m) フナグ下面から	橋体表面積 (m <sup>2</sup> )	かけ渡り の有無	基礎形式	基礎長 (m)	支持地盤 土質名	N値	地盤種別	支承	形式	支承条件	個数	伸縮装置	適用基準	桁かかり長(m) 起点側	終点側	落橋防止 種類	変位制限 軸	直角	個数	
			m	m <sup>2</sup>			m			種													
			m	m <sup>2</sup>			m			種													
			m	m <sup>2</sup>			m			種													
			m	m <sup>2</sup>			m			種													
			m	m <sup>2</sup>			m			種													
			m	m <sup>2</sup>			m			種													
			m	m <sup>2</sup>			m			種													
			m	m <sup>2</sup>			m			種													
			m	m <sup>2</sup>			m			種													
【上部工】											【業者名】												
区間	材料	桁形式	構造形式	径間長 (m)	塗装面積 (m <sup>2</sup> )	施工		上部工	設計														
~				m	m <sup>2</sup>																		
~				m	m <sup>2</sup>																		
~				m	m <sup>2</sup>																		
~				m	m <sup>2</sup>																		
~				m	m <sup>2</sup>																		
~				m	m <sup>2</sup>																		



橋梁台帳(その3):現地写真

様式-3

事務所名		力子名称		路線名	
橋梁名コード		橋梁名称		所在地	
橋面		側面全景(下流側)		側面全景(上流側)	
撮影日:		撮影日:		撮影日:	
桁下状況 (A1~P1)		桁下状況 (P1~A2)		A1橋台	
撮影日:		撮影日:		撮影日:	

橋梁台帳(その4):補修・補強対策総括票

様式-4

1. 橋梁諸元

橋梁名コード	(フリガナ)			
事務所	橋梁名			
路線番号	所在地			
橋梁区分	橋長	m		
橋梁種別	径間数			
重要度区分	全幅員	m	有効幅員	m
路線名称	架橋状況	交差状況	名称	
適用示方書	架設年次	交差状況	名称	
構造形式	上部工			
	下部工			

2. 点検履歴

NO	点検種別	点検日
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

3. 作成情報

作成年月日	年	月	日
-------	---	---	---

4. 補修・補強対策内容

補修・補強コード番号	径間名(下部工名)	部位	部材区分	補修・補強年度	工程	種別	細別	単位	数量	施工業者名	設計会社名	設計年度



点検台帳(その2): 点検結果総括票(径間毎の部材別判定)

様式-B

事務所名		カナ名称		路線名										
橋梁名コード		橋梁名称		所在地										
重要度		点検種別		点検日										
径間番号		1		2		3		4		5				
損傷程度の評価		損傷程度の評価		損傷程度の評価		損傷程度の評価		損傷程度の評価		損傷程度の評価				
左側:損傷種類 右側:損傷程度		左側:損傷種類 右側:損傷程度		左側:損傷種類 右側:損傷程度		左側:損傷種類 右側:損傷程度		左側:損傷種類 右側:損傷程度		左側:損傷種類 右側:損傷程度				
上部構造	主桁													
	横桁													
	縦桁													
	対傾構													
	横構													
床版														
下部工	下部工													
支承	支承													
	路面													
	高欄・防護柵													
路上	照明・標識													
	排水施設													
備考	【所見】									【その他】(周辺環境その他気付いた事項)				
	【対応】									【点検(業)者名】				
【損傷の種類】														
①腐食			④破断			⑤鉄筋露出			⑨PC定着部の異常			⑫下部工の変状		
②亀裂			⑤ひびわれ・漏水			⑦抜け落ち			⑩路面の凹凸			⑬変色・劣化		
③ボルトの脱落			遊離石灰			⑧床版ひびわれ			⑪支承の機能障害					

点検台帳(その3): 点検結果記入票

様式-C

径間番号:   鋼部材の場合記入  コンクリート部材の場合記入  鋼部材以外の場合に記入  
 径間(下部工)名称:   コンクリート部材以外の場合に記入  必ず記入

事務所名		カナ名称		路線名										
橋梁名コード		橋梁名称		所在地										
重要度		点検種別		点検日										
損傷種類		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
部材区分		腐食	亀裂	ボルトの脱落	破断	ひびわれ・漏水・遊離石灰	鉄筋露出	抜け落ち	床版ひびわれ	PC定着部の異常	路面の凹凸	支承の機能障害	下部工の変状	変色・劣化
上部構造	主桁													
	横桁													
	縦桁													
	対傾構													
	横構													
下部工	下部工													
	起点側													
支承	支承													
	終点側													
路上	路面													
	高欄・防護柵													
	照明・標識													
排水施設	排水施設													
備考	【所見】									【その他】(周辺環境, その他気付いた事項)				
										【点検(業)者名】				

点検台帳(その4): 損傷図

様式-D

事務所名		カナ名称		路線名							
橋梁名コード		橋梁名称		所在地							
径間番号		点検項目チェック用									
径間(下部工)名称											
		部材	鋼部材	コン部材	その他	部材	鋼部材	コン部材	その他		
		上部構造	主桁	①②③④	⑤⑥⑨⑬	-	下部工	下部工	①②③④⑫	⑤⑥⑨⑫⑬	-
			横桁	①②③④			支承	⑩	-	⑪⑬	
			縦桁	①②③④	⑤⑥⑬		路面	⑭	⑯⑰		
			床版	①②③④	⑥⑦⑧⑨⑬		路上	高欄・防護柵	①②③④	⑤⑥⑬	-
			対傾構	①②③④	-		照明・標識	①②③④	-	-	
		横構	①②③④	-	排水施設	①④	-	④⑬			

点検台帳(その5): 主要損傷写真

様式-E

橋梁名コード		橋梁名称		撮影日		1 / 1
	写真番号	1		写真番号	2	
	径間番号			径間番号		
	撮影部位			撮影部位		
	損傷の種類			損傷の種類		
	損傷判定			損傷判定		
	【備考】			【備考】		
	写真番号	3		写真番号	4	
	径間番号			径間番号		
	撮影部位			撮影部位		
	損傷の種類			損傷の種類		
	損傷判定			損傷判定		
	【備考】			【備考】		
	写真番号	5		写真番号	6	
	径間番号			径間番号		
	撮影部位			撮影部位		
	損傷の種類			損傷の種類		
	損傷判定			損傷判定		
	【備考】			【備考】		



点検台帳(その6):詳細調査総括票

1. 橋梁諸元

橋梁名コード		(フリガナ)			
事務所		橋梁名			
路線番号		所在地			
橋梁区分		橋長	m		
橋梁種別		径間数			
重要度区分		全幅員	m	有効幅員	m
路線名称		架橋状況	交差状況		名称
適用示方書			交差状況		名称
構造形式	上部工	架設年次			
	下部工				

2. 作成情報

作成年月日	年	月	日
-------	---	---	---

3. 詳細調査総括表

3-1 コア各種試験

コアNo.	上下部区分	径間名 (下部工名)	部材区分	調査年月	試験名	単位	試験値	実施業者名	備考

調査方法	上下部区分	径間名 (下部工名)	部材区分	調査年月	調査結果	実施業者名

点検台帳(その7):詳細調査概要

1. 橋梁諸元

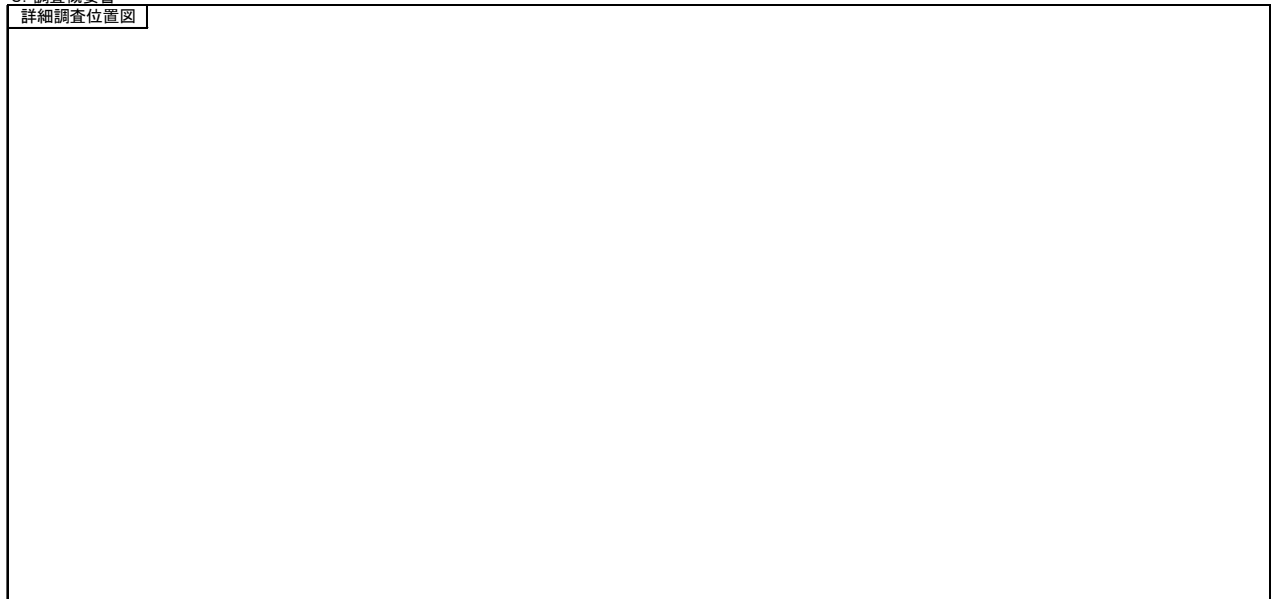
橋梁名コード		(フリガナ)			
事務所		橋梁名			
路線番号		所在地			
橋梁区分		橋長	m		
橋梁種別		径間数			
重要度区分		全幅員	m	有効幅員	m
路線名称		架橋状況	交差状況		名称
適用示方書			交差状況		名称
構造形式	上部工	架設年次			
	下部工				

2. 作成情報

作成年月日	年	月	日
実施業者名			

3. 調査概要書

詳細調査位置図



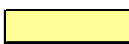
## ○トンネル編

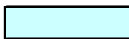
### 入力にあたっての注意事項

データ入力を行う際は、台帳整備要領(案)に従い入力するものとするが、下記の点に注意してください。

### トンネル

各様式の着色セルの意味

 対応するセルとリンクしているもの(自動反映)

 プルダウンにより選択入力するもの

※共通事項については、P121の追加方法を、参照してください

**※データ登録に際し、シートの削除は行わないでください。**

**※シート名の変更は、行わないでください。**

**※セルのコピー&貼り付け操作は、行わないでください。**

(ただし、記入項目がシート内に収まらない場合は、トンネルP121の追加方法を、参照してください。)

**※セル書式設定等の変更は、行わないでください。**

**※写真データは圧縮して貼り付けてください。**

(様式ファイルの書式設定やレイアウトが変わり、システム登録できなくなります。)



トンネル台帳(その2)

フリガナ 名称			路線名			事務所	
所在地	自	至	距離標	自	至	作成年月日	
平面図・地質縦断面図・標準断面図(・竣工図)を添付する							
	施工実績:地質縦断面図、巻厚、地山等級など						

トンネル台帳(その3)

フリガナ 名称			路線名			事務所	
所在地	自	至	距離標	自	至	作成年月日	
現地写真	起点側坑口			終点側坑口			
	トンネル内						

トンネル台帳(その4)

フリガナ 名称			路線名			事務所				
	自	至	距離標	自	至	作成年月日				
所在地	自	至	距離標	自	至	作成年月日				
補修・補強対策結果	①補修・補強 コード番号	②スパン番号	③部位区分	④補修・補強 年度	⑤工種	⑤材料	⑤数量	施工業者名	設計会社名	設計年度

トンネル台帳(その5)

フリガナ 名称			路線名			事務所				
	自	至	距離標	自	至	作成年月日				
所在地	自	至	距離標	自	至	作成年月日				
①補修・補強 コード番号	②スパン番号		③部位区分		補修・補強年度		年度			
⑤工種	⑤材料		数量		m					
位置図					写真					

トンネル点検台帳(その1)

フリガナ 名称				路線名				事務所			
所在地	自				距離標	自				作成年月日	
	至					至					

点検結果	直近点検				前回点検				前々回点検			
	点検年月日	点検者		点検年月日	点検者		点検年月日	点検者		点検年月日	点検者	
	点検種別				点検種別				点検種別			
点検箇所	健全度	対応方針	備考(スパン番号)	点検箇所	健全度	対応方針	備考(スパン番号)	点検箇所	健全度	対応方針	備考(スパン番号)	
	覆工				覆工				覆工			
	坑門				坑門				坑門			
	内装板				内装板				内装板			
	天井板				天井板				天井板			
	路面・路肩・排水施設				路面・路肩・排水施設				路面・路肩・排水施設			
所見及び対応方針												

トンネル点検台帳(その2)

フリガナ 名称				路線名				事務所			
所在地	自				距離標	自				作成年月日	
	至					至					
完成年次				左側			右側			交通条件	調査年度
点検年月日	幅員	全幅員		歩道幅	車道幅	車線	車道幅	車線	歩道幅		管理用道路幅
点検種別											(台)
点検者											(時間)
	使用器具備考										大型混入率
点検結果	スパン番号	部位区分	判定区分	変状の種類						前回との比較	対応方針
変状概要											

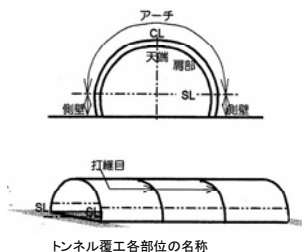
トンネル 定期点検(1) < 点検票 >

トンネル名: \_\_\_\_\_  
点検年月日: \_\_\_\_\_

箇所別判定区分	OK ... 変状はなく、あっても軽微
	NG ... 変状が著しく、専門家による点検や応急措置が必要

点検箇所	変状の種類	利用者被害の可能性のある状況	起点側 坑口	S 1 S 2 S 3 S 4 S 5 S 6 S 7 S 8 S 9 S 10 S 11 S 12 S 13 S 14 S 15 S 16 S 17 S 18 S 19 S 20																終点側 坑口			
				S 1	S 2	S 3	S 4	S 5	S 6	S 7	S 8	S 9	S 10	S 11	S 12	S 13	S 14	S 15	S 16		S 17	S 18	S 19
覆工 (アーチ)	ひび割れ、段差	ブロック化 (亀甲状) してコンクリート片が落下する可能性があるか?	*																				*
覆工 (アーチ)	うき、はく離	コンクリートのうき、はく離が見られ、その周囲部分がはく離する可能性があるか?	*																				*
覆工 (アーチ)	傾き、沈下、変形	目視により明らかに傾き、沈下、変形しているか?	*																				*
覆工 (打樫目)	打樫目の目地切れ、段差		*																				*
覆工 (アーチ、側壁)	漏水、つらら、側水	大規模な漏水、つらら、側水が見られ、交通の支障となり得るか?	*																				*
補修箇所	補修材のうき、はく離、はく離	補修材のうき、はく離、はく離が見られ、その周囲部分がはく離する可能性があるか?	*																				*
内装板※1	変形、破損	大規模な変形、破損が見られ、交通の支障となりうるか?	*																				*
路面、路肩、排水施設	段差、ひび割れ、変形	段差、ひび割れ、変形があり交通の支障となりうるか?	*																				*
坑門	ひび割れ、段差	ブロック化 (亀甲状) してコンクリート片が落下する可能性があるか?	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
坑門	うき、はく離	コンクリートのうき、はく離が見られ、その周囲部分がはく離する可能性があるか?	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
坑門	傾き、沈下、変形	目視により明らかに傾き、沈下、変形しているか?	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
坑門	鉄筋の露出	鉄筋の露出している部分の周囲は、コンクリートがはく離する可能性があるか?	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
周辺環境	周辺環境の変状	坑口背面天壁への落石、法面前端の予氷、上部樹木の根曲がりなどトンネル構造に影響が及ぶと考えられる変状が見受けられるか?	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*

※1 内装板の事故等による損傷は、健全度判定の対象としない。



総評

健全度

- ・健全度S: 変状はなく、あっても軽微
- ・健全度AもしくはB: 変状が認められ、専門家による点検・調査が必要

⇒ 定期点検 (1)

⇒ 定期点検 (2)

応急対策

- ・応急対策が必要
- ・応急対策が不要

⇒ 応急対策実施

< 記 事 >

トンネル点検台帳(その4)

フリガナ 名称			路線名			事務所		
	所在地	自 至		距離標	自 至		作成年月日	

縮尺1/300~1/400程度。 カラー表示。

トンネル点検台帳(その4)

フリガナ 名称			路線名			事務所		
所在地	自		距離標	自		作成年月日		
	至			至				
スパン番号		距離標自		距離標至				

表示	目視点検での変状種類	打音検査
----	施工目地	㊶ 濁音(ボコボコ)がし、はく落の可能性ある。
~~~~	ひび割れ(0.3mm)未満	㊷ 濁音がする。
~~~~ 5.0	ひび割れ(0.3mm)以上 数値はひび割れ開口幅(mm)	㊸ 清音を発し、反発がある。
~~~~ 2.0	段差 矢印側突出、数値は段差(mm)	打音検査により推定できる 深さ方向のひび割れの表示方法
+++++	コールドジョイント	㊹ 打音検査範囲
//////	圧ざ	<p>(推定できるひび割れの方向)</p> <p>清音 濁音</p> <p>(表示方法)</p>
	うき、はく離 (ハンマー打診異常箇所)	
	はく落(はく落跡)	
	骨材の露出(豆板部)	
	漏水(漏水量 リットル/分)	
	漏水(濡れている部分)	
	溶脱物(遊離石灰など)	
	漏水防止工(罅水工)	

縮尺1/200~1/300程度。 カラー表示。

トンネル点検台帳(その5)

フリガナ 名称			路線名			事務所		
所在地	自		距離標	自		作成年月日		
	至			至				
写真番号					写真番号			
スパン番号					スパン番号			
部位区分					部位区分			
変状の種類					変状の種類			
判定区分					判定区分			
メモ					メモ			
写真番号					写真番号			
スパン番号					スパン番号			
部位区分					部位区分			
変状の種類					変状の種類			
判定区分					判定区分			
メモ					メモ			



トンネル点検台帳(その6)

トンネル諸元				点検履歴				
フリガナ 名称	路線名		No.	点検種別	点検日	No.	点検種別	点検日
事務所	作成年月日		1			6		
所在地	自 至	距離標	2			7		
			3			8		
			4			9		
			5			10		

詳細調査総括票

コアNo.	スパン番号	部位区分	調査年月	試験名	単位	試験値	基準値(目標値)	実施業者名

調査方法	スパン番号	側線	調査年月	試験結果	実施業者名

トンネル点検台帳(その7)

トンネル諸元				点検履歴				
フリガナ 名称	路線名		No.	点検種別	点検日	No.	点検種別	点検日
事務所	作成年月日		1			6		
所在地	自 至	距離標	2			7		
			3			8		
			4			9		
			5			10		

調査概要図

調査位置図	実施業者名

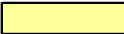
## ○舗 装 編

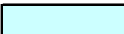
入力にあたっての注意事項

データ入力を行う際は、台帳整備要領(案)に従い入力するものとするが、下記の点に注意してください。

### 舗装

各様式の着色セルの意味

 対応するセルとリンクしているもの(自動反映)

 プルダウンにより選択入力するもの

※データ登録に際し、シートの削除は行わないでください。

※シート名の変更は、行わないでください。

※セルのコピー&貼り付け操作は、行わないでください。

※セル書式設定等の変更は、行わないでください。







添付資料 4

<記入要領>

## ○橋 梁 編

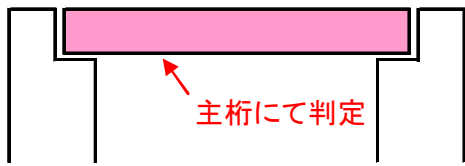
**【台帳 記入方法・記入例】**



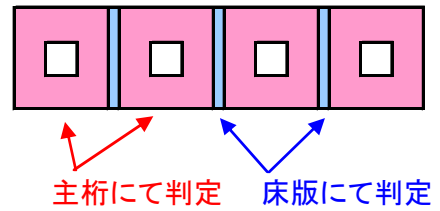
# 【各部材の判定】その1

○上部工

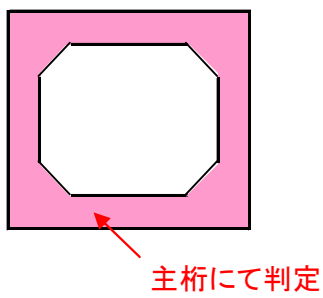
床版橋の判定



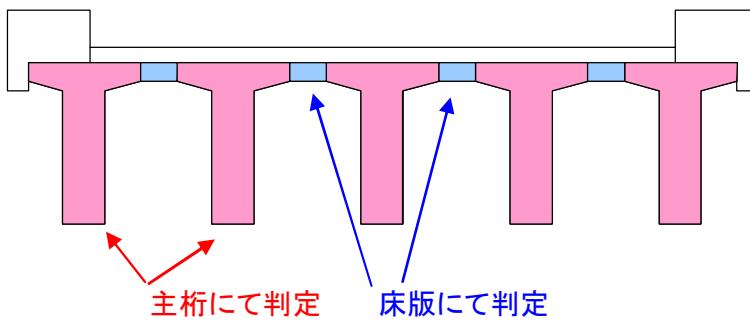
中空床版桁の判定



ボックスカルバートの判定



T桁橋の判定



T桁橋の桁下状況

床版部



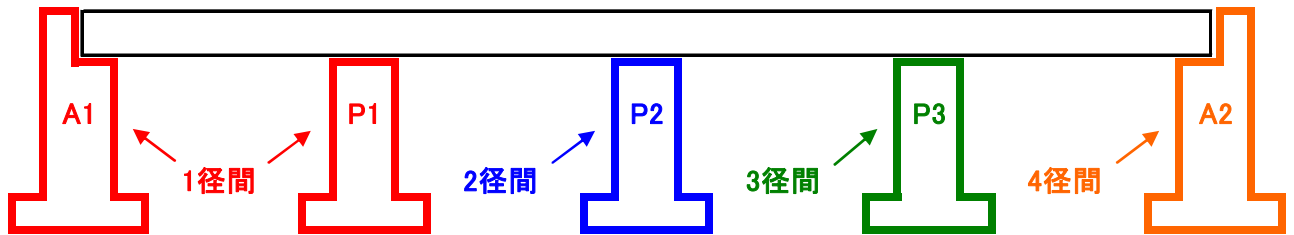
桁下(元写真)



## 【各部材の判定】その2

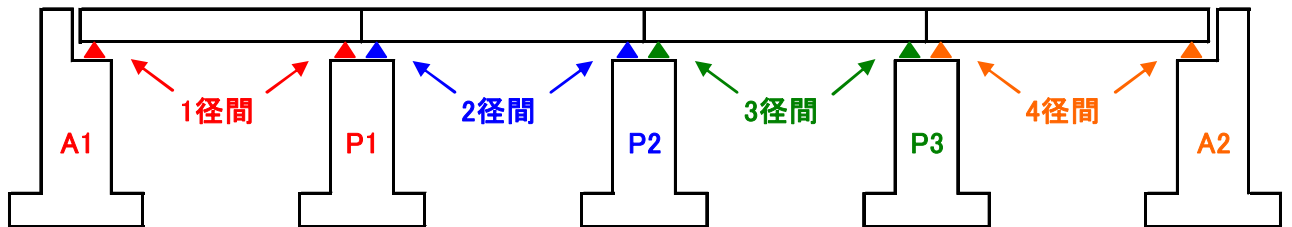
### ○下部工

下部工の判定

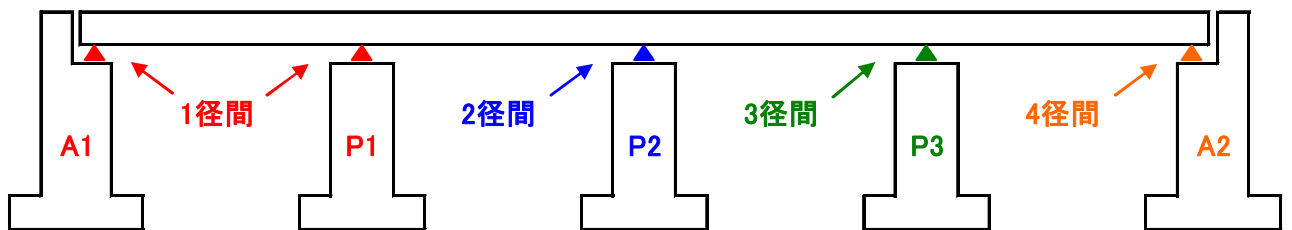


### ○支承

支承の判定(単純桁の場合)



支承の判定(連続桁の場合)



## 1. 入力規則

### 1.1 共通事項

- ・ 漢字、ひらがな、カタカナは全角とする
- ・ ローマ字および数字は半角とする
- ・ 数字はアラビア数字とする
- ・ 記載事項がない場合は、半角「\*」を記入する
- ・ 不明の場合は、半角「?」を記入する
- ・ 様式が複数枚におよぶ場合、下表の方法により追加する。

橋梁						
	様式	追加方法		様式	追加方法	備考
橋梁 台帳	様式-1	—	橋梁 点検 台帳	様式-A	—	
	様式-2	シート内		様式-B	別シート	
	様式-3	シート内		様式-C	シート内	1～35行目を行選択し、36行目に「コピーしたセルの挿入」(36行目から70行目を選択し、71行目へ繰り返し)
	様式-4	行を挿入		様式-D	シート内	
	様式-5	シート内		様式-E	シート内	
				様式-F	行を挿入	行選択し、下に「コピーしたセルの挿入」により行を追加する
				様式-G	シート内	

— : 複数ページとはならない。

シート内 : 複数ページとなる場合、シート内(下へ)にページを追加する。

別シート : 複数ページとなる場合、別シート(右横)にページを追加する。

行を挿入 : ページに入らない場合は、行を「コピーしたセルの挿入」をする。

※1 シート名、追加シート名の変更は行わないこと。

※2 様式3を更新する場合は、シート内に追加コピーし、作成すること。

(前回の撮影時期や現況写真を残すため撮影年月日を必ず記入)


### 1.2 各様式の入力例と入力規則


次ページに各様式の入力例とその入力規則を示す。


用語を入力する項目については、データベース登録の便宜上、次ページ以降に示すコード表を基に入力すること。


## I. 橋梁台帳(その1):基本諸元の記入方法

様式-1 基本諸元は以下の内容に沿って入力を行うこととする。

で着色されている項目は、以下の1～52に示す記入方法で入力を行う。

で着色されている項目は半角数字の整数で入力を行う

で着色されている項目は半角数字で小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位まで入力を行う。

で着色されている項目は半角数字で小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位まで入力を行う。

### 1. 橋梁名コード・事務所

橋梁名コードは8桁の数字とする。

※橋梁コードについては、道路維持課補修係にて一括管理とする。

例) 

06	2	079	01
└───┘	└──┘	└───┘	└──┘
2桁	1桁	3桁	2桁

  
(事務所番号) (道別) (路線番号) (通し番号)

#### ・事務所番号

事務所番号は、下表の通りとする。

コード	コード内容	備考
01	福岡県土整備事務所	旧福岡土木事務所
02	久留米県土整備事務所	旧久留米土木事務所
03	南筑後県土整備事務所柳川支所	旧柳川土木事務所
04	直方県土整備事務所	旧直方土木事務所
05	京築県土整備事務所行橋支所	旧行橋土木事務所
06	福岡県土整備事務所前原支所	旧前原土木事務所
07	朝倉県土整備事務所	旧朝倉土木事務所
08	八女県土整備事務所	旧八女土木事務所
09	北九州県土整備事務所	旧北九州土木事務所
10	田川県土整備事務所	旧田川土木事務所
11	飯塚県土整備事務所	旧飯塚土木事務所
12	那珂県土整備事務所	旧那珂土木事務所
13	南筑後県土整備事務所	旧大牟田土木事務所
14	京築県土整備事務所	旧豊前土木事務所
15	北九州県土整備事務所宗像支所	旧宗像土木事務所

注) 事務所記入欄についても上表による。

#### ・道路種別

コード	コード内容	備考
1	一般国道	
2	主要地方道	
3	一般県道	

注) 路線名称欄には、一般国道10号(数字半角)、主要地方道〇〇線、一般県道△△線(全角)とし、バイパスについては、BP(半角)と入力する。

### 2. 橋梁名フリガナ

橋梁名のフリガナを全角カタカナで入力を行う。

### 3. 橋梁区分

橋梁区分は、下表の通りとする。

コード	コード内容	備考
1	上下線一体 本線橋	
2	上下線分離 上り本線橋	
3	上下線分離 上り線側 側道橋	
4	上下線分離 上り線側 ランプ橋	
5	上下線分離 下り本線橋	
6	上下線分離 下り線側 側道橋	
7	上下線分離 下り線側 ランプ橋	
97	その他	上記以外

### 4. 橋梁種別

橋梁種別は、下表の通りとする。

コード	コード内容	備考
11	跨線橋	
12	跨道橋	
13	河川橋	
97	その他	上記以外
98	*	無し
99	?	不明

### 5. 橋の等級

橋の等級は、下表の通りとする。

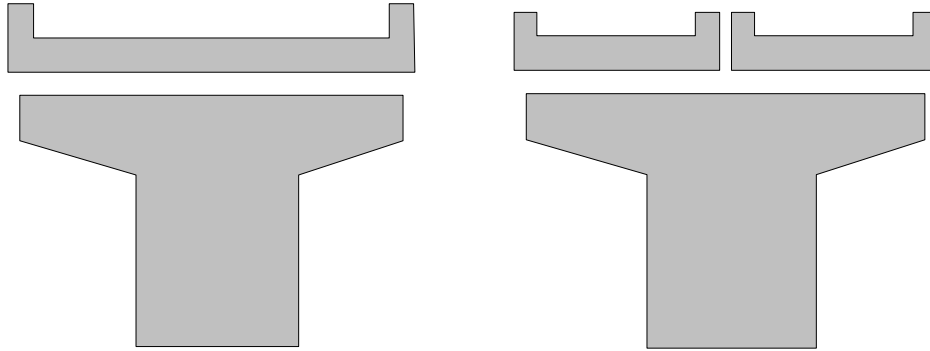
コード	コード内容	備考
11	1等橋	
12	2等橋	
13	3等橋	
97	その他	上記以外
98	*	無し
99	?	不明

注)A種の橋ならびにB種の橋【道示:橋の重要度の区分】の場合は「\*」を記載する。

## 6. 上部工分離・橋脚一体の別

上部工分離・橋脚一体の別は、下表の通りとする。

コード	コード内容	備考
11	上部工一体・橋脚一体構造	
12	上部工分離・橋脚一体構造	
13	上部工分離・橋脚分離構造	
98	*	無し
99	?	不明



11 上部工一体  
橋脚一体構造

12 上部工分離  
橋脚一体構造

13 上部工分離  
橋脚分離構造

## 7. 歩車道区分

歩車道区分は、下表の通りとする。

コード	コード内容	備考
15	車道	
16	車道+自歩道	
17	車道+歩行者専用歩道	
18	車道+自転車専用歩道	
19	自歩道専用歩道橋	側道橋の場合
20	歩行者専用歩道橋	側道橋の場合
21	自転車専用橋	側道橋の場合
98	*	無し
99	?	不明

## 8. 重要度区分

重要度区分は、下表の通りとする。

コード	コード内容	備考
11	グループ1 交差条件	跨道橋、跨線橋
12	グループ2 緊急輸送道路 迂回路がない橋梁	1次、2次ネットワーク
13	グループ3 交通量	10,000台以上
14	グループ4 橋長	15m以上 (14.5m～)
15	グループ5	上記以外

※ 上位の「グループ1」から順に参照する。

## 9. 距離標

A1橋台の距離標を半角数字で小数点1桁まで記入を行う。  
(記入例:10km+150.5)

## 10. 北緯

○° ○′ ○″  
A1橋台位置の北緯を 度 分 秒 で記入を行う。秒は小数点1桁まで記入  
(記入例:33° 45′ 05″ の場合→334505)  
※わからない場合は「?」ではなく⇒000000と入力 「?」マークはエラー表示になる。

## 11. 東経

○° ○′ ○″  
A1橋台位置の東経を 度 分 秒 で記入を行う。秒は小数点1桁まで記入  
(記入例:134° 50′ 05″ の場合→1345005)  
※わからない場合は「?」ではなく⇒000000と入力 「?」マークはエラー表示になる。

## 12. 架設年次

架設年次は、橋梁の完成年とし、西暦で記載する。(下部工のみ完成は空欄)  
例) 2006年11月

## 13. 供用開始年

供用開始年は、供用を開始した年とし、西暦で記載する。(下部工事のみ完成は空欄)  
例) 2006年12月

## 14. 平面形状

平面形状は、下表の通りとする。

コード	コード内容	備考
11	直橋(直角橋)	
12	斜橋	
13	曲線橋	
14	直橋+斜橋	
15	直橋+曲線橋	
16	斜橋+曲線橋	
97	その他	上記以外
98	*	無し
99	?	不明

## 15. バス路線

バス路線は、下表の通りとする。

コード	コード内容	備考
11	指定あり	
12	指定なし	
98	*	無し
99	?	不明

## 16. 通学路

通学路は、下表の通りとする。

コード	コード内容	備考
11	指定あり	
12	指定なし	
98	*	無し
99	?	不明

## 17. 緊急輸送道路

緊急輸送道路は、下表の通りとする。

コード	コード内容	備考
11	1次	
12	2次	
13	対象外	
98	*	無し
99	?	不明

## 18. 交差状況

交差条件は、下表の通りとする。

コード	コード内容	備考
11	道路	
12	鉄道	
13	河川	
14	開水路	
15	湖沼	
16	海域	
97	その他	上記以外
98	*	無し
99	?	不明

## 19. 名称・交差角

交差条件の名称を記載する。

例) △級河川〇〇川、(主)〇〇□□線、JRO〇線、西鉄〇〇線など

※交差角については、半角整数のみ入力

## 20. 計画流量、(建築限界高)

交差物が河川の場合は計画流量、道路の場合は建築限界高を入力

計 画 流 量：単位m<sup>3</sup>/secで入力、但し半角で数字のみを入力すること。

(単位は記載しない)

建 築 限 界 高：単位mで入力、但し半角で数字のみを入力すること。

(単位は記載しない)

## 21. DID

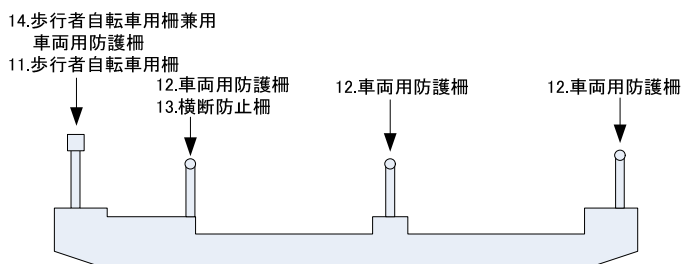
DIDは、下表の通りとする。

コード	コード内容	備考
11	対象	
12	対象外	
98	*	無し
99	?	不明

## 22. 高欄・防護柵の種別

高欄・防護柵の種別は、下表の通りとする。

コード	コード内容	備考
11	歩行者自転車用柵	歩行者等の転落防止を目的とした柵
12	車両用防護柵	車両の路外への逸脱防止を目的とした柵
13	横断防止柵	横断抑止を目的とした柵
14	歩行者自転車用柵兼用 車両用防護柵	歩行者等の転落防止と車両の路外への逸脱防止を目的とした柵
98	*	無し
99	?	不明





### 23. 材料(高欄・防護柵)

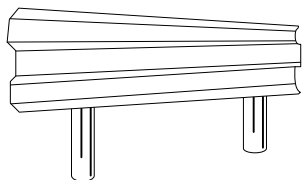
材料(高欄・防護柵)は、下表の通りとする。

コード	コード内容	備考
11	鋼	
12	コンクリート	
97	その他	上記以外
98	*	無し
99	?	不明

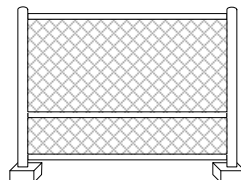
### 24. 形式(高欄・防護柵)

形式(高欄・防護柵)は、下表の通りとする。

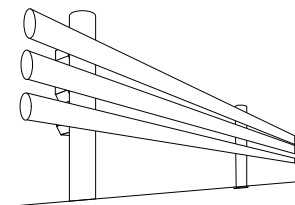
コード	コード内容	備考
11	ガードレール	
12	ガードフェンス	
13	ガードパイプ	
14	コンクリート壁式	
15	橋梁用防護柵	
97	その他	上記以外
98	*	無し
99	?	不明



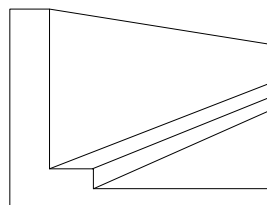
11 ガードレール



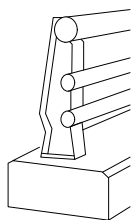
12 ガードフェンス



13 ガードパイプ



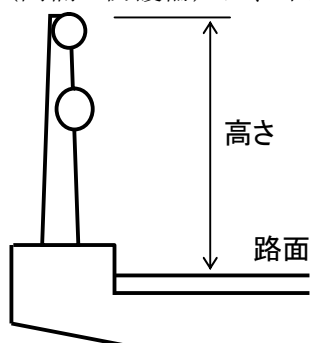
14 コンクリート壁式



15 橋梁用防護柵

### 25. 高さ(高欄・防護柵)

高さ(高欄・防護柵)は、下図の高さとする。



## 26. 種別(舗装)

種別(舗装)は、下表の通りとする。

コード	コード内容	備考
11	アスファルト	
12	コンクリート	
13	樹脂系	※1
14	ブロック系	※1
97	その他	上記以外
98	*	無し
99	?	不明

※1 舗装設計施工指針/H13/12 歩道及び自転車の舗装種類より、項目を抽出した。

## 27. 材料(床版)

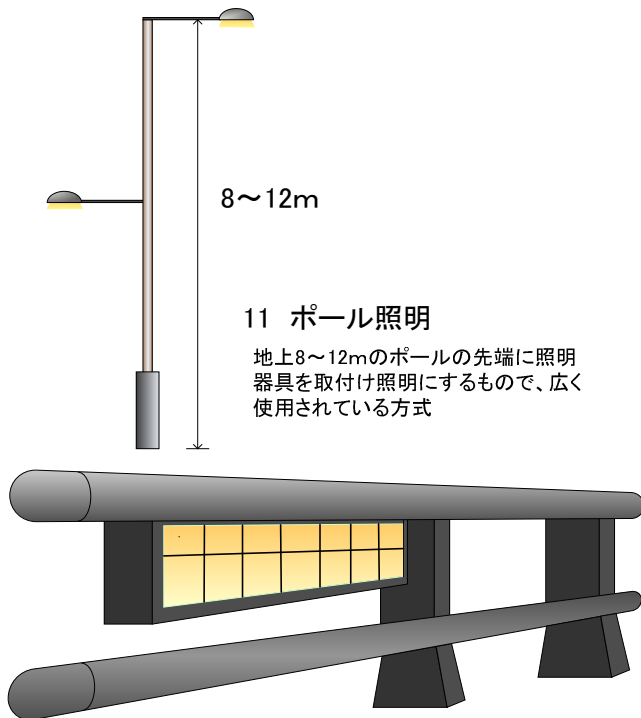
材料(床版)は、下表の通りとする。

コード	コード内容	備考
11	鋼系	
12	コンクリート系	
97	その他	上記以外
98	*	無し
99	?	不明

## 28. 種別(照明)

種別(照明)は、下表の通りとする。

コード	コード内容	備考
11	ポール照明	
12	高欄照明	
13	ハイマスト照明	
97	その他	上記以外
98	*	無し
99	?	不明

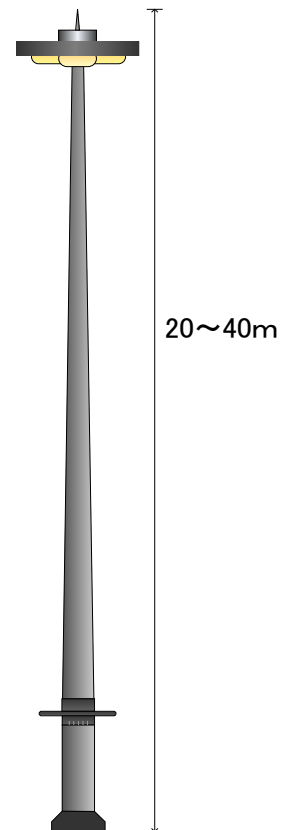


11 ポール照明

地上8~12mのポールの先端に照明器具を取付け照明にするもので、広く使用されている方式

12 高欄照明(高架橋照明)

ポール照明方式が採用できない所で高欄に低ワットの灯具を取付けて道路を照明する方式



13 ハイマスト照明

照明塔などによる高所からの照明で、通常地上高20~40m程度の照明塔に大容量の光源を多数取付けて照明する方式

## 29. 適用示方書(上部工)

適用示方書(上部工)は、下表の通りとする。

コード	コード内容	備考
11	大正15年 道路構造に関する細則案	
12	昭和6年 鉄筋コンクリート標準示方書	
13	昭和11年 鉄筋コンクリート標準示方書	
14	昭和14年 鉄道路橋設計示方書案、鋼道路橋製作示方書案	
15	昭和15年 鉄筋コンクリート標準示方書	
16	昭和24年 コンクリート標準示方書	
17	昭和30年 プレストレスコンクリート設計施工指針	
18	昭和31年 鋼道路橋設計示方書	
19	昭和31年 コンクリート標準示方書	
20	昭和36年 プレストレスコンクリート設計施工指針	
21	昭和39年 コンクリート標準示方書	
22	昭和39年 鉄筋コンクリート道路橋設計示方書	
23	昭和39年 鋼道路橋設計示方書(改訂)	
24	昭和43年 プレストレスコンクリート道路橋設計示方書	
25	昭和47年 道路橋示方書	
26	昭和53年 プレストレスコンクリート標準示方書	
27	昭和53年 道路橋示方書	
28	昭和55年 道路橋示方書	
29	昭和59年 道路橋鉄筋コンクリート床版の設計・施工指針	
30	平成2年 道路橋示方書	
31	平成3年 プレストレスコンクリート工法設計施工指針	
32	平成6年 道路橋示方書	
33	平成8年 道路橋示方書	
34	平成14年 道路橋示方書	
98	*	無し
99	?	不明

※ ボックスカルバートの場合は「\*」を入力すること。

## 30. 適用示方書(下部工)

適用示方書(下部工)は、下表の通りとする。

コード	コード内容	備考
11	大正3年 鉄筋混泥土橋梁設計心得	
12	昭和6年 鉄筋コンクリート標準示方書	
13	昭和11年 鉄筋コンクリート標準示方書	
14	昭和15年 鉄筋コンクリート標準示方書	
15	昭和24年 コンクリート標準示方書	
16	昭和31年 コンクリート標準示方書	
17	昭和39年 道路橋下部構造設計指針:くい基礎の設計篇	
18	昭和41年 道路橋下部構造設計指針:調査及び設計一般篇	
19	昭和42年 コンクリート標準示方書	
20	昭和43年 道路橋下部構造設計指針:橋台・橋脚の設計篇	
21	昭和43年 道路橋下部構造設計指針:直接基礎の設計篇	
22	昭和43年 道路橋下部構造設計指針:くい基礎の施工篇	
23	昭和45年 道路橋下部構造設計指針:ケーソン基礎の設計篇	
24	昭和48年 道路橋下部構造設計指針:場所打ちくい基礎の設計施工篇	
25	昭和49年 コンクリート標準示方書	
26	昭和51年 道路橋下部構造設計指針:くい基礎の設計篇	
27	昭和52年 道路橋下部構造設計指針:ケーソン基礎の施工篇	
28	昭和55年 道路橋示方書	
29	昭和61年 コンクリート標準示方書	
30	平成2年 道路橋示方書	
31	平成3年 コンクリート標準示方書	
32	平成6年 道路橋示方書	
33	平成8年 道路橋示方書	
34	平成8年 コンクリート標準示方書	
35	平成14年 道路橋示方書	
98	*	無し
99	?	不明

※ ボックスカルバートの場合は「\*」を入力すること。

### 31. 種別(添架物)

種別(添架物)は、下表の通りとする。

コード	コード内容	備考
11	上水道	
12	工業用水道	
13	農業用水	
14	下水道	
15	電力	
16	電話	
17	ガス	
18	道路情報板	
19	道路標識	
20	通信ケーブル等	
21	ITV	
97	その他	上記以外
98	*	無し
99	?	不明

### 32. 橋台、橋脚

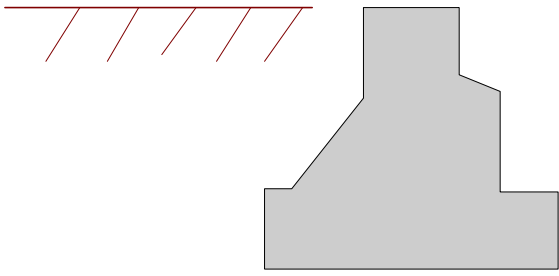
橋台名もしくは、橋脚名を記載する。

例) 橋台名の場合:A1 橋脚名の場合:P1

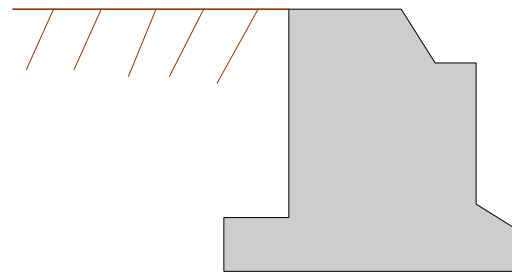
### 33. 構造形式(下部工)

構造形式(下部工)は、下表の通りとする。

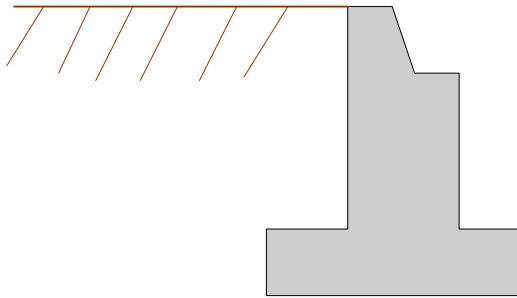
コード	コード内容	備考
11	重力式橋台	
12	半重力式橋台	
13	逆T式橋台	
14	控え壁式橋台	
15	ラーメン橋台	
16	箱式橋台	
17	盛りこぼし橋台	
18	小橋台	
19	その他(橋台)	
20	壁式橋脚	
21	張出し式橋脚(円)	
22	張出し式橋脚(小判)	
23	張出し式橋脚(角)	
24	ラーメン橋脚(円)	
25	ラーメン橋脚(小判)	
26	ラーメン橋脚(角)	
27	多層ラーメン橋脚(円)	
28	多層ラーメン橋脚(小判)	
29	多層ラーメン橋脚(角)	
30	パイルベント橋脚	
36	アーチ拱抬	
37	その他(橋脚)	
98	*	無し、ボックスカルバート等
99	?	不明



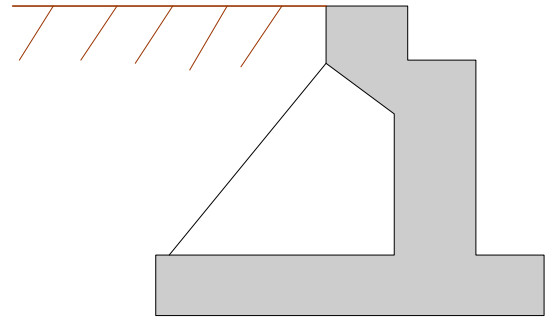
11 重力式橋台



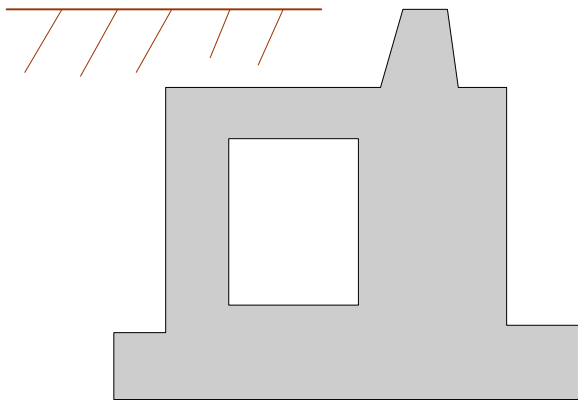
12 半重力式橋台



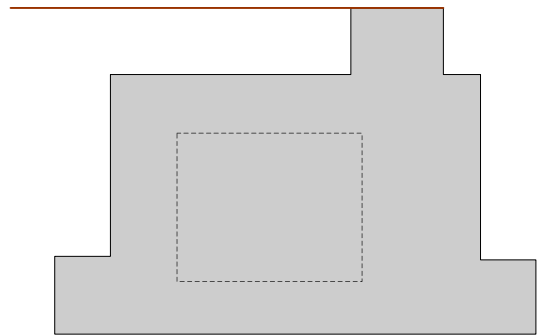
13 逆T式橋台



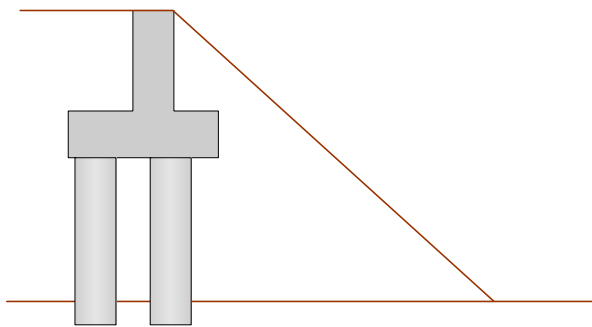
14 控え壁式橋台



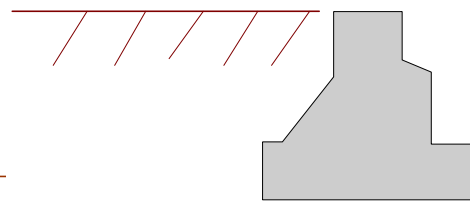
15 ラーメン橋台



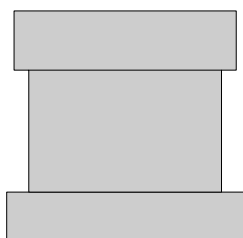
16 箱式橋台



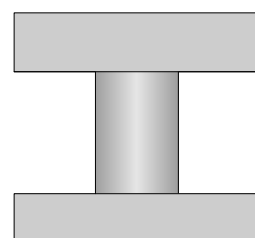
17 盛りこぼし橋台



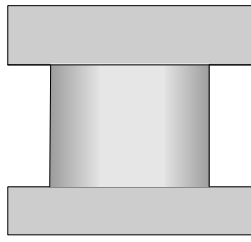
18 小橋台



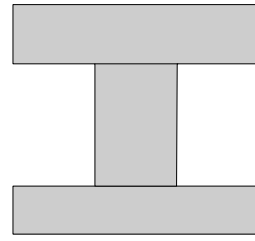
20 壁式橋台



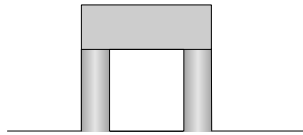
21 張出し式橋脚(円)



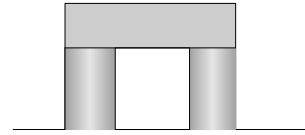
22 張出し式橋脚(小判)



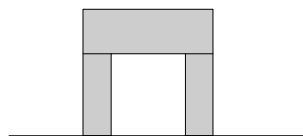
23 張出し式橋脚(角)



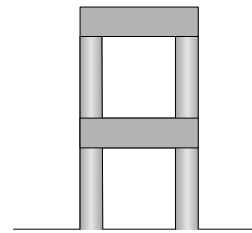
24 ラーメン橋脚(円)



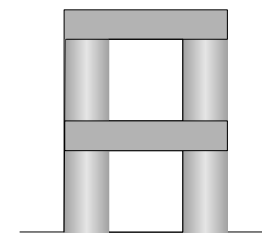
25 ラーメン橋脚(小判)



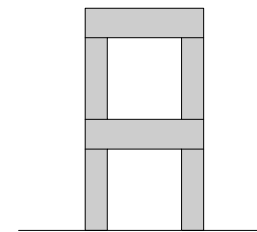
26 ラーメン橋脚(角)



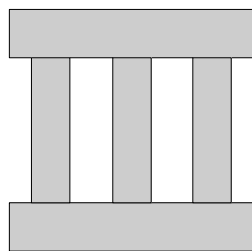
27 多層ラーメン橋脚(円)



28 多層ラーメン橋脚(小判)



29 多層ラーメン橋脚(角)



30 パイルベント橋脚

### 34. 使用材料(下部工)

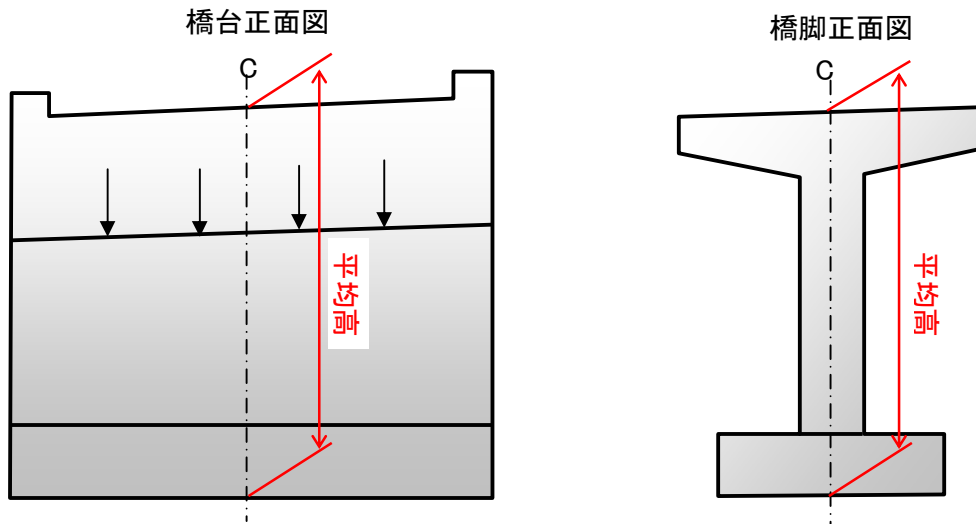
使用材料(下部工)は、下表の通りとする。

コード	コード内容	備考
11	鋼	
12	コンクリート	
97	その他	上記以外
98	*	無し
99	?	不明

### 35. 平均高(下部工)

平均高(下部工)は、下図の通りとする。

※半角数字で小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位まで入力を行う。

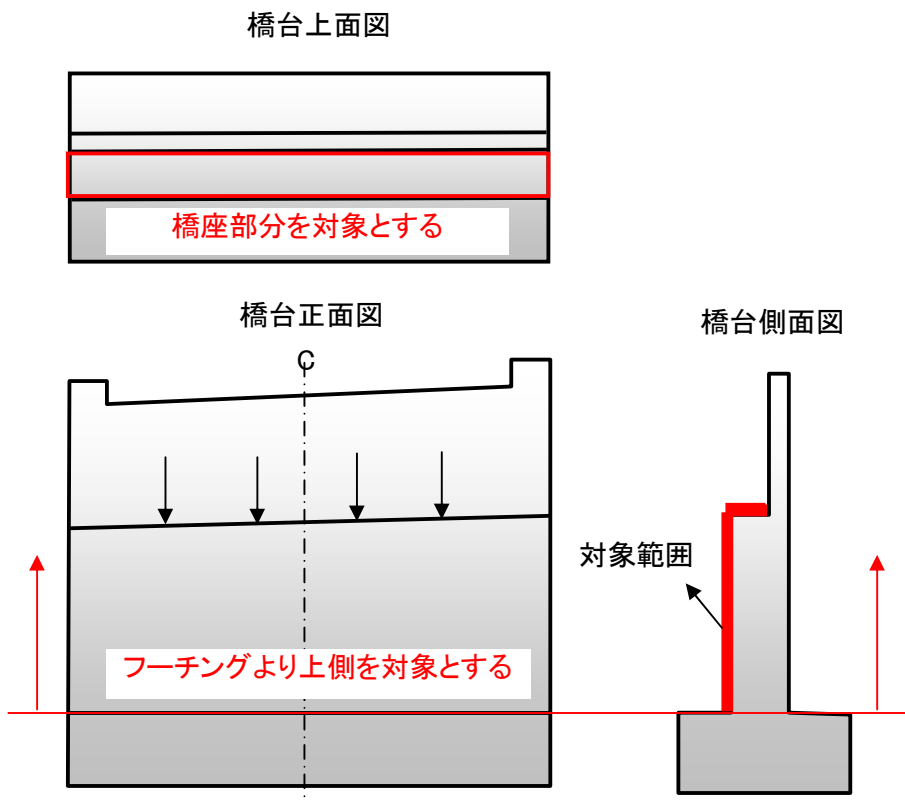


### 36. 表面積

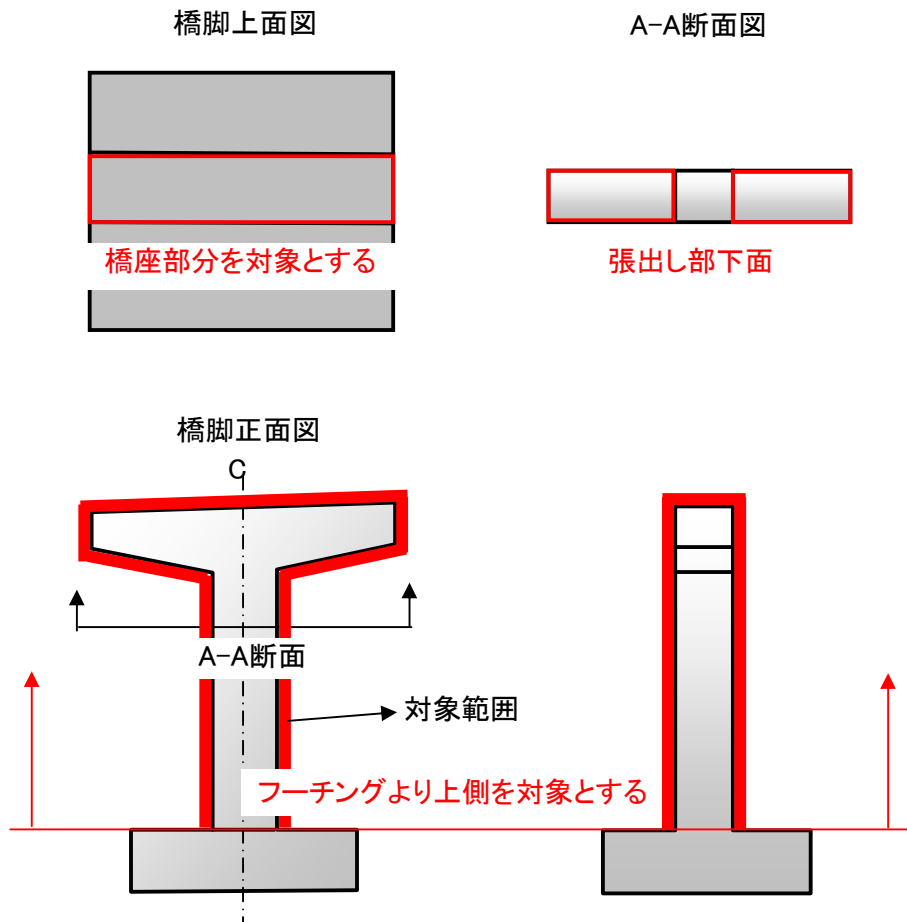
表面積は、下図の通りとする。

※半角数字で小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位まで入力を行う。

橋台部分は正面及び上面、側面の表面積を算出し、入力を行う。



橋脚部は地上に露出している面（立面、側面、上面）の表面積を算出し、入力を行う。



### 37. 基礎形式

基礎形式は、下表の通りとする。（直接基礎の場合は、杭長\*）

コード	コード内容	備考
11	直接基礎	
12	オープンケーソン	
13	ニューマチックケーソン	
14	鋼管ウエル	
15	場所打ぐい(深礎を含む)	
16	既製鋼ぐい	
17	既製RCぐい	
18	既製PCぐい	
19	木ぐい	
97	その他	上記以外
98	*	無し
99	?	不明

### 38. 土質名(支持地盤)

土質名(支持地盤)は、下表の通りとする。

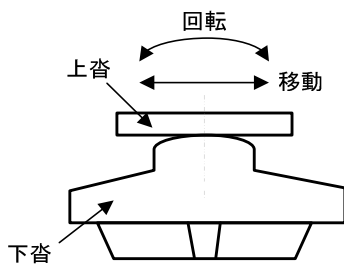
コード	コード内容	備考
11	砂質土	
12	砂れき	
13	粘性土	
14	岩盤	
98	*	無し
99	?	不明



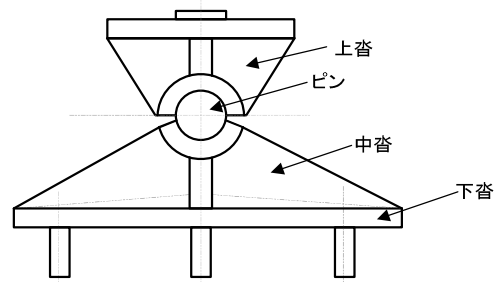
### 39. 形式(支承)

形式(支承)は、下表の通りとする。

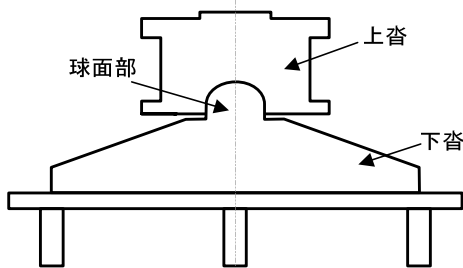
コード	コード内容	備考
11	線支承	
12	ピン支承	
13	ピボット支承	
14	コンクリートヒンジ支承	
15	1本ローラー支承	
16	複数ローラー支承	
17	ロッカー支承	
18	支承板支承	
19	ゴム支承	
20	剛構造	
97	その他	上記以外
98	*	無し
99	?	不明



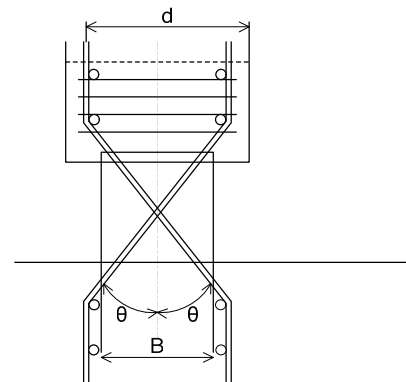
12 線支承



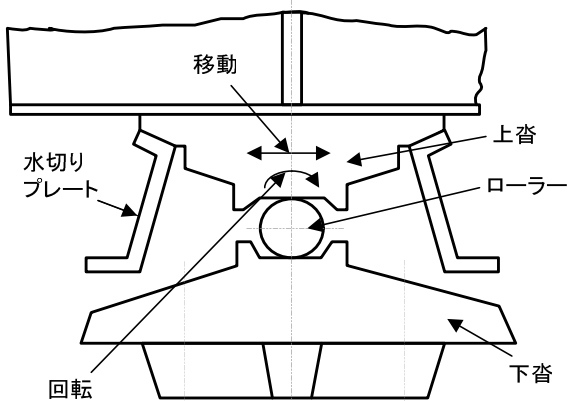
13 ピン支承



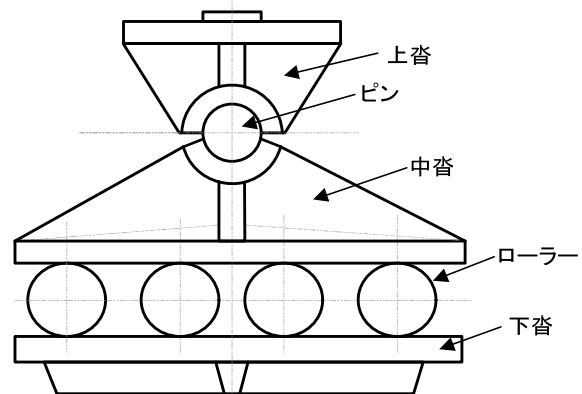
14 ピボット支承



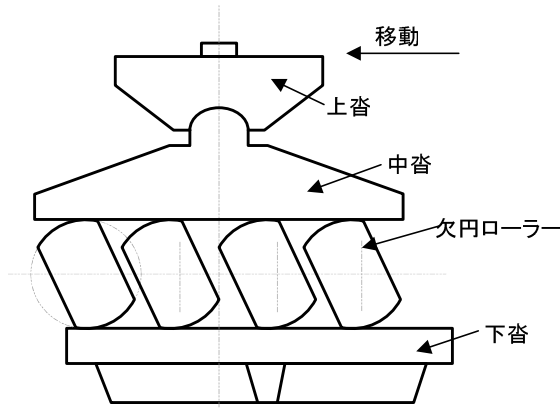
15 コンクリートヒンジ支承



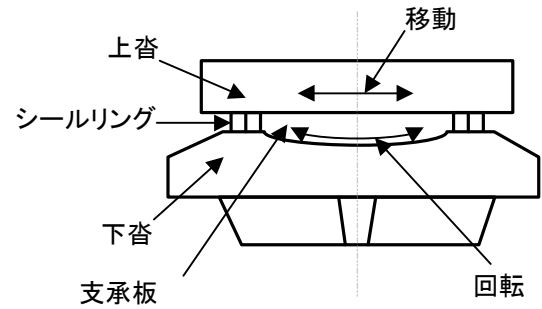
16 1本ローラー支承



17 複数ローラー支承



18 ロッカー支承



19 支承板支承

#### 40. 支承条件

支承条件は、下表の通りとする。

コード	コード内容	備考
11	固定	
12	可動	
13	弾性	
14	剛結(ラーメン)	
97	その他	上記以外
98	*	無し
99	?	不明

#### 41. 伸縮装置

伸縮装置は、下表の通りとする。

コード	コード内容	備考
11	ゴムジョイント	
12	鋼製	
13	埋設ジョイント	
97	その他	上記以外
98	*	無し
99	?	不明

#### 42. 適用基準(落橋防止システム)

適用基準(落橋防止システム)は、下表の通りとする。

コード	コード内容	備考
11	S41指針	S41道路橋下部構造設計指針
12	S47指針	S47道路橋耐震設計指針・同解説
13	S55示方書	S55道路橋示方書・同解説
14	H2示方書	H2道路橋示方書・同解説
15	H8示方書	H8道路橋示方書・同解説
16	H14示方書	H14道路橋示方書・同解説
97	その他	上記以外
98	*	無し
99	?	不明

#### 43. 落橋防止構造の種類

落橋防止構造の種類は、下表の通りとする。

コード	コード内容	備考
12	上下部工を連結	
13	上部工を相互に連結	
14	突起を設ける構造(鋼)	
15	突起を設ける構造(コンクリート)	
16	桁かかりを確保	
97	その他	上記以外
98	*	無し
99	?	不明

注) 1つの下部工に複数種類の落橋防止構造がある場合は、個数の多い方の種類を記載する。  
同数の場合は、コードの若番を優先する。

#### 44. 変位制限構造の種類

変位制限構造の種類は、下表の通りとする。

コード	コード内容	備考
12	上下部工を連結	
13	上部工を相互に連結	
14	突起を設ける構造(鋼)	
15	突起を設ける構造(コンクリート)	
16	支承移動制限装置	
97	その他	上記以外
98	*	無し
99	?	不明

注) 1つの下部工に複数種類の変位制限構造がある場合は、個数の多い方の種類を記載する。  
同数の場合は、コードの若番を優先する。

#### 45. 個数【落橋防止システム】

個数の欄は、落橋防止構造と変位制限構造(橋軸・直角)の個数の合計を記載する。

なお、帯状のものは1個としてカウントする。

例1) 落橋防止構造 2個、変位制限構造(橋軸)3個、(直角)3個の場合 ⇒ 8個

例2) 落橋防止構造 なし、変位制限構造(橋軸)4個、(直角)2個の場合 ⇒ 6個

例3) 落橋防止構造(帯状)、変位制限構造(橋軸)なし、(直角)4個の場合 ⇒ 5個

#### 46. 材料(上部工)

材料(上部工)は、下表の通りとする。

コード	コード内容	備考
11	鋼	
12	RC	
13	PC	
14	SRC	
15	石	
16	木	
97	その他	上記以外
98	*	無し
99	?	不明

#### 47. 桁形式(上部工)

桁形式(上部工)は、下表の通りとする。

コード	コード内容	備考
11	単純桁	
12	連続桁	
13	ゲルバー桁	
14	連結桁	
97	その他	上記以外
98	*	無し
99	?	不明

#### 48. 構造形式(上部工)

構造形式(上部工)は、下表の通りとする。

コード	分類1	分類2	構造形式	備考
11	鋼	I桁	鋼I桁	
12		H桁	鋼H桁	
13		箱桁	鋼箱桁	
14		トラス	鋼トラス	
15		アーチ	鋼アーチ	
16		ラーメン	鋼ラーメン	
17		斜張橋	鋼斜張橋	
18		吊橋	鋼吊橋	
19		その他	その他(鋼)	上記以外
21		RC	床版橋	RC床版橋
22	T桁		RCT桁	
23	箱桁		RC箱桁	
24	トラス		RCTラス	
25	アーチ		RCアーチ	
26	ラーメン		RCラーメン	
27	BOXカルバート		RCBOXカルバート	
28	その他		その他(RC)	上記以外
31	PC	プレテン床版橋	PCプレテン床版橋	
32		ポステン床版橋	PCポステン床版橋	
33		プレテンT桁	PCプレテンT桁	
34		ポステンT桁	PCポステンT桁	
35		プレテン箱桁	PCプレテン箱桁	
36		ポステン箱桁	PCポステン箱桁	
37		トラス	PCTラス	
38		アーチ	PCアーチ	
39		ラーメン	PCラーメン	
40		BOXカルバート	PCBOXカルバート	
41	その他	その他(PC)	上記以外	
51	その他		その他	木、石、SRC含む
98			*	無し
99			?	不明

#### 49. 径間長

橋台側では、橋台の parapet 面から橋脚の中心までの距離  
橋脚部では、橋脚中心間の距離

#### 50. 施工(上部工)

施工(上部工)は、新設時の上部工の施工業者名を記載する。  
業者が複数の場合(JV等)は、例2)のような記載とする。

例1) 単独の場合 (株)〇〇建設

例2) 複数(JV)の場合 △△工業(株)・(株)□□JV

※補修補強工事及び点検時の場合は記入不要

#### 51. 施工(下部工)

施工(下部工)は、新設時の下部工の施工業者名を記載する。  
業者が複数の場合(JV等)は、例2)のような記載とする。

例1) 単独の場合 (株)■ ■建設

例2) 複数(JV)の場合 △△工業(株)・(株)□□JV

※補修補強工事及び点検時の場合は記入不要

#### 52. 設計

設計は、設計会社名を記載する。

設計会社が複数の場合(JV等)は、例2)のような記載とする。

例1) 単独の場合 (株)△△コンサルタント

例2) 複数(JV)の場合 (株)△△設計・□□コンサルタント(株)JV

※下部工および上部工で、それぞれ9基(橋台・橋脚)、6径間を超える場合の記入方法

1 ページ目の下部工の欄を越える場合は、続きを2 ページ目に記載する。

また上部工の欄を越える径間も同様に、続きを2 ページ目に記載する。

# 橋梁台帳(その1):基本諸元

※座標から緯度・経度の変換は、国土地理院測地部の下記のアドレスにて、変換可能  
 アドレス: <http://vldb.gsi.go.jp/sokuchi/surveycalc/xy2blf.html> (なお、HP中の座標系は「2」を入力する)

様式-1

Ver 20111201

橋梁コード		橋長		作成年月日		改訂年月日		年		月		日															
橋梁コード	1	橋長	m	作成年月日		改訂年月日		年		月		日															
事務所	1	径間数		【架橋状況】		【交通条件】		調査年度		年		台/日															
(フリガナ)		橋面積	m <sup>2</sup>	交差状況		名称		管理者		交差角	°	計画河川 (鉄道道路幅)															
橋梁名	2	平面形状	14	交差状況	18	名称	19	管理者		交差角	°	計画河川 (鉄道道路幅)															
橋梁区分	3	斜角		交差状況	18	名称	19	管理者		交差角	°	計画河川 (鉄道道路幅)															
橋梁種別	4	最小半径	m	交差状況	18	名称	19	管理者		交差角	°	計画河川 (鉄道道路幅)															
橋の等級	5	横断勾配	%	交差状況	18	名称	19	管理者		交差角	°	計画河川 (鉄道道路幅)															
上部工分離・橋脚一体の別	6	縦断勾配	%	交差状況	18	名称	19	管理者		交差角	°	計画河川 (鉄道道路幅)															
歩車区分	7	設計水平震度	当初	交差状況	18	名称	19	管理者		交差角	°	計画河川 (鉄道道路幅)															
重要区分	8	設計活荷重	変更	交差状況	18	名称	19	管理者		交差角	°	計画河川 (鉄道道路幅)															
路線番号		バス路線	15	交差状況	18	名称	19	管理者		交差角	°	計画河川 (鉄道道路幅)															
路線名称		通学路	16	交差状況	18	名称	19	管理者		交差角	°	計画河川 (鉄道道路幅)															
距離標		緊急輸送道路	17	交差状況	18	名称	19	管理者		交差角	°	計画河川 (鉄道道路幅)															
所在地		迂回路の有無		交差状況	18	名称	19	管理者		交差角	°	計画河川 (鉄道道路幅)															
北緯		側道橋の有無		交差状況	18	名称	19	管理者		交差角	°	計画河川 (鉄道道路幅)															
東経		遮音壁の有無		交差状況	18	名称	19	管理者		交差角	°	計画河川 (鉄道道路幅)															
架設年次	10	落下物防止柵の有無		交差状況	18	名称	19	管理者		交差角	°	計画河川 (鉄道道路幅)															
供用開始年	12	床版防水工の有無		交差状況	18	名称	19	管理者		交差角	°	計画河川 (鉄道道路幅)															
通行制限	13	点検施設の有無		交差状況	18	名称	19	管理者		交差角	°	計画河川 (鉄道道路幅)															
荷重	kN	踏掛版の有無		交差状況	18	名称	19	管理者		交差角	°	計画河川 (鉄道道路幅)															
高さ	m	排水施設		交差状況	18	名称	19	管理者		交差角	°	計画河川 (鉄道道路幅)															
幅	m	管所		交差状況	18	名称	19	管理者		交差角	°	計画河川 (鉄道道路幅)															
【幅員(m)】				交差状況	18	名称	19	管理者		交差角	°	計画河川 (鉄道道路幅)															
全幅員	m	有効幅員	m	交差状況	18	名称	19	管理者		交差角	°	計画河川 (鉄道道路幅)															
【下部工】				交差状況	18	名称	19	管理者		交差角	°	計画河川 (鉄道道路幅)															
橋台	32	基礎長	m	基礎形式	37	基礎種別		伸縮装置		形式	39	支承条件	40	個数		適用基準	42	終点側		変位制限		軸	44	直角	44	個数	45
橋脚		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
33		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準		終点側		変位制限		軸		直角		個数	
		基礎長	m	基礎形式		基礎種別		伸縮装置		形式		支承条件		個数		適用基準	</										

# 橋梁台帳(その1):基本諸元

様式-1  
Ver 20111201

点検時及び対策実施時に最新のデータに書き替える。

橋梁コード		12345678		作成年月日		2007		改訂年月日		2009		5		月		9		日			
事務所		〇〇県土整備事務所		【架橋状況】		【交通条件】		調査年度		1999		18818		台		日					
(フリガナ)		〇〇ハシ		橋面積		710.4 m <sup>2</sup>		計画河川		(建築限界高)		交通量		大型車交通量		対象					
橋梁名		〇〇橋		平面形状		直橋		計画河川		(鉄道道路幅)		交差角		90.0°		管理者		〇〇河川事務所			
橋梁区分		上下線一体 本線橋		斜角		90°		二級河川〇〇川		NEXCO西日本		90.0°		20.0 m		5					
橋梁種別		その他		最小半径		∞ m		高欄・防護柵		高欄		形式		橋梁用防護柵		鋼		鋼			
橋の等級		1等橋		横断勾配		1.50 %		設置場所		歩道端(左)		歩車道境界(左)		車道端(左)		中央分離帯		車道端(右)		歩車道境界(右)	
上部工分離・橋脚一体の別		上部工一体・橋脚一体構造		縦断勾配		0.50 %		高欄・防護柵の種類		高欄		鋼		鋼		鋼		鋼		鋼	
歩車区分		上下線一体 車道+自歩道		設計水平震度		当初		歩道端(左)		歩車道境界(左)		車道端(左)		中央分離帯		車道端(右)		歩車道境界(右)		歩道端(右)	
重要度区分		グループ2		設計活荷重		変更		高欄・防護柵の種類		高欄		鋼		鋼		鋼		鋼		鋼	
路線番号		70		バス路線		指定あり		高欄・防護柵の種類		高欄		鋼		鋼		鋼		鋼		鋼	
路線名称		主要地方道〇〇〇〇線		通学路		指定あり		高欄・防護柵の種類		高欄		鋼		鋼		鋼		鋼		鋼	
距離標		10km+100		緊急輸送道路		1次		高欄・防護柵の種類		高欄		鋼		鋼		鋼		鋼		鋼	
所在地		〇〇町大字〇〇		迂回路の有無		有		高欄・防護柵の種類		高欄		鋼		鋼		鋼		鋼		鋼	
北緯		33° 45' 35.1"		側道橋の有無		無		高欄・防護柵の種類		高欄		鋼		鋼		鋼		鋼		鋼	
東経		130° 28' 49.5"		遮音壁の有無		無		高欄・防護柵の種類		高欄		鋼		鋼		鋼		鋼		鋼	
架設年次		1991年12月		落下物防止柵の有無		無		高欄・防護柵の種類		高欄		鋼		鋼		鋼		鋼		鋼	
供用開始年		1992年3月		床版防水工の有無		無		高欄・防護柵の種類		高欄		鋼		鋼		鋼		鋼		鋼	
荷重		* kN		点検施設の有無		無		高欄・防護柵の種類		高欄		鋼		鋼		鋼		鋼		鋼	
高さ		* m		踏掛版の有無		無		高欄・防護柵の種類		高欄		鋼		鋼		鋼		鋼		鋼	
幅		* m		排水施設		4箇所		高欄・防護柵の種類		高欄		鋼		鋼		鋼		鋼		鋼	
全幅員		有効幅員		左側		右側		車線数		2.00		車道幅		3.00 m		歩道幅		3.00 m		地覆高	
16.80 m		16.00 m		0.40 m		0.10 m		3.00 m		0.50 m		0.50 m		0.50 m		0.10 m		0.10 m		0.40 m	
【下部工】		【躯体】		【基礎及び支持地盤】		【付属物】		【落橋防止システム】		適用基準		伸縮装置		橋脚		変位制限		軸		直角	
構造形式		使用材料		平均高(m)		基礎形式		基礎長		基礎形式		基礎長		基礎形式		基礎長		基礎形式		基礎長	
A1 重力式橋台		コンクリート		7.0 m		場所打ち杭		5.0 m		場所打ち杭		5.0 m		場所打ち杭		5.0 m		場所打ち杭		5.0 m	
P1 壁式橋脚		コンクリート		7.0 m		有		5.0 m		5.0 m		5.0 m		5.0 m		5.0 m		5.0 m		5.0 m	
A2 重力式橋台		コンクリート		7.0 m		無		5.0 m		5.0 m		5.0 m		5.0 m		5.0 m		5.0 m		5.0 m	
				m				m		m		m		m		m		m		m	
				m				m		m		m		m		m		m		m	
				m				m		m		m		m		m		m		m	
				m				m		m		m		m		m		m		m	
【上部工】		材料		桁形式		構造形式		径間長		径間長		径間長		径間長		径間長		径間長		径間長	
A1 ~ P1		PC		単純桁		PCプレテン床版橋		22.2 m		22.2 m		22.2 m		22.2 m		22.2 m		22.2 m		22.2 m	
P1 ~ A2		PC		単純桁		PCプレテン床版橋		m		m		m		m		m		m		m	
~								m		m		m		m		m		m		m	
~								m		m		m		m		m		m		m	
~								m		m		m		m		m		m		m	
~								m		m		m		m		m		m		m	
【上部工】		材料		桁形式		構造形式		径間長		径間長		径間長		径間長		径間長		径間長		径間長	
A1 ~ P1		PC		単純桁		PCプレテン床版橋		22.2 m		22.2 m		22.2 m		22.2 m		22.2 m		22.2 m		22.2 m	
P1 ~ A2		PC		単純桁		PCプレテン床版橋		m		m		m		m		m		m		m	
~								m		m		m		m		m		m		m	
~								m		m		m		m		m		m		m	
~								m		m		m		m		m		m		m	
~								m		m		m		m		m		m		m	
【上部工】		材料		桁形式		構造形式		径間長		径間長		径間長		径間長		径間長		径間長		径間長	
A1 ~ P1		PC		単純桁		PCプレテン床版橋		22.2 m		22.2 m		22.2 m		22.2 m		22.2 m		22.2 m		22.2 m	
P1 ~ A2		PC		単純桁		PCプレテン床版橋		m		m		m		m		m		m		m	
~								m		m		m		m		m		m		m	
~								m		m		m		m		m		m		m	
~								m		m		m		m		m		m		m	
~								m		m		m		m		m		m		m	
【上部工】		材料		桁形式		構造形式		径間長		径間長		径間長		径間長		径間長		径間長		径間長	
A1 ~ P1		PC		単純桁		PCプレテン床版橋		22.2 m		22.2 m		22.2 m		22.2 m		22.2 m		22.2 m		22.2 m	
P1 ~ A2		PC		単純桁		PCプレテン床版橋		m		m		m		m		m		m		m	
~								m		m		m		m		m		m		m	
~								m		m		m		m		m		m		m	
~								m		m		m		m		m		m		m	
~								m		m		m		m		m		m		m	
【上部工】		材料		桁形式		構造形式		径間長		径間長		径間長		径間長		径間長		径間長		径間長	
A1 ~ P1		PC		単純桁		PCプレテン床版橋		22.2 m		22.2 m		22.2 m		22.2 m		22.2 m		22.2 m		22.2 m	
P1 ~ A2		PC		単純桁		PCプレテン床版橋		m		m		m		m		m		m		m	
~								m		m		m		m		m		m		m	
~								m		m		m		m		m		m		m	
~								m		m		m		m		m		m		m	
~								m		m		m		m		m		m		m	
【上部工】		材料		桁形式		構造形式		径間長		径間長		径間長		径間長		径間長		径間長		径間長	
A1 ~ P1		PC		単純桁		PCプレテン床版橋		22.2 m		22.2 m		22.2 m		22.2 m		22.2 m		22.2 m		22.2 m	
P1 ~ A2		PC		単純桁		PCプレテン床版橋		m		m		m		m		m		m		m	
~								m		m		m		m		m		m		m	
~								m		m		m		m		m		m		m	
~								m		m		m		m		m		m		m	
~								m		m		m		m		m		m		m	
【上部工】		材料		桁形式		構造形式		径間長		径間長		径間長		径間長		径間長		径間長		径間長	
A1 ~ P1		PC		単純桁		PCプレテン床版橋		22.2 m		22.2 m		22.2 m		22.2 m		22.2 m		22.2 m		22.2 m	
P1 ~ A2		PC		単純桁		PCプレテン床版橋		m		m		m		m		m		m		m	
~								m		m		m		m		m		m		m	
~								m		m		m		m		m		m		m	
~								m		m		m		m		m		m		m	
~								m		m		m		m		m		m		m	
【上部工】		材料		桁形式		構造形式		径間長		径間長		径間長		径間長		径間長		径間長		径間長	
A1 ~ P1		PC		単純桁		PCプレテン床版橋		22.2 m		22.2 m		22.2 m		22.2 m		22.2 m		22.2 m		22.2 m	
P1 ~ A2		PC		単純桁		PCプレテン床版橋		m		m		m		m		m		m		m	
~								m		m		m		m		m		m		m	
~								m		m		m		m		m		m		m	
~								m		m		m		m		m		m		m	
~								m		m		m		m		m		m		m	
【上部工】		材料		桁形式		構造形式		径間長		径間長		径間長		径間長		径間長		径間長		径間長	
A1 ~ P1		PC		単純桁		PCプレテン床版橋		22.2 m		22.2 m		22.2 m		22.2 m		22.2 m		22.2 m		22.2 m	
P1 ~ A2		PC		単純桁		PCプレテン床版橋		m		m		m		m		m		m		m	
~								m		m		m		m		m		m		m	
~								m		m		m		m		m		m		m	
~								m		m		m		m		m		m		m	
~								m		m		m		m		m		m		m	
【上部工】		材料		桁形式		構造形式		径間長		径間長		径間長		径間長</							

# 橋梁台帳(その1):基本諸元

様式-1  
Ver 20111201

橋梁コード		12345678		橋長		44.4 m		作成年月日		2007 年 2 月 3 日		改訂年月日		2009 年 5 月 9 日	
事務所		〇〇県土整備事務所		径間数		2		【架橋状況】		【交通条件】		調査年度		1999 年	
(フリガナ)		〇〇ハシ		橋面積		710.4 m <sup>2</sup>		計画河川		計画流量		交通量		18818 台/日	
橋梁名		〇〇橋		平面形状		直橋		計画河川		(建設限界高)		大型車交通量		1452 台/日	
橋梁区分		上下線一体 本線橋		斜角		90°		管理者		交差角		〇〇河川事務所		90.0°	
橋梁種別		その他		最小半径		∞ m		名称		二級河川〇〇川		【舗装】		D/D 対象	
橋の等級		1等橋		横断勾配		1.50 %		高欄・防護柵		高欄・防護柵		形式		橋梁用防護柵	
上部工分離・橋脚一体構造		上部工一体・橋脚一体構造		縦断勾配		0.50 %		設置場所		高欄・防護柵の種別		材料		鋼	
歩車区分		上下線一体 車道+自歩道		設計水平震度		当初 0.14		歩道端(左)		高欄		鋼		1.0 m	
重要度区分		グループ2		設計活荷重		変更		歩車道境界(左)		*		*		* m <sup>2</sup>	
路線番号		70		バス路線		指定あり		車道端(左)		*		*		* m <sup>2</sup>	
路線名称		主要地方道〇〇〇〇線		通学路		指定有り		中央分離帯		*		*		* m <sup>2</sup>	
距離標		10km+100		緊急輸送道路		1次		車道端(右)		*		*		* m <sup>2</sup>	
所在地		〇〇町大字〇〇		迂回路の有無		有		歩車道境界(右)		*		*		* m <sup>2</sup>	
北緯		33° 45' 35.1"		側道橋の有無		無		歩道端(右)		高欄		鋼		1.0 m	
東経		130° 28' 49.5"		遮音壁の有無		無		【添架物】		寸法		本数		重量 (kg/m)	
架設年次		1991年12月		落下物防止柵の有無		無		種別		電力		φ50		2	
供用開始年		1992年3月		床版防水工の有無		無		管理者		九州電力		9.0		10	
通行制限		荷重 * kN		点検施設の有無		無		中央帯		0.00 m		0.00 m		0.00 m	
		高さ * m		踏掛版の有無		無		分譲帯		0.00 m		0.00 m		0.00 m	
		幅 * m		排水施設		4箇所		車線数		2.00		3.00 m		3.00 m	
【幅員(m)】		全幅員		有効幅員		左側		右側		車線数		車道幅		歩道幅	
		16.80 m		16.00 m		0.40 m		0.10 m		0.10 m		0.40 m		0.40 m	
【下部工】		【躯体】		【基礎及び支持地盤】		【付属物】		【落橋防止システム】		適用基準		落橋防止種類		変位制限	
橋台		構造形式		平均高(m)		基礎形式		基礎長		基礎N値		地盤種別		伸縮装置	
橋脚		構造形式		使用材料		基礎形式		基礎長		基礎N値		地盤種別		形式	
A1		重立式橋台		コンクリート		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		固定	
P1		壁式橋脚		コンクリート		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		可動	
P2		壁式橋脚		コンクリート		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		可動	
P3		壁式橋脚		コンクリート		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		可動	
P4		壁式橋脚		コンクリート		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		可動	
P5		壁式橋脚		コンクリート		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		可動	
P6		壁式橋脚		コンクリート		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		可動	
P7		壁式橋脚		コンクリート		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		可動	
P8		壁式橋脚		コンクリート		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		可動	
【上部工】		【業者名】		【基礎及び支持地盤】		【付属物】		【落橋防止システム】		適用基準		落橋防止種類		変位制限	
A1		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		軸	
P1		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		直角	
P2		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P3		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P4		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P5		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P6		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P7		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P8		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
【設計】		【業者名】		【基礎及び支持地盤】		【付属物】		【落橋防止システム】		適用基準		落橋防止種類		変位制限	
A1		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		軸	
P1		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		直角	
P2		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P3		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P4		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P5		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P6		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P7		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P8		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
【設計】		【業者名】		【基礎及び支持地盤】		【付属物】		【落橋防止システム】		適用基準		落橋防止種類		変位制限	
A1		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		軸	
P1		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		直角	
P2		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P3		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P4		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P5		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P6		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P7		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P8		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
【設計】		【業者名】		【基礎及び支持地盤】		【付属物】		【落橋防止システム】		適用基準		落橋防止種類		変位制限	
A1		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		軸	
P1		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		直角	
P2		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P3		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P4		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P5		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P6		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P7		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P8		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
【設計】		【業者名】		【基礎及び支持地盤】		【付属物】		【落橋防止システム】		適用基準		落橋防止種類		変位制限	
A1		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		軸	
P1		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		直角	
P2		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P3		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P4		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P5		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P6		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P7		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P8		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
【設計】		【業者名】		【基礎及び支持地盤】		【付属物】		【落橋防止システム】		適用基準		落橋防止種類		変位制限	
A1		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		軸	
P1		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		直角	
P2		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P3		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P4		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P5		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P6		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P7		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P8		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
【設計】		【業者名】		【基礎及び支持地盤】		【付属物】		【落橋防止システム】		適用基準		落橋防止種類		変位制限	
A1		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		軸	
P1		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		直角	
P2		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P3		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P4		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P5		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P6		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P7		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P8		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
【設計】		【業者名】		【基礎及び支持地盤】		【付属物】		【落橋防止システム】		適用基準		落橋防止種類		変位制限	
A1		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		軸	
P1		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		直角	
P2		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P3		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P4		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P5		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P6		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P7		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
P8		単純桁		PCプレテン床版橋		場所打ち杭		5.0 m		35 I		I種		個数	
【設計】		【業者名】		【基礎及び支持地盤】		【付属物】		【落橋防止システム】		適用基準		落橋防止種類		変位制限	





橋梁台帳(その2): 橋梁一般図

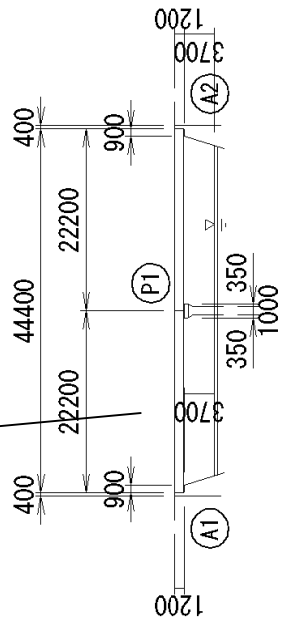
複数ページとなる場合、シート内にページを追加する(一般図が変更となる工事を行った場合は、最新一般図を添付する)

事務所名	〇〇県土整備事務所	カー名称	〇〇パン	路線名	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
橋梁名コード	12345678	橋梁名称	〇〇橋	所在地	〇〇町大字〇〇

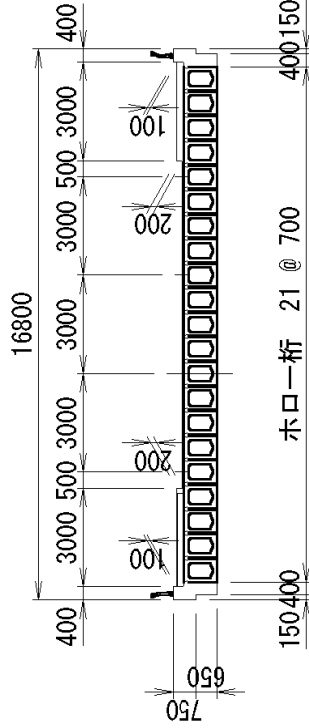
旭橋全体一般図

橋梁の側面図  
を入れる

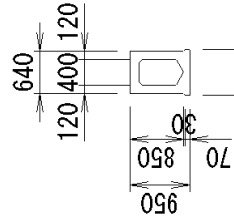
側面図 S=1/800



断面図 S=1/200

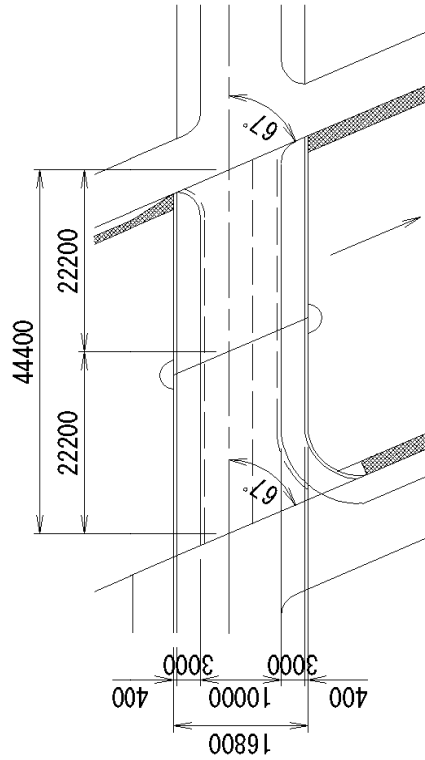


主桁形状 S=1/100



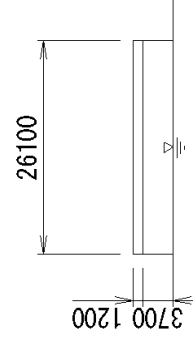
橋梁の断面図  
を入れる

平面図 S=1/800

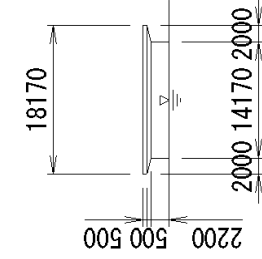


橋梁の平面図  
を入れる

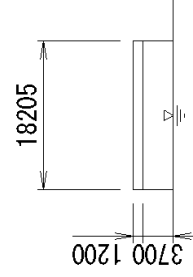
A 1 正面図



P 1 正面図





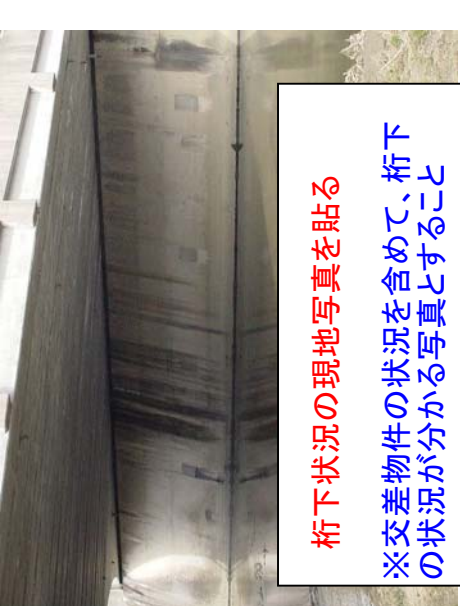
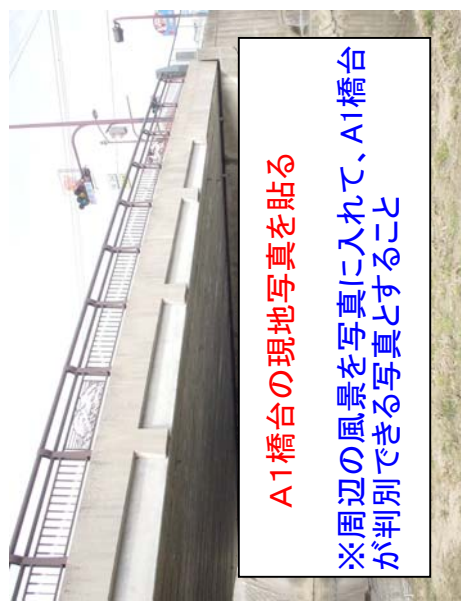
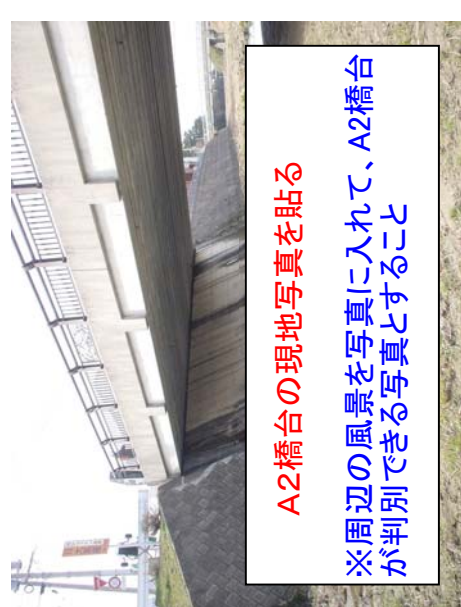
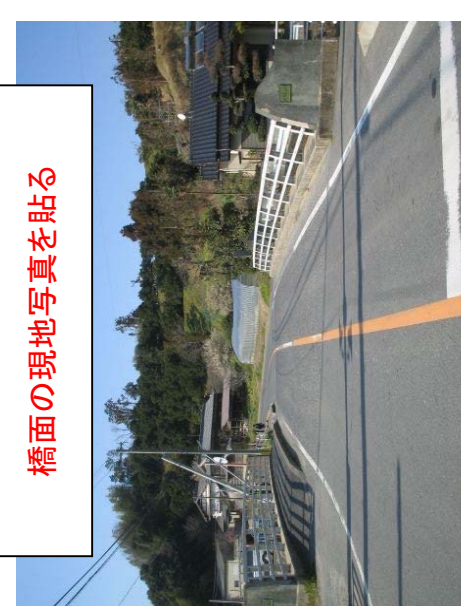
A 2 正面図



# 橋梁台帳(その3): 現地写真

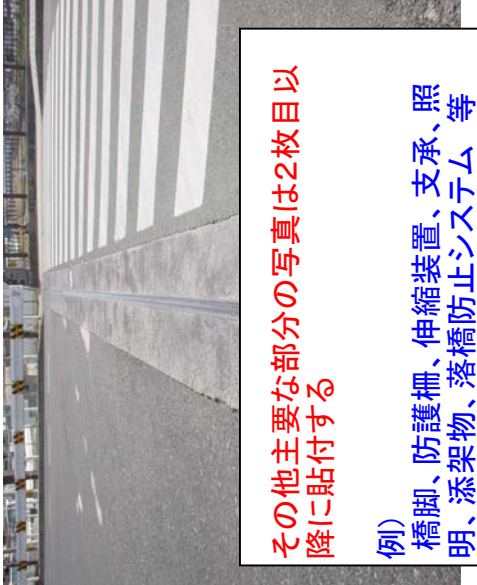
複数ページとなる場合、シート内にページを追加する

様式-3

事務所名 橋梁名コード		○○県土整備事務所 12345678		カナ名称 橋梁名称		○○パン ○○橋		路線名 所在地		主要地方道○○○○線 ○○町大字○○		1 / 1	
橋面(起点側より)		橋面(起点側より)		側面全景		橋面(終点側より)		橋下状況					
													
撮影日: 平成19年2月10日 A1橋台		撮影日: 平成19年2月10日 A2橋台		撮影日: 平成19年2月10日 橋面(終点側より)		撮影日: 平成19年2月10日 橋面(終点側より)		撮影日: 平成19年2月10日 橋面(終点側より)					
橋面の現地写真を貼る ※周辺の風景を写真に入れて、A1橋台が判別できる写真とすること		橋面の現地写真を貼る ※周辺の風景を写真に入れて、A2橋台が判別できる写真とすること		側面全景の現地写真を貼る ※交差物件の状況を含めて、橋下の状況が分かる写真とすること		橋面の現地写真を貼る ※交差物件の状況を含めて、橋下の状況が分かる写真とすること		橋面の現地写真を貼る ※交差物件の状況を含めて、橋下の状況が分かる写真とすること					
撮影日: 平成19年2月10日		撮影日: 平成19年2月10日		撮影日: 平成19年2月10日		撮影日: 平成19年2月10日		撮影日: 平成19年2月10日		写真一枚のサイズは100kB程度を目安とする。			

# 橋梁台帳(その3):現地写真

様式-3

事務所名 橋梁名コード	〇〇県土整備事務所 12345678	力ナ名称 橋梁名称	〇〇パン 〇〇橋	路線名 所在地	主要地方道〇〇〇〇線 〇〇町大字〇〇
橋面(起点側より)		側面全景		桁下状況	
 <p>その他主要な部分の写真は2枚目以降に貼付する</p> <p>(例) 橋脚、防護柵、伸縮装置、支承、照明、添架物、落橋防止システム等</p>		 <p>その他主要な部分の写真は2枚目以降に貼付する</p> <p>(例) 橋脚、防護柵、伸縮装置、支承、照明、添架物、落橋防止システム等</p>		 <p>その他主要な部分の写真は2枚目以降に貼付する</p> <p>(例) 橋脚、防護柵、伸縮装置、支承、照明、添架物、落橋防止システム等</p>	
A1橋台		A2橋台		橋面(終点側より)	
撮影日: 平成19年2月10日	撮影日: 平成19年2月10日	撮影日: 平成19年2月10日	撮影日: 平成19年2月10日	撮影日: 平成19年2月10日	撮影日: 平成19年2月10日
撮影日: 平成19年2月10日	撮影日: 平成19年2月10日	撮影日: 平成19年2月10日	撮影日: 平成19年2月10日	撮影日: 平成19年2月10日	撮影日: 平成19年2月10日

**【点検台帳 記入方法・記入例】**

## II. 点検台帳の記入方法

様式-A、B 点検台帳は以下の内容及び記入例に沿って入力を行うこととする。

- で着色されている項目は損傷の種類” 1～13” を半角数字で記入する  
(但し、福岡県要領以外に基づく点検の場合はこのかぎりではない)
- で着色されている項目は損傷程度” a～e” を半角文字で記入する  
(但し、福岡県要領以外に基づく点検の場合はこのかぎりではない)
- で着色されている項目は対策区分” A, B, C, E, M” を半角文字で記入する  
(但し、福岡県要領以外に基づく点検の場合はこのかぎりではない)

様式-C、D、E 点検台帳は記入例に沿って入力を行うこととする。

### 1. 橋梁諸元の記入方法

各入力規則は橋梁台帳（その1）：基本諸元より自動反映される。

### 2. 点検履歴の記入方法

#### 1) 点検種別

点検種別は、下表の通りとする。

コード	コード内容	備考
1	初回定期点検(直営)	
2	初回定期点検(委託)	
3	定期点検(直営)	
4	定期点検(委託)	
5	対策実施時	
6	その他点検	

注) その他点検とは、特定点検や異常時点検をいう。

#### 2) 点検日

点検日は西暦を用いて月日まで記入を行う。

例) 西暦 月 日  
2007 /5 /2

### 3. 詳細調査総括票(様式F)の記入方法

#### 1) 上下部区分

上下部区分は以下の通りとする

コード	コード内容	備考
1	上部工	
2	下部工	

#### 2) 径間名(下部工名)

上部工の場合 第1径間 → 半角数字” A1-P1” を記入  
 下部工の場合 橋台 → 半角英数字” A1” 又は” A2” を記入  
                   P1橋脚 → 半角英数字” P1” を記入  
 支承部・伸縮装置の場合  
                   橋台 → 半角英数字” A1” 又は” A2” を記入  
                   P1橋脚 → 半角英数字” P1” を記入

3) 部材区分

部材区分は以下の通りとする

コード	分類1	分類2	構造形式	備考
11	鋼部材	上部工	主桁(鋼)	
12			横桁(鋼)	
13			縦桁(鋼)	
14			床版(鋼)	
15			対傾構(鋼)	
16			横構(鋼)	
17		下部工	下部工(鋼)	
18		支承	支承(鋼)	
19		路上	路面(鋼)	
20			高欄・防護柵(鋼)	
21			照明・標識(鋼)	
22		排水施設	排水施設(鋼)	
31	コンクリート部材	上部工	主桁(コン)	
32			横桁(コン)	
33			縦桁(コン)	
34			床版(コン)	
35		下部工	下部工(コン)	
36		支承	支承(コン)	
37		路上	路面(コン)	
38			高欄・防護柵(コン)	
39		排水施設	排水施設(コン)	
41	その他	支承	支承(その他)	
42		路上	路面(その他)	
43		排水施設	排水施設(その他)	
98			*	記入事項なし
99			?	不明

4) 調査年月

調査年月は西暦を用いて月まで記入を行う。

例) 西暦 月  
2007 5

# 点検台帳(その1): 点検履歴総括票

※記入方法として、様式-Bの径間ごとに記入後、その中で、もっとも悪い評価を様式-Aに記入する。

## 1. 橋梁諸元

橋梁名コード	12345678	(フリガナ)	〇〇バス
事務所	〇〇県土木整備事務所	橋梁名	〇〇橋
路線番号	35	所在地	〇〇町大字〇〇
橋梁区分	上下線一体 本線橋	橋長	52.0 m
橋梁種別	その他	径間数	2
重要度区分	グループ2	全幅員	9.35 m
路線名称	主要地方道〇〇〇〇線	河川	二級河川〇〇川
		道路	こうそくどうろ
適用示方書	昭和39年 道路橋下部構造設計指針、くい基礎設計篇	架橋状況	
		架設年次	1981年9月
構造形式	上部工 下部工	PC単純プレテン工橋	
		重力式橋台、張出し式橋脚(円)	

## 2. 点検履歴

NO	点検種別	点検日
1	定期点検(直営)	1995/8/15
2	定期点検(直営)	2000/6/23
3	定期点検(直営)	2004/7/15
4	定期点検(直営)	2009/12/7
5	定期点検(直営)	2014/5/2
6		
7		
8		
9		
10		

## 3. 点検結果(橋梁毎の部材別判定)

点検日	直近		前回		前々回		前々々回	
	2014/5/2	2009/12/7	2004/7/15	2000/6/23	2000/6/23	2000/6/23	2000/6/23	
点検業者名	定期点検(直営)	定期点検(直営)	定期点検(直営)	定期点検(直営)	定期点検(直営)	定期点検(直営)	定期点検(直営)	
点検部材	〇〇〇〇		△△△△		□□□□		××××	
上部構造	主桁	B	B	B	A	A	IV	
	横桁	A	A	A	A	A	OK	
	縦桁	*	*	*	*	*	*	
	対横構	*	*	*	*	*	*	
	横構	*	*	*	*	*	*	
	床版	B	B	B	B	B	IV	
	下部工	A	A	A	A	A	IV	
	支承	M	A	A	A	A	OK	
	路面	A	A	A	A	A	IV	
	高橋・防護欄	A	A	A	A	A	OK	
排水施設	照明・標識	A	A	A	A	A	OK	
	排水施設	A	A	A	A	A	OK	
	総合判定	総合判定	総合判定	総合判定	総合判定	総合判定	総合判定	

複数径間における最悪値を記入する

部材区分が存在しない場合は「\*」を記入

損傷程度が「a」の場合は「未記入」

### 福岡県要領

【損傷の種類】
①腐食
②亀裂
③ポルトの脱落
④破断
⑤ひびわれ・漏水・遊離石灰
⑥鉄筋露出
⑦抜け落ち
⑧床版ひびわれ
⑨PC定着部の異常
⑩路面の凹凸
⑪支承の機能障害
⑫下部工の変状
⑬変色・劣化

：損傷の種類「1~13」を記入する項目(福岡県要領以外)に基づく点検の場合はこのかぎりではない  
 : 損傷程度「a~e」を記入する項目(福岡県要領以外)に基づく点検の場合はこのかぎりではない  
 : 対策区分「A,B,C,E,M」を記入する項目(福岡県要領以外)に基づく点検の場合はこのかぎりではない

### S63点検要領の損傷度判定

1 腐食	5 破断	9 遊離石灰	13 鋼板接着部の損傷	17 ポットホール	21 変色・劣化	25 異常たわみ	29 移動
2 亀裂	6 塗装劣化	10 豆板、空洞	14 床版ひびわれ	18 舗装ひびわれ	22 漏水・滞水	26 変形	30 傾斜
3 ゆるみ	7 ひびわれ	11 すりへり、侵食	15 遊間の異常	19 わだち掘れ	23 異常音	27 土砂つまり	31 洗掘
4 脱落	8 剥離・鉄筋露出	12 抜け落ち	16 段差、コンクリーション	20 その他	24 異常振動	28 沈下	32 火損

### 対策区分

A	損傷が認められないか、損傷が軽微で補修を行う必要はない
B	状況に応じて補修を行う必要がある
C	速やかに補修等を行う必要がある
E	緊急対応の必要がある
M	維持工事で対応する必要がある



# 点検台帳(その2): 点検結果総括票(径間毎の部材別判定)

様式-B

複数ページとなる場合、別シート(右に)にページを追加する

事務所名	〇〇県土整備事務所		カチ名称		〇〇パン		路線名		主要地方道〇〇〇〇線	
	橋梁名コード	12345678	橋梁名称	〇〇橋	所在地	〇〇町大字〇〇	点検日	2014/5/2	点検日	2014/5/2
重要度	グループ2		点検種別		定期点検(直営)		4		5	
径間番号	1		2		3		4		5	
部材区分	損傷程度の評価		損傷程度の評価		損傷程度の評価		損傷程度の評価		損傷程度の評価	
	左側: 損傷種類	右側: 損傷程度	左側: 損傷種類	右側: 損傷程度	左側: 損傷種類	右側: 損傷程度	左側: 損傷種類	右側: 損傷程度	左側: 損傷種類	右側: 損傷程度
上部構造	主桁	5 c	A	5 c 6 d	B					
	横桁	5 c	A	5 c	A					
	縦桁		*		*					
	対傾構		*		*					
	横構		*		*					
下部工	床版	6 d 8 c	B		A					
	下部工	5 c	A	5 c 13 e	A					
	支承	11 e	M		A					
路上	路面	10 c	A	10 c	A					
	高欄・防護柵	1 b	A		A					
排水施設	照明・標識	1 b	A		A					
	排水施設	1 c	A	1 c	A					
【所見】	<p>(※記入例)                      ・主桁、横桁において、0.2mm未満のひび割れが発生しているが、現時点ではひび割れ幅が小さいため、構造物に及ぼす影響は小さいと考えられる。しかし、塩害の可能性も考えられるため、機会を見て詳細調査を行うことが望ましい。                      ・床版の間詰め部に、遊離石吹を伴うひび割れが乗っている。また、部分的に鉄筋露出している箇所がある。これは、コンクリートの打継目からの漏水が原因と考えられる。                      ・下部工は、伸縮装置からの漏水の影響によると思われるひび割れ、鉄筋露出が発生している。現段階では構造物の耐久性に影響する損傷ではないと判断される。                      ・ゴム支承が変形し、大き(はらみ)だしている。支承の機能に障害があるため補修が必要である。                      ※塩害、アルカリ骨材反応、疲労等の損傷が懸念される場合は、その旨を記述すること。                      ※記入票にない損傷がある場合は、【所見】欄に記述する。</p>									
【対応】	<p>(※記入例)                      ・主桁、横桁のひび割れは、塩害の可能性も考えられるため、機会を見て詳細調査を実施することが望ましい。                      ・床版の間詰め部の損傷は、進行すると抜け落ちる恐れがあるため、状況に応じて補修を行うことが望ましい。                      ・下部工のひび割れは、損傷が軽微であるため、当面は補修を行う必要はないと判断される。しかし、伸縮装置からの漏水が損傷を助長する恐れがあるため、速やかに伸縮装置の非排水化などの対策を講ずることが望ましい。                      ・支承の機能障害が発生している。上部構造に影響を及ぼす可能性があるため、詳細調査を実施することが望ましい。</p>									
【点検(業者)名】	<p>(株)〇〇〇コンサルタント</p>									
【損傷の種類】	<p>①腐食 ④破断 ⑥鉄筋露出 ⑨PC定着部の異常 ⑫下部工の変状                      ②亀裂 ⑤ひびわれ・漏水・抜け落ち ⑦鉄筋露出 ⑩路面の凹凸 ⑬変色・劣化                      ③ポルトの膨落 ⑧床版ひびわれ ⑪支承の機能障害</p>									

部材区分が無い場合は「\*」を記入

損傷評価より対策区分判定を行う。対策区分判定は「付録-1 損傷評価基準と対策区分判定資料」を参照して行う。ブルダウから選択(半角大文字)

損傷程度が「a」の場合、は未記入

【その他】(周辺環境その他気付いた事項)  
 (※記入例)  
 ・本橋は山間部に位置し、冬季の凍結防止剤を散布する路線である。凍結防止剤に含まれる塩分が、構造物の損傷要因と考えられるため、留意が必要である。  
 ※損傷以外の特筆する事項がある場合は、【その他】に記述する。

※記入方法として、様式-Cを径間ごとに記入後、様式-Bに反映する

# 点検台帳(その3): 点検結果記入票

1径間目の記入例(2径間の場合)

複数ページとなる場合、シート内(下に)にページを追加する

径間番号: 1

鋼部材の場合記入  コンクリート部材の場合記入  鋼部材以外の場合に記入

鋼部材以外の場合に記入

径間(下部工)名称: A1-P1

コンクリート部材以外の場合に記入  必ず記入

事務所名		路線名		主要地方道〇〇〇〇線			
橋梁名コード		所在地		〇〇町大字〇〇			
重要度		点検日		2014/5/2			
損傷種類		⑦ 床版ひびわれ		⑩ 支承の機能障害			
部材区分		⑧ 鉄筋露出		⑪ 下部工の変状			
		⑨ PC定着部の異常		⑫ 変色・劣化			
		⑥ 床版ひびわれ		⑬			
		⑤ ひびわれ・漏水・遊離石灰					
		④ 破断					
		③ ボルトの脱落					
		② 亀裂					
		① 腐食					
上部構造	主桁	*	*	1	a	a	1
	横桁	*	*	3	a	a	1
	縦桁	*	*	*	*	*	*
	床版	*	*	*	*	*	1
下部工	対傾構				d	c	
	横構	*	*	*	*	*	
支承	起点側	*	*	5	a	a	1
	終点側	*	*	5	a	a	1
路上	起点側	b	a			a	1
	終点側	b	a			a	1
排水施設	排水施設	c	a			*	*

1径間目の記入例(2径間の場合)  
下部工、支承は、起点側にA1橋台、終点側にP1橋脚の損傷を記入する。

床版橋及びBOXカルバートは、主桁にて判定

現地にて確認した損傷評価を記入する。  
・損傷の種類、評価区分は「付録-1 損傷評価基準と対策区分判定基準」を参照  
・分類又はパターンの記載がある項目は評価の右側の欄に記入  
・該当項目が存在しない場合は「\*」を記入  
・ブルダウンから選択(半角数字)

グレーゾーン(斜線部)への記入は不要

点検を実施した業者名を記載する

【所見】	【その他】(周辺環境、その他気づいた事項)	【点検(業)者名】
(※記入例) ・主桁、横桁において、0.2mm未満のひび割れが発生しているが、現時点ではひび割れ幅が小さいため、構造物に及ぼす影響は小さいと考えられる。しかし、塩害の可能性も考えられるため、機会を見て詳細調査を行うことが望ましい。 ・床版の閉詰部に、遊離石灰を伴うひび割れが乗っている。また、部分的に鉄筋露出している箇所がある。これは、コンクリートの打継目からの漏水の影響によると思われるひび割れ、鉄筋露出が発生している。現段階では構造物の耐久性に影響する損傷ではないと考えられる。 ・ゴム支承が変形性、大きくはらみだしている。支承の機能に障害があるため補修が必要である。 ※塩害、アルカリ骨材反応、疲労等の損傷が懸念される場合は、その旨を記述すること。 ※記入票にない損傷がある場合は、【所見】欄に記述する。	【その他】(周辺環境、その他気づいた事項) (※記入例) ・本橋は山間部に位置し、冬季の凍結防止剤を散布する路線である。凍結防止剤に含まれる塩分が、構造物の損傷要因と考えられるため、留意が必要である。 ※損傷以外の特筆する事項がある場合は、【その他】に記述する。	株式会社〇〇〇〇コンサルtant

# 点検台帳(その3):点検結果記入票

2径間目の記入例(2径間の場合)

複数ページとなる場合、シート内(下に)にページを追加する

径間番号: 2

鋼部材の場合記入  コンクリート部材の場合記入  鋼部材以外の場合に記入

鋼部材以外の場合に記入

径間(下部工)名称: P1-A2

コンクリート部材以外の場合に記入  必ず記入

事務所名		路線名		主要地方道○○○○線						
橋梁名コード		所在地		○○町大字○○						
重要度		点検日		2014/5/2						
損傷種類		定期点検(直営)		⑬						
部材区分	①	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	
	腐食	鉄筋露出	抜け落ち	床版ひびわれ	PC定着部の異常	路面の凸凹	支承の機能障害	下部工の劣化	変色・劣化	
	亀裂	ひびわれ・漏水・遊離石灰	破断	ボルトの脱落	ひびわれ・漏水・遊離石灰	ひびわれ・漏水・遊離石灰	ひびわれ・漏水・遊離石灰	ひびわれ・漏水・遊離石灰	ひびわれ・漏水・遊離石灰	
上部構造	主桁	*	*	*	c	1	d	a	a	1
	横桁	*	*	*	c	3	a	a	a	1
	縦桁	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	床版	*	*	*	*	*	a	a	a	1
下部工	対傾構	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	横構	*	*	*	*	*	*	*	*	*
支承	起点側	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	終点側	*	*	*	c	5	a	*	a	1
路上	高欄・防護柵	a	a	a	*	*	*	*	a	1
	照明・標識	a	a	a	*	*	*	*	a	1
排水施設	排水施設	c	a	a	*	*	*	*	a	1

2径間目の記入例(2径間の場合)  
下部工、支承は、起点側に“\*”、終点側にA2橋台の損傷を記入する。

連結橋などの場合は、径間番号1の終点側で記入しているため“\*”を記入

【所見】	【その他】(周辺環境、その他気づいた事項)	【点検(業)者名】
(※記入例) ・主桁、横桁において、0.2mm未満のひび割れが発生しているが、現時点ではひび割れ幅が小さいため、構造物に及ぼす影響は小さいと考えられる。しかし、塩害の可能性も考えられるため、機会を見て詳細調査を行うことが望ましい。	(※記入例) ・本橋は山間部に位置し、冬季の凍結防止剤を散布する路線である。凍結防止剤に含まれる塩分が、構造物の損傷要因と考えられるため、留意が必要である。 ※損傷以外の特筆する事項がある場合は、【その他】に記述する。	株式会社○○○コンサルタント

# 点検台帳(その4): 損傷図

様式-D

複数ページとなる場合、シート内にページを追加する

1径間目の記入例(2径間の場合)

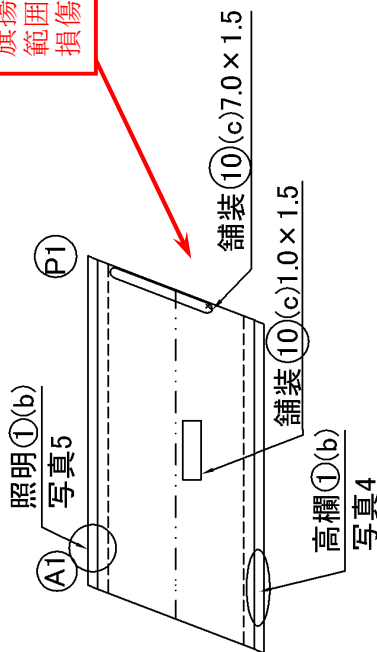
下部工、支承は、A1橋台、P1橋脚の損傷を図示する。

事務所名	〇〇県土整備事務所	路線名	主要地方道〇〇〇〇線
橋梁名コード	12345678	所在地	〇〇町大字〇〇
径間番号	1	〇〇橋	
径間(下部工)名称	A1-P1		

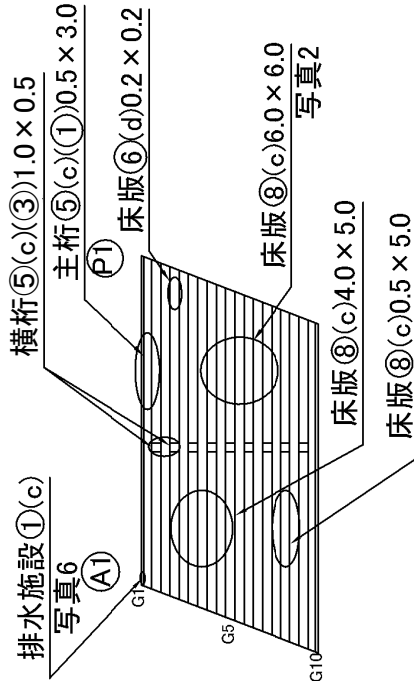
上部構造	部材	鋼部材	コン部材	その他	部材	鋼部材	コン部材	その他
上部構造	主桁	①②③④	⑤⑥⑨⑬		下部工	①②③④⑭	⑤⑥⑨⑫⑬	—
	横桁	①②③④	⑤⑥⑬		支承	⑩	—	①⑬
	縦桁	①②③④	⑤⑥⑬		路面	⑩	⑩⑬	
	床版	①②③④	⑥⑦⑧⑨⑬	—	高欄・防護柵	①②③④	⑤⑥⑬	—
	対傾構	①②③④	—	—	照明・標識	①②③④	—	—
横構	①②③④	—	—	排水施設	①④	—	④⑬	

現地で作成した損傷図を清書し、添付する。  
 旗揚げは損傷部材、損傷種別、評価(パターン及び分類)、損傷範囲が分かる場合は、その範囲を記入する。  
 損傷状況の写真を撮影した場合はその番号を記入する。

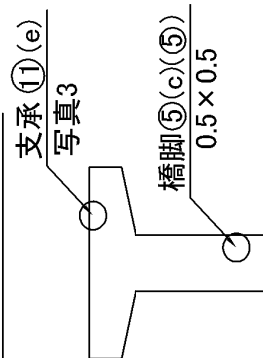
## 橋面



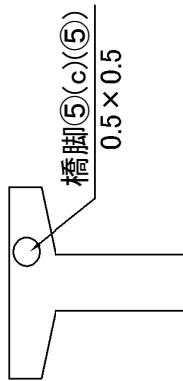
## 桁下面



## P1橋脚(A1橋台側)



## P1橋脚(A2橋台側)



損傷の表記は、以下のようにする。  
 記入例：床版⑤・⑤(c)・(c)・(1)・0.5×3.0  
 部材名 損傷種類 損傷程度 損傷影響分類 損傷寸法(縦×横)  
 構造に与える影響分類

# 点検台帳(その4): 損傷図

様式-D

複数ページとなる場合、シート内にページを追加する

2径間目の記入例(2径間の場合)

下部工は、A2橋台の損傷を図示する。

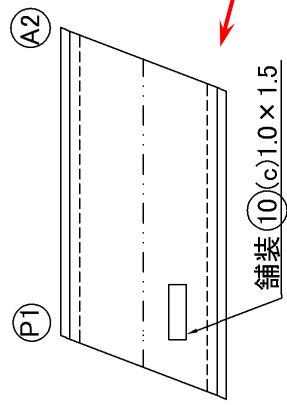
事務所名	〇〇県土整備事務所	路線名	主要地方道〇〇〇〇線
橋梁名コード	12345678	所在地	〇〇町大字〇〇
径間番号	2		
径間(下部工)名称	PI-A2		

点検項目チェック用

部材	鋼部材	コン部材	その他	部材	鋼部材	コン部材	その他
上部構造	①②③④	⑤⑥⑨⑬		下部工	①②③④⑦	⑤⑥⑨⑫⑬	—
主桁	①②③④	⑤⑥⑨⑬		支承	⑩	—	⑪⑬
横桁	①②③④	⑤⑥⑬		路面	⑩	⑩⑬	—
縦桁	①②③④	⑥⑦⑧⑨⑬		高欄・防護柵	①②③④	⑤⑥⑬	—
床版	①②③④	—		照明・標識	①②③④	—	—
対傾構	①②③④	—		排水施設	①④	—	④⑬
横構	①②③④	—					

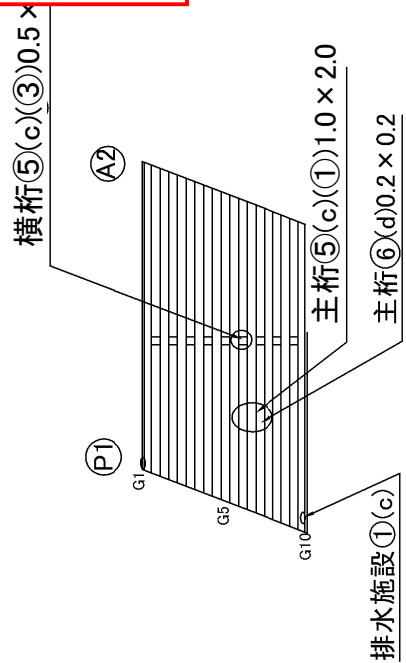
損傷図の作成にあたっては、当初委託点検時の白図を利用する

## 橋面



現地で作成した損傷図を清書し、添付する。  
 旗揚げは損傷部材、損傷種別、評価(パターン及び分類)、損傷範囲が分かる場合は、その範囲を記入する。  
 損傷状況の写真を撮影した場合はその番号を記入する。

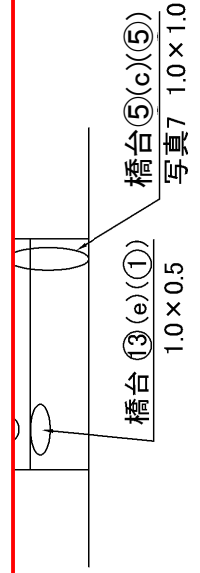
## 桁下面



## A2橋台

損傷の表記は、以下のようにする。

記入例: 床版 ⑤ · ⑥ · (c) · (c) · (①) · 0.5 x 3.0  
 部材名 損傷種類 損傷程度 構造に与える影響分類 損傷寸法(縦x横)




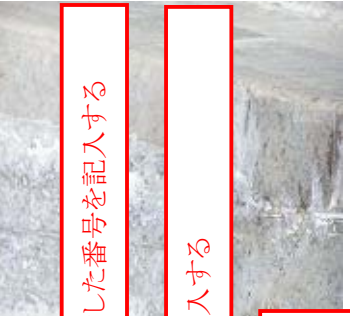
# 点検台帳(その5): 主要損傷写真



複数ページとなる場合、シート内にページを追加する



様式-E

1 / 2

橋梁名コード	橋梁名称	撮影日	2014年5月2日
12345678	〇〇橋		


 <p>写真データ容量はできる限り軽くなる</p>	<table border="1"> <tr><td>写真番号</td><td>1</td></tr> <tr><td>径間番号</td><td>1</td></tr> <tr><td>撮影部位</td><td>A1橋台</td></tr> <tr><td>損傷の種類</td><td>⑤ひびわれ・漏水・遊離石灰</td></tr> <tr><td>損傷判定</td><td>c</td></tr> <tr><td>【備考】</td><td></td></tr> </table> <p>備考欄には、損傷の概要やその要因など、現地にて気がついた点を記入する</p>	写真番号	1	径間番号	1	撮影部位	A1橋台	損傷の種類	⑤ひびわれ・漏水・遊離石灰	損傷判定	c	【備考】		 <p>損傷図に記載した番号を記入する</p> <p>径間番号を記入する</p> <table border="1"> <tr><td>写真番号</td><td>2</td></tr> <tr><td>径間番号</td><td>1</td></tr> <tr><td>撮影部位</td><td>床版</td></tr> <tr><td>損傷の種類</td><td>⑧床版ひびわれ</td></tr> <tr><td>損傷判定</td><td>c</td></tr> <tr><td>【備考】</td><td></td></tr> </table> <p>床版張出部からの漏水が原因と推測される床版ひび割れが生じている。</p>	写真番号	2	径間番号	1	撮影部位	床版	損傷の種類	⑧床版ひびわれ	損傷判定	c	【備考】	
写真番号	1																									
径間番号	1																									
撮影部位	A1橋台																									
損傷の種類	⑤ひびわれ・漏水・遊離石灰																									
損傷判定	c																									
【備考】																										
写真番号	2																									
径間番号	1																									
撮影部位	床版																									
損傷の種類	⑧床版ひびわれ																									
損傷判定	c																									
【備考】																										

	<table border="1"> <tr><td>写真番号</td><td>3</td></tr> <tr><td>径間番号</td><td>1</td></tr> <tr><td>撮影部位</td><td>支承</td></tr> <tr><td>損傷の種類</td><td>⑪支承の機能障害</td></tr> <tr><td>損傷判定</td><td>e</td></tr> <tr><td>【備考】</td><td></td></tr> </table> <p>支承の機能障害が生じている。</p> <p>様式-C,Dとの整合性の確認をお願いします。</p>	写真番号	3	径間番号	1	撮影部位	支承	損傷の種類	⑪支承の機能障害	損傷判定	e	【備考】		 <table border="1"> <tr><td>写真番号</td><td>4</td></tr> <tr><td>径間番号</td><td>1</td></tr> <tr><td>撮影部位</td><td>高欄</td></tr> <tr><td>損傷の種類</td><td>①腐食</td></tr> <tr><td>損傷判定</td><td>b</td></tr> <tr><td>【備考】</td><td></td></tr> </table> <p>高欄が腐食している。</p>	写真番号	4	径間番号	1	撮影部位	高欄	損傷の種類	①腐食	損傷判定	b	【備考】	
写真番号	3																									
径間番号	1																									
撮影部位	支承																									
損傷の種類	⑪支承の機能障害																									
損傷判定	e																									
【備考】																										
写真番号	4																									
径間番号	1																									
撮影部位	高欄																									
損傷の種類	①腐食																									
損傷判定	b																									
【備考】																										

	<table border="1"> <tr><td>写真番号</td><td>5</td></tr> <tr><td>径間番号</td><td>1</td></tr> <tr><td>撮影部位</td><td>照明柱</td></tr> <tr><td>損傷の種類</td><td>①腐食</td></tr> <tr><td>損傷判定</td><td>b</td></tr> <tr><td>【備考】</td><td></td></tr> </table> <p>照明柱のベースプレートが腐食している。</p>	写真番号	5	径間番号	1	撮影部位	照明柱	損傷の種類	①腐食	損傷判定	b	【備考】		 <table border="1"> <tr><td>写真番号</td><td>6</td></tr> <tr><td>径間番号</td><td>1</td></tr> <tr><td>撮影部位</td><td>排水施設</td></tr> <tr><td>損傷の種類</td><td>①腐食</td></tr> <tr><td>損傷判定</td><td>c</td></tr> <tr><td>【備考】</td><td></td></tr> </table> <p>鋼製の排水管が腐食している。</p>	写真番号	6	径間番号	1	撮影部位	排水施設	損傷の種類	①腐食	損傷判定	c	【備考】	
写真番号	5																									
径間番号	1																									
撮影部位	照明柱																									
損傷の種類	①腐食																									
損傷判定	b																									
【備考】																										
写真番号	6																									
径間番号	1																									
撮影部位	排水施設																									
損傷の種類	①腐食																									
損傷判定	c																									
【備考】																										

点検台帳(その5): 主要損傷写真

橋梁名コード	12345678	橋梁名称	〇〇橋	撮影日	2014年5月2日
--------	----------	------	-----	-----	-----------

	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>写真番号</td><td>7</td></tr> <tr><td>径間番号</td><td>2</td></tr> <tr><td>撮影部位</td><td>A2橋台</td></tr> <tr><td>損傷の種類</td><td>⑤ひびわれ・漏水・遊離石灰</td></tr> <tr><td>損傷判定</td><td>c</td></tr> <tr><td>【備考】</td><td>橋台壁面にひび割れが生じている。</td></tr> </table>	写真番号	7	径間番号	2	撮影部位	A2橋台	損傷の種類	⑤ひびわれ・漏水・遊離石灰	損傷判定	c	【備考】	橋台壁面にひび割れが生じている。												
写真番号	7																								
径間番号	2																								
撮影部位	A2橋台																								
損傷の種類	⑤ひびわれ・漏水・遊離石灰																								
損傷判定	c																								
【備考】	橋台壁面にひび割れが生じている。																								
<p><b>橋歴板等があれば添付すること (架設年次、適用道路橋示方書、 補修履歴等が分かるように)</b></p>																									
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>写真番号</td><td></td></tr> <tr><td>径間番号</td><td></td></tr> <tr><td>撮影部位</td><td></td></tr> <tr><td>損傷の種類</td><td></td></tr> <tr><td>損傷判定</td><td></td></tr> <tr><td>【備考】</td><td></td></tr> </table>	写真番号		径間番号		撮影部位		損傷の種類		損傷判定		【備考】		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>写真番号</td><td></td></tr> <tr><td>径間番号</td><td></td></tr> <tr><td>撮影部位</td><td></td></tr> <tr><td>損傷の種類</td><td></td></tr> <tr><td>損傷判定</td><td></td></tr> <tr><td>【備考】</td><td></td></tr> </table>	写真番号		径間番号		撮影部位		損傷の種類		損傷判定		【備考】	
写真番号																									
径間番号																									
撮影部位																									
損傷の種類																									
損傷判定																									
【備考】																									
写真番号																									
径間番号																									
撮影部位																									
損傷の種類																									
損傷判定																									
【備考】																									

<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>写真番号</td><td></td></tr> <tr><td>径間番号</td><td></td></tr> <tr><td>撮影部位</td><td></td></tr> <tr><td>損傷の種類</td><td></td></tr> <tr><td>損傷判定</td><td></td></tr> <tr><td>【備考】</td><td></td></tr> </table>	写真番号		径間番号		撮影部位		損傷の種類		損傷判定		【備考】		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>写真番号</td><td></td></tr> <tr><td>径間番号</td><td></td></tr> <tr><td>撮影部位</td><td></td></tr> <tr><td>損傷の種類</td><td></td></tr> <tr><td>損傷判定</td><td></td></tr> <tr><td>【備考】</td><td></td></tr> </table>	写真番号		径間番号		撮影部位		損傷の種類		損傷判定		【備考】	
写真番号																									
径間番号																									
撮影部位																									
損傷の種類																									
損傷判定																									
【備考】																									
写真番号																									
径間番号																									
撮影部位																									
損傷の種類																									
損傷判定																									
【備考】																									

<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>写真番号</td><td></td></tr> <tr><td>径間番号</td><td></td></tr> <tr><td>撮影部位</td><td></td></tr> <tr><td>損傷の種類</td><td></td></tr> <tr><td>損傷判定</td><td></td></tr> <tr><td>【備考】</td><td></td></tr> </table>	写真番号		径間番号		撮影部位		損傷の種類		損傷判定		【備考】		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>写真番号</td><td></td></tr> <tr><td>径間番号</td><td></td></tr> <tr><td>撮影部位</td><td></td></tr> <tr><td>損傷の種類</td><td></td></tr> <tr><td>損傷判定</td><td></td></tr> <tr><td>【備考】</td><td></td></tr> </table>	写真番号		径間番号		撮影部位		損傷の種類		損傷判定		【備考】	
写真番号																									
径間番号																									
撮影部位																									
損傷の種類																									
損傷判定																									
【備考】																									
写真番号																									
径間番号																									
撮影部位																									
損傷の種類																									
損傷判定																									
【備考】																									

# 点検台帳(その6): 詳細調査総括票

## 1. 橋梁諸元

橋梁名コード	12345678	(フリガナ)	〇〇パン
事務所	〇〇県土整備事務所	橋梁名	〇〇橋
路線番号	35	所在地	〇〇町大字〇〇
橋梁区分	上下線一体 本線橋	橋長	52.0 m
橋梁種別	その他	径間数	2
重要度区分	グループ2	全幅員	8.55 m
路線名称	主要地方道〇〇〇〇線	交差状況	河川
適用示方書	昭和39年 鉄筋コンクリート道路橋設計示方書	交差状況	道路
	昭和39年 道路橋下部構造設計指針: くい基礎設計編	架設年次	1981年9月
構造形式	上部工	PC単純プレテン桁	
	下部工	重力式橋台、張出し式橋脚(円)	

## 2. 作成情報

作成年月日	2007 年 3 月 21 日
-------	-----------------

## 3. 詳細調査総括表

### 3-1 コア各種試験

コアNo.	上下区分	径間名 (下部工名)	部材区分	調査年月	試験名	単位	試験値	実施業者名	備考
No.1	上部工	A1-P1	床版(コン)	2009.1	圧縮強度試験	N/mm <sup>2</sup>	31.2		
No.1	上部工	A1-P1	床版(コン)	2009.1	中性化試験	mm	5.5		床版下面からの中性化深さ
No.1	上部工	A1-P1	床版(コン)	2009.1	塩分含有量試験	kg/m <sup>3</sup>	0.34		鉄筋位置(20mm~40mm)での測定値
No.2	下部工	P1	下部工(コン)	2009.1	圧縮強度試験	N/mm <sup>2</sup>	26.7		
									試験結果を記載する
									各種試験名を簡潔に記載する
									主桁、横桁、縦桁、床版、橋台、橋脚などの部材区分を記載する
									コアNo.は、適宜付ける。 (様式Gの図と関連付ける)

### 3-2 非破壊試験

調査方法	上下区分	径間名 (下部工名)	部材区分	調査年月	調査結果	実施業者名
赤外線劣化調査	上部工	A1-P1	床版	2009.2	押し抜きせん断性のひびわれが多数発生しており、上部からの雨水の浸透による凍害も発生している。	

試験結果の概要を簡潔に記載する



# 点検台帳(その7): 詳細調査概要

複数ページとなる場合、シート内にページを追加する

様式-G

## 1. 橋梁諸元

橋梁名コード	12345678	(フリガナ)	〇〇バシ
事務所	〇〇県土整備事務所	橋梁名	〇〇橋
路線番号	35	所在地	〇〇町大字〇〇
橋梁区分	上下線一体 本線橋	橋長	52.0 m
橋梁種別	その他	径間数	2
重要度区分	グループ2	全幅員	9.35 m
路線名称	主要地方道〇〇〇〇線	有効幅員	8.55 m
適用示方書	昭和39年 鉄筋コンクリート道路橋設計示方書	河川	二級河川〇〇川
	昭和39年 道路橋下部構造設計指針(くい基礎設計編)	道路	こうそくどうろ
構造形式	上部工 下部工	架設状況	
		架設年次	1981年9月
		PC単純プレテン桁	
		重力式橋台、張出し式橋脚(円)	

## 2. 作成情報

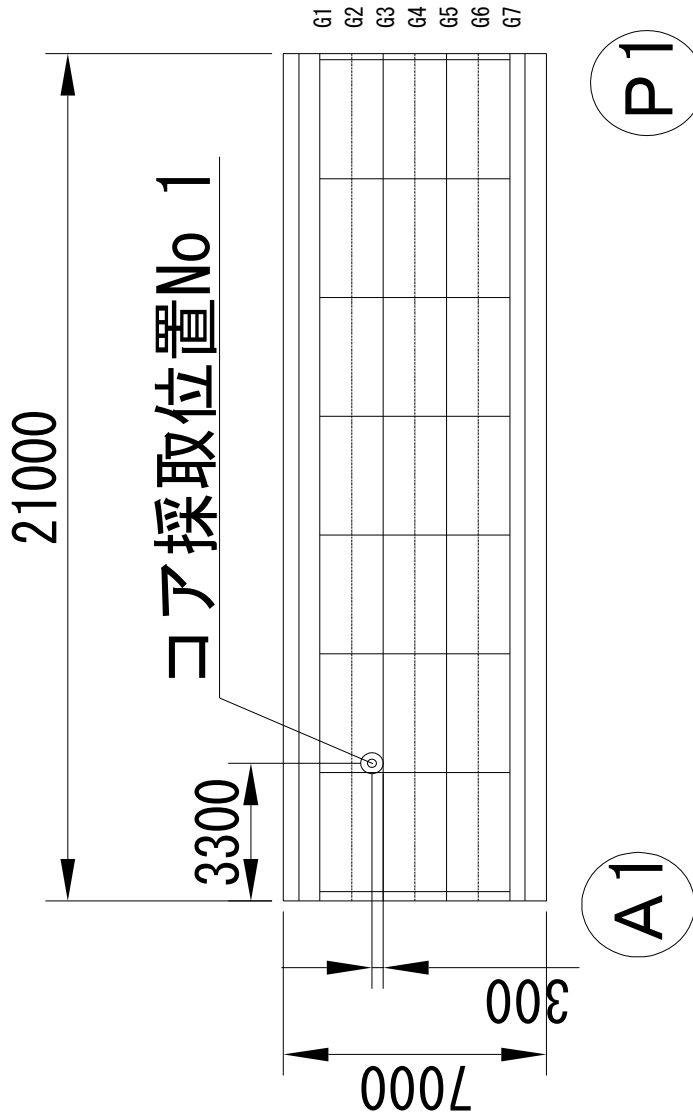
作成年月日	2007 年 3 月 21 日
実施業者名	

## 3. 調査概要書

### 詳細調査位置図

上部工 詳細調査位置図

必要に応じて図を追加する。



**【点検台帳 記入例】**

床版橋編



# 点検台帳(その2): 点検結果総括票(径間毎の部材別判定)

様式一B

事務所名	〇〇県土整備事務所△△支所		カノ名称		□□ハシ		路線名		一般国道59号		
	橋梁名コード	12345680	橋梁名称	□□橋	所在地	△△市〇〇	点検日	2008/2/3			
重要度	グループ2		点検種別		定期点検(直営)		点検日		2008/2/3		
径間番号	1		2		3		4		5		
上部構造	損傷程度の評価		損傷程度の評価		損傷程度の評価		損傷程度の評価		損傷程度の評価		
	左側: 損傷種類	右側: 損傷程度	左側: 損傷種類	右側: 損傷程度	左側: 損傷種類	右側: 損傷程度	左側: 損傷種類	右側: 損傷程度	左側: 損傷種類	右側: 損傷程度	
下部工	対策区分		対策区分		対策区分		対策区分		対策区分		
支承	A		A		A		A		A		
路上	*		*		*		*		*		
排水施設	*		*		*		*		*		
主桁	6	e	C								
横桁			*								
縦桁			*								
対傾構			*								
横構			*								
床版			*								
下部工			A								
支承			A								
路面			A								
高欄・防護柵			*								
照明・標識			*								
排水施設			*								
【所見】	海岸側桁下に鉄筋露出が見られる。海岸部であるため、損傷要因として塩害が考えられることから、機会を見て詳細調査を行うことが望ましい。										
【対応】	海岸付近であること、鉄筋の腐食が著しいことから塩害が考えられるため、継続的な経過観察や詳細調査の実施が望ましい。										
備考	【その他】(周辺環境その他気付いた事項) 海岸に面し、飛来塩分の影響で床版の海岸側吐口部に剥離・鉄筋露出が著しい。										
備	【点検業者名】 株〇〇〇〇コンサルタンツ										
損傷の種類	①腐食 ④破断 ⑥鉄筋露出 ⑨PC定着部の異常 ⑫下部工の変状 ②亀裂 ⑤ひびわれ・漏水 ⑦抜け落ち ⑩路面の凹凸 ⑬変色・劣化 ③ボルトの脱落 ⑧床版ひびわれ ⑪支承の機能障害										

# 点検台帳(その3):点検結果記入票

径間番号: 1   鋼部材の場合記入   コンクリート部材の場合記入   鋼部材以外の場合に記入  
 径間(下部工)名称: A1-A2   コンクリート部材以外の場合に記入   必ず記入

事務所名		〇〇県土整備事務所△△支所		カナ名称		□□ハン		路線名		一般国道59号				
橋梁名コード		12345680		橋梁名称		□□橋		所在地		△△市〇〇				
重要度		グループ2		点検種別		定期点検(直営)		点検日		2008/2/3				
部材区分	損傷種類	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
		腐食	亀裂	ボルトの脱落	破断	ひびわれ・漏水・遊離石灰	鉄筋露出	抜け落ち	床版ひびわれ	PC定着部の異常	路面の凸凹	支承の機能障害	下部工の変状	変色・劣化
上部構造	主桁	*	*	*	*	a	e	/	/	*	/	/	/	a
	横桁	*	*	*	*	*	*	/	/	*	/	/	/	*
	縦桁	*	*	*	*	*	*	/	/	/	/	/	/	*
	床版	*	*	*	*	/	*	*	*	*	/	/	/	*
下部工	対傾構	*	*	*	*	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	横構	*	*	*	*	/	/	/	/	/	/	/	/	/
下部工	起点側	*	*	*	*	a	a	/	/	*	/	a	a	1
	終点側	*	*	*	*	a	a	/	/	*	/	a	a	1
支承	起点側	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	*
	終点側	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	*
路上	路面	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	a
	高欄・防護柵	a	a	a	a	*	*	/	/	/	/	/	/	a
排水施設	照明・標識	*	*	*	*	/	/	/	/	/	/	/	/	*
	排水施設	*	/	/	*	/	/	/	/	/	/	/	/	*
【所見】		【その他】(周辺環境, その他気づいた事項) 海岸側桁下に鉄筋露出が見られる。海岸部であるため、損傷要因としては塩害が考えられることから、機会を見て詳細調査を行うことが望ましい。 下部工は損傷無し。										【点検(業)者名】 株〇〇〇コンサルタンツ		

# 点検台帳(その4): 損傷図

様式一D

事務所名	〇〇県土整備事務所△△支所	カナ名称	□□ハン	路線名	一般国道59号
橋梁名コード	12345680	橋梁名称	□□橋	所在地	△△市〇〇
径間番号	1	点検項目チェック用			
径間(下部工)名称	A1-A2				

## □□橋 損傷図

部材		鋼部材	コン部材	その他	部材	鋼部材	コン部材	その他	
上部構造	主桁	①②③④	⑤⑥⑨⑬	-	下部工	①②③④⑫	⑤⑥⑨⑫⑬	-	
	横桁	①②③④	⑤⑥⑨⑬		支承	⑪	-	-	⑭⑮
	縦桁	①②③④	⑤⑥⑬		路面	⑩	-	-	⑭⑮
	床版	①②③④	⑥⑦⑧⑨⑬		高欄・防護柵	①②③④	⑤⑥⑬	-	-
	対傾構	①②③④	-		照明・標識	①②③④	-	-	-
横構	①②③④	-	排水施設	①④	-	-	④⑬		

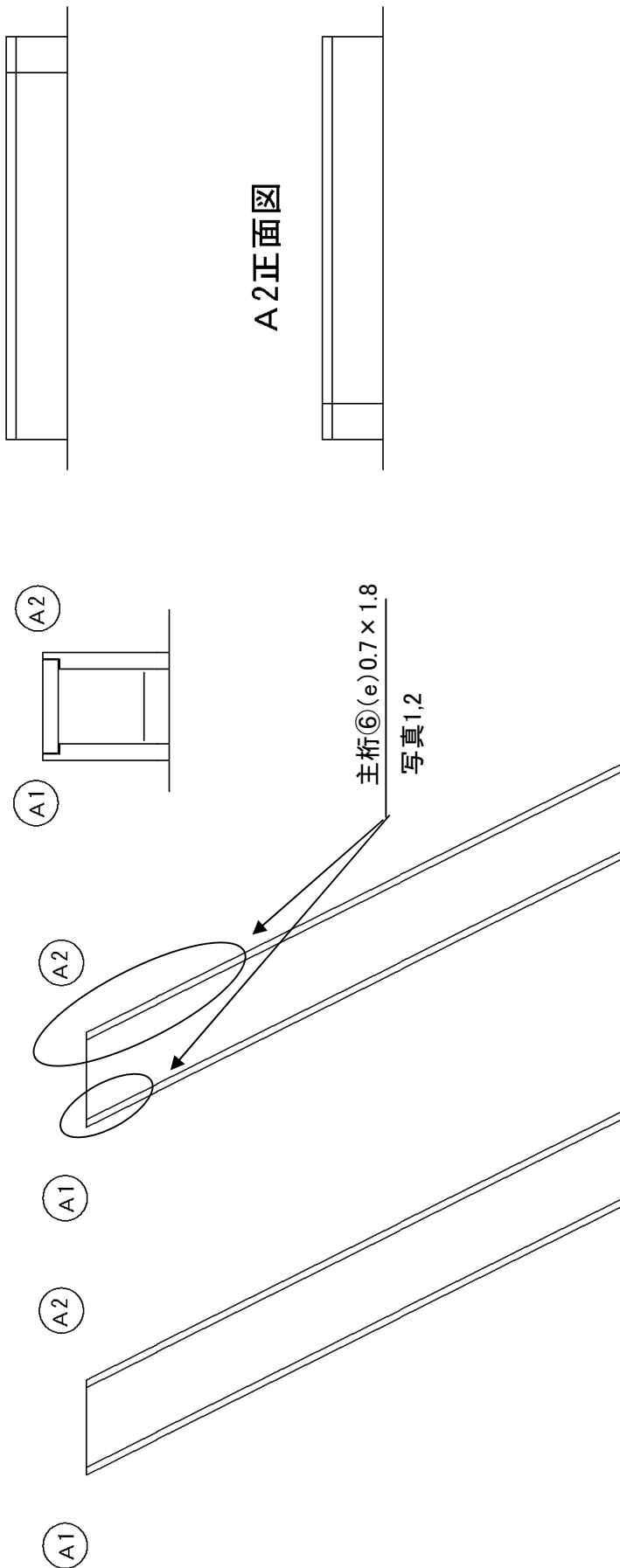
平面図

桁下図

側面図

A1正面図

A2正面図




# 点検台帳(その5): 主要損傷写真

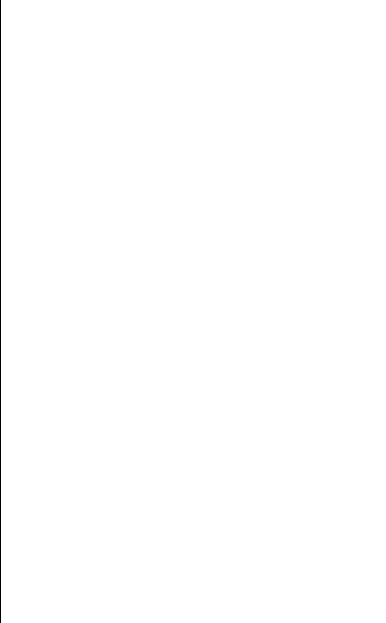
様式-E

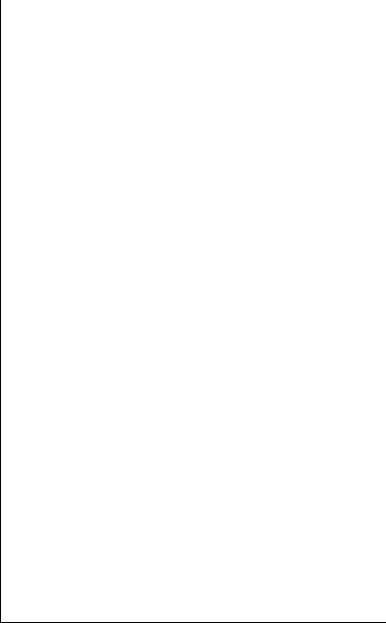
1 / 1


橋梁名コード	12345680	橋梁名称	□□橋	撮影日	2008年2月3日
--------	----------	------	-----	-----	-----------


	写真番号	1
	径間番号	1
	撮影部位	主桁
	損傷の種類	⑥鉄筋露出
	損傷判定	e
【備考】		

	写真番号	2
	径間番号	1
	撮影部位	主桁
	損傷の種類	⑥鉄筋露出
	損傷判定	e
【備考】		

	写真番号	3
	径間番号	
	撮影部位	
	損傷の種類	
	損傷判定	
【備考】		

	写真番号	4
	径間番号	
	撮影部位	
	損傷の種類	
	損傷判定	
【備考】		

	写真番号	5
	径間番号	
	撮影部位	
	損傷の種類	
	損傷判定	
【備考】		

	写真番号	6
	径間番号	
	撮影部位	
	損傷の種類	
	損傷判定	
【備考】		

**【点検台帳 記入例】**

ボックスカルバート編



# 点検台帳(その1):点検履歴総括票

## 1. 橋梁諸元

橋梁名コード	12345679	(フリガナ)	△△ハン
事務所	〇〇県土整備事務所	橋梁名	△△橋
路線番号	23	所在地	〇〇市△△
橋梁区分	上下線一体 本線橋	橋長	5.0 m
橋梁種別	その他	径間数	1
重要度区分	グループ4	全幅員	8.75 m
路線名称	主要地方道〇〇〇線	有効幅員	8.30 m
適用示方書	*	交差状況	道路
	*	架橋状況	名称
		架設年次	1999年1月
構造形式	上部工		
	下部工		
			ROBOXカルバート
			*

## 2. 点検履歴

NO	点検種別	点検日
1	定期点検(委託)	2004/7/10
2	定期点検(直営)	2008/2/3
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

## 3. 点検結果(橋梁毎の部材別判定)

点検日	2008/2/3		2004/7/10	
点検種別	定期点検(直営)		定期点検(委託)	
点検業者名	〇〇〇〇			
点検部材	損傷程度の評価		損傷程度の評価	
上部構造	主桁	6 e	6 c	
	横桁	*	*	
	縦桁	*	*	
	対傾構	*	*	
	横構	*	*	
	床版	*	*	
下部工	下部工	*	*	
支承	支承	*	*	
路上	路面	A	A	
	高橋・防護柵	A	A	
	照明・標識	*	*	
排水施設	排水施設	*	*	
総合判定	総合判定		総合判定	
<p>本橋は、RCプレキャストボックス構造であり、築設後31年が経過している。主桁部(頂版・側壁)に著しい鉄筋露出が発生している。早期に詳細調査を実施し、対策工法の検討を行うことが望ましい。</p>				

## 福岡県要領

【損傷の種類】
①腐食
②亀裂
③ボルトの脱落
④破断
⑤ひびわれ・漏水・遊離石灰
⑥鉄筋露出
⑦抜け落ち
⑧床版ひびわれ
⑨PC定着部の異常
⑩路面の凹凸
⑪支承の機能障害
⑫下部工の変状
⑬変色・劣化

## 対策区分

対策区分	説明
A	損傷が認められないか、損傷が軽微で補修を行う必要はない
B	状況に応じて補修を行う必要がある
C	速やかに補修等を行う必要がある
E	緊急対応の必要がある
M	維持工事で対応する必要がある

## S63点検要領の損傷度判定

1 腐食	5 破断	9 遊離石灰	13 鋼板接着部の損傷	17 ポットホール	21 変色・劣化	25 異常たわみ	29 移動
2 亀裂	6 塗装劣化	10 豆板、空洞	14 床版ひびわれ	18 舗装ひびわれ	22 漏水、滲水	26 変形	30 傾斜
3 ゆるみ	7 ひびわれ	11 すりへり、侵食	15 遊間の異常	19 わだち掘れ	23 異常音	27 土砂つまり	31 洗掘
4 脱落	8 剥離・鉄筋露出	12 抜け落ち	16 段差、コルゲーション	20 その他	24 異常振動	28 沈下	32 欠損

# 点検台帳(その2): 点検結果総括票(径間毎の部材別判定)

様式-B

事務所名	〇〇県土整備事務所		△△パン		路線名		主要地方道〇〇〇線		
	橋梁名コード	12345679	橋梁名称	△△橋	所在地	〇〇市△△	点検日	2008/2/3	
重要度	グループ4		定期点検(直営)						
径間番号	1		2		3		4		5
部材	損傷程度の評価		損傷程度の評価		損傷程度の評価		損傷程度の評価		対策区分
	左側: 損傷種類	右側: 損傷程度	左側: 損傷種類	右側: 損傷程度	左側: 損傷種類	右側: 損傷程度	左側: 損傷種類	右側: 損傷程度	
上部構造	主桁	6 e	C						
	横桁		*						
	縦桁		*						
	対傾構		*						
	横構		*						
	床版		*						
下部工	下部工		*						
支承	支承		*						
路上	路面		A						
	高欄・防護柵		A						
排水施設	照明・標識		*						
	排水施設		*						
備考	【所 泉】 RCプレキャストボックス構造であり、頂版、側壁部でコンクリート剥離・鉄筋露出が著しい。 防護柵はガードレールで腐食が見られる。								
	【点検業者名】								
【損傷の種類】									
①腐食		④破断		⑥鉄筋露出		⑨PC定着部の異常		⑫下部工の劣化	
②亀裂		⑤ひびわれ・漏水		⑦抜け落ち		⑩路面の凹凸		⑬変色・劣化	
③ボルトの脱落		⑧床版ひびわれ・遊離石灰		⑪支承の機能障害					

### 点検台帳(その3):点検結果記入票

径間番号: 1   鋼部材の場合記入   コンクリート部材の場合記入   鋼部材以外の場合に記入  
 径間(下部工)名称: A1-A2   コンクリート部材以外の場合に記入   必ず記入

事務所名		〇〇県土整備事務所		カナ名称		△△ハン		路線名		主要地方道〇〇〇線				
橋梁名コード		12345679		橋梁名称		△△橋		所在地		〇〇市△△				
重要度		グループ4		点検種別		定期点検(直営)		点検日		2008/2/3				
部材区分	損傷種類	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
		腐食	亀裂	ボルトの脱落	破断	ひびわれ・漏水・遊離石灰	鉄筋露出	抜け落ち	床版ひびわれ	PC定着部の異常	路面の凸凹	支承の機能障害	下部工の変状	変色・劣化
上部構造	主桁	*	*	*	*	a	e			*				a
	横桁	*	*	*	*	*	*			*				*
	縦桁	*	*	*	*	*	*							*
	床版	*	*	*	*		*			*				*
下部工	対傾構	*	*	*	*									
	横構	*	*	*	*									
下部工	起点側	*	*	*	*	*	*			*			*	*
	終点側	*	*	*	*	*	*			*			*	*
支承	起点側													*
	終点側													*
路上	路面													a
	高欄・防護柵	a	a	a	a	*	*							a
排水施設	照明・標識	*	*	*	*									*
	排水施設	*			*									*
【所見】														
RCプレキャストボックス構造であり、頂版、側壁部で剥離・鉄筋露出が著しい。防護柵はガードレールで腐食が見られる。														
【その他】(周辺環境, その他気づいた事項)														
【点検(業)者名】 株式会社〇〇コンサルタンツ														

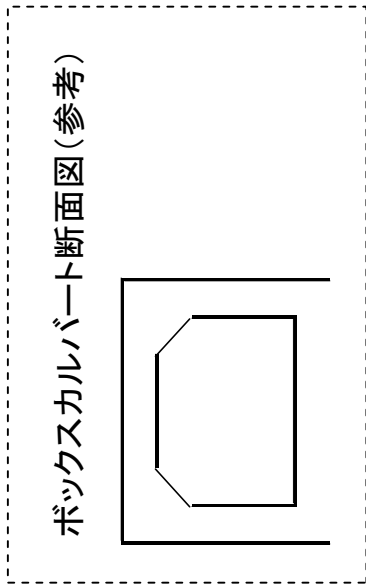
# 点検台帳(その4): 損傷図

様式一D

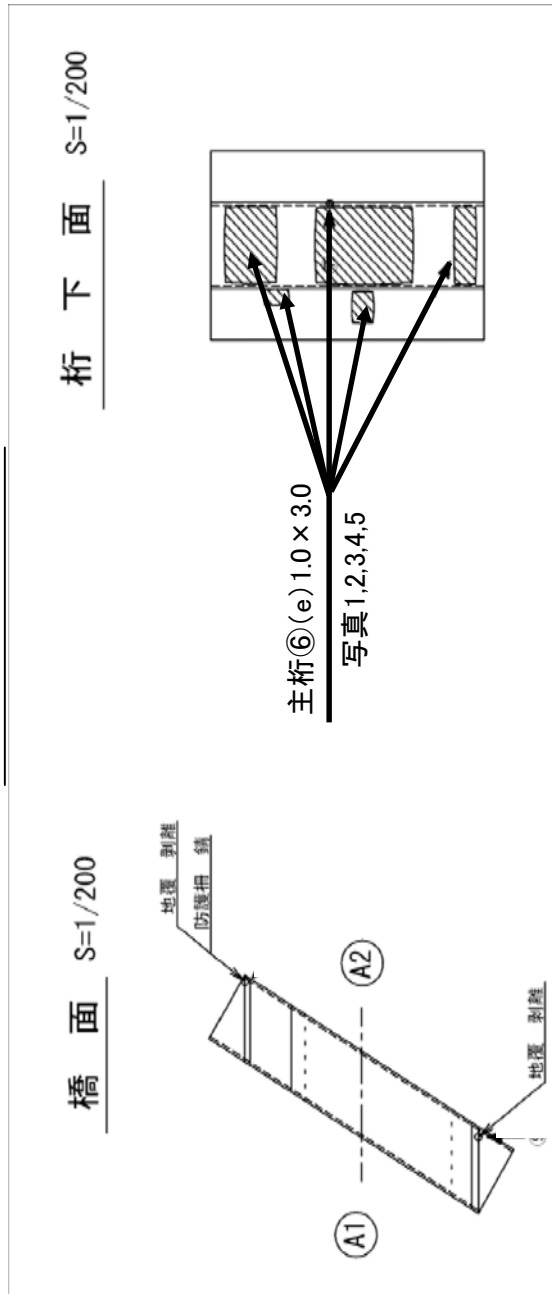
事務所名	〇〇県土整備事務所	カナ名称	△△ハン	路線名	主要地方道〇〇〇線
橋梁名コード	12345679	橋梁名称	△△橋	所在地	〇〇市△△
径間番号	1				
径間(下部工)名称	A1-A2				

点検項目チェック用

部材	鋼部材	コン部材	その他	部材	鋼部材	コン部材	その他
上部構造	①②③④	⑤⑥⑨⑩	-	下部工	①②③④⑫	⑤⑥⑨⑫⑬	-
主桁	①②③④	⑤⑥⑨⑩	-	支承	⑪	-	⑭⑮
横桁	①②③④	⑤⑥⑩	-	路面	⑩	⑩⑬	-
縦桁	①②③④	⑥⑦⑧⑨⑬	-	高欄・防護柵	①②③④	⑤⑥⑬	-
床版	①②③④	-	-	照明・標識	①②③④	-	-
対傾構	①②③④	-	-	排水施設	①④	-	④⑬
横構	①②③④	-	-				



## △△橋 損傷図






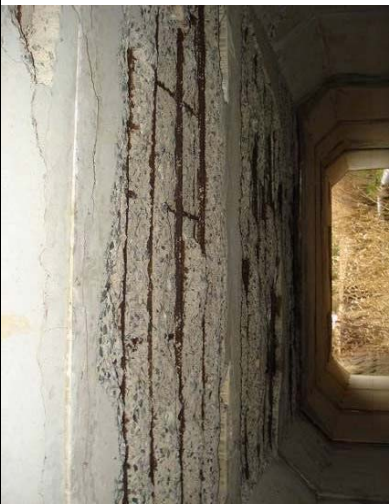
# 点検台帳(その5): 主要損傷写真

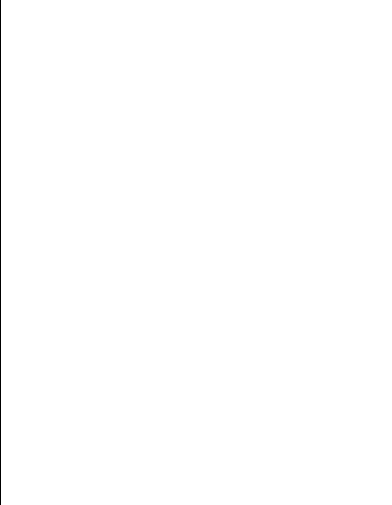
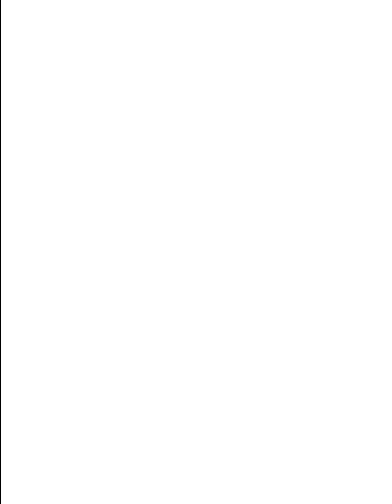
様式一E

1 / 1

橋梁名コード	12345679	橋梁名称	△△橋	撮影日	2009年2月3日
--------	----------	------	-----	-----	-----------

	写真番号	1
	径間番号	1
	撮影部位	主桁(側壁)
	損傷の種類	⑥鉄筋露出
	損傷判定	e
【備考】		

	写真番号	3
	径間番号	1
	撮影部位	主桁(側壁)
	損傷の種類	⑥鉄筋露出
	損傷判定	e
【備考】		

	写真番号	5
	径間番号	
	撮影部位	
	損傷の種類	
	損傷判定	
【備考】		

## 【対策工事を行った場合 記入方法・記入例】

対策工事を実施した場合は、補修・補強履歴関係様式のほか、対策を行った部材の損傷程度、対策区分を反映するため、点検台帳も作成する。

### Ⅲ. 橋梁台帳(その4):補修・補強対策総括票の記入方法

#### 1. 作成年月日

橋梁台帳(その4):補修・補強対策総括票を作成した年月日を、西暦で記入する。  
例) 2006年11月1日

#### 2. 補修・補強コード番号

対策年度ごとに施工順、箇所別に番号を付ける。  
例) 2007年の最初の補修・補強工事 → 07-1  
上記ケース時に3箇所対策を実施 → 07-1~07-3

#### 3. 径間名(下部工名)

上部工の場合 第1径間 → 半角数字”A1-P1”を記入  
下部工の場合 橋台 → 半角英数字”A1”又は”A2”を記入  
P1橋脚 → 半角英数字”P1”を記入  
支承部・伸縮装置の場合  
橋台 → 半角英数字”A1”又は”A2”を記入  
P1橋脚 → 半角英数字”P1”を記入

#### 4. 部位・部材区分

対策部位の部材区分は下表の通りとする。

部位		部材区分	
コード	コード内容	コード	コード内容
1	上部構造	11	主桁
		12	横桁
		13	縦桁
		14	床版
		15	対傾構
		16	横構
2	下部構造	21	橋脚
		22	橋台
		23	基礎
3	支承部	31	支承本体
		32	沓座モルタル
		33	台座コンクリート
		34	落防システム

部位		部材区分	
コード	コード内容	コード	コード内容
4	路上	41	高欄・防護柵
		42	地覆
		43	舗装
		44	伸縮装置
		45	防水層
		46	遮音施設
		47	照明施設
		48	標識施設
		49	縁石
5	排水施設	51	排水ます
		52	配水管
6	点検施設	63	点検施設
7	添架物	71	添架物
8	袖擁壁	81	袖擁壁

注)落防システムは、上部工のみに設置、下部工のみに設置、または上下部工の両方に設置のいずれかの場合であっても、支承部の落防システムとして登録する。

#### 5. 補修・補強年度

補修・補強年度を西暦で入力する。  
なお、繰越し工事の場合は発注年度を入力する。  
例) 2007(数字のみ記入)

6. 工種・種別・細別・単位

対策の工種・種別・細別は下表から選択するものとし、コード番号で入力する。  
 数量は整数で入力する。  
 対策数量については、下記の単位で入力する。

その1

工種		種別		細別		単位
コード	コード内容	コード	コード内容	コード	コード内容	
1	コンクリート補修	11	ひび割れ補修工法	111	表面塗布工法	m2
				112	注入工法	m
				113	充填工法	m
				114	その他	※任意に設定
		12	断面修復工法	121	断面修復工法	m2
				122	その他	※任意に設定
		13	表面保護工法	131	表面含浸工法	m2
				132	表面被覆工法	m2
				133	その他	※任意に設定
		14	電気化学的補修工法	141	脱塩工法	※任意に設定
				142	再アルカリ化工法	※任意に設定
				143	その他	※任意に設定
		15	電気防食工法	151	電気防食工法	※任意に設定
				152	その他	※任意に設定
		16	その他	161	その他	※任意に設定
		2	鋼材補修	21	塗装塗替え工法	211
212	その他					※任意に設定
22	部材取替え工法			221	高力ボルト塗替え工法	個
				222	部材交換工法	※任意に設定
				223	当板工法	※任意に設定
				224	その他	※任意に設定
23	その他			231	その他	※任意に設定
3	主桁補強			31	断面補強工法	311
		312	縦桁増設工法			※任意に設定
		313	支点増設工法			※任意に設定
		32	その他	321	その他	※任意に設定
4	床版補強	41	断面補強工法	411	鋼板接着工法	m2
				412	炭素繊維接着工法	m2
				413	上面増厚工法	m2
				414	下面増厚工法	m2
				415	縦桁増設工法	※任意に設定
				416	部分打換工法	m3
				417	全面打換工法	m3
		42	その他	421	その他	※任意に設定
5	橋脚補強	51	耐震補強工法	511	RC巻立て工法	m2
				512	鋼板巻立て工法	m2
				513	炭素繊維巻立て工法	m2
				514	ポリマーセメント巻立て工法	m2
				515	PC巻立て工法	m2
				516	その他	※任意に設定
		52	その他	521	その他	※任意に設定
6	基礎補強	61	補強工法	611	フーチング増厚工法	※任意に設定
				612	フーチング拡大工法	※任意に設定
				613	増杭工法	※任意に設定
				614	地盤改良工法	m3
		62	その他	621	その他	※任意に設定



## その2

工種		種別		細別		単位
コード	コード内容	コード	コード内容	コード	コード内容	
7	舗装補修	71	維持・修繕工法	711	切削オーバーレイ	m2
				712	オーバーレイ	m2
				713	切削表面処理	m2
				714	シール工法	m2
		72	その他	721	その他	※任意に設定
8	防水層補修	81	維持・修繕工法	811	シート系	m2
				812	塗膜系	m2
		82	その他	821	その他	※任意に設定
9	落橋防止構造設置	91	上下部工を連結	911	PCケーブル	個
				912	緩衝チェーン	個
		92	上部工を相互に連結	921	PCケーブル	個
		93	突起を設ける構造(鋼)	931	鋼製ブラケット	個
		94	突起を設ける構造(コンクリート)	941	コンクリートブロック	個
		95	桁かかり長を確保	951	鋼製ブラケット	個
				952	コンクリートブロック	個
96	その他	961	その他	※任意に設定		
10	変位制限構造設置	101	上下部工を連結	1011	PCケーブル	個
				1012	緩衝チェーン	個
		102	上部工を相互に連結	1021	PCケーブル	個
		103	突起を設ける構造(鋼)	1031	鋼製ブラケット	個
		104	突起を設ける構造(コンクリート)	1041	コンクリートブロック	個
		105	支承移動制限装置	1051	アンカーバー	個
				1052	緩衝ピン	個
106	その他	1061	その他	※任意に設定		
11	その他	111	部材交換	1111	部材交換	個
		112	維持・修繕工法	1121	維持・修繕	※任意に設定
		113	新設	1131	新設	※任意に設定
		114	その他	1141	その他(拡幅、更新等)	※任意に設定

# 橋梁台帳(その4):補修・補強対策総括票

様式一4

補修工事後、対策区分の修正を行った場合

## 1. 橋梁諸元

橋梁名コード	12345678	(フリガナ)	〇〇パン
事務所	〇〇県土整備事務所	橋梁名	〇〇橋
路線番号	70	所在地	〇〇町大字〇〇
橋梁区分	上下線一体本線橋	橋長	44.4 m
橋梁種別	その他	径間数	2
重要度区分	グループ2	全幅員	16.80 m
路線名称	主要地方道〇〇〇〇線	交差状況	河川 名称 二級河川〇〇川
適用示方書	昭和55年 道路橋示方書	交差状況	道路 名称 高速道路
構造形式	上部工	架設年次	1991年12月
	下部工	PCプレテン床版橋	
		重力式橋台 壁式橋脚 重力式橋台	

## 2. 点検履歴

NO	点検種別	点検日
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

## 3. 作成情報

作成年月日	年	月	日
-------	---	---	---

対策実施時 2010/〇〇/〇〇を記入

## 4. 補修・補強対策内容

補修・補強コード番号	径間名 (下部工名)	部位	部材区分	補修・補強年度	工種	種別	細別	単位	数量	施工業者名	設計会社名	設計年度
2	3	4	4	5	6	6	6	6				
07-1	A1-P1	上部構造	上部構造・主桁	2007	鋼材補修	鋼材補修・塗装塗替え 工法	鋼材補修・塗装塗替え 工法・塗装塗替え工法	m2	53	株式会社〇〇建設	株式会社〇〇建設	2006
07-2	A1-P1	上部構造	上部構造・床版	2007	床版補強	床版補強・断面補強工 法	床版補強・断面補強工 法・炭素繊維接着工法	m2	250	株式会社〇〇建設	株式会社〇〇建設	2006
07-3	P1-P2	上部構造	上部構造・床版	2007	床版補強	床版補強・断面補強工 法	床版補強・断面補強工 法・炭素繊維接着工法	m2	250	株式会社〇〇建設	株式会社〇〇建設	2006
07-4	P2-A2	上部構造	上部構造・床版	2007	床版補強	床版補強・断面補強工 法	床版補強・断面補強工 法・炭素繊維接着工法	m2	250	株式会社〇〇建設	株式会社〇〇建設	2006
07-5	P1	下部構造	下部構造・橋脚	2007	橋脚補強	橋脚補強・耐震補強工 法	橋脚補強・耐震補強工 法・RC巻立て工法	m2	120	株式会社〇〇建設	株式会社〇〇建設	2006
07-6	P2	下部構造	下部構造・橋脚	2007	橋脚補強	橋脚補強・耐震補強工 法	橋脚補強・耐震補強工 法・RC巻立て工法	m2	135	株式会社〇〇建設	株式会社〇〇建設	2006
07-7	A1-P1	路上	路上・舗装	2007	舗装補修	舗装補修・維持・修繕工 法	舗装補修・維持・修繕工 法・切削オーバーレイ	m2	155	株式会社〇〇舗道	株式会社〇〇舗道	2006
07-8	A1-P1	路上	路上・防水層	2007	防水層補修	防水層補修・維持・修繕 工法	防水層補修・維持・修繕 工法・塗膜系	m2	155	株式会社〇〇舗道	株式会社〇〇舗道	2006
一径間・一橋台・一橋脚ごと									整数			数字のみ記入

一径間・一工種毎一行記入

# 橋梁台帳(その5):補修・補強対策調査書

## 補修工事後、対策区分の修正を行った場合

様式-5

### 1. 橋梁諸元

橋梁名コード	12345678	(フリガナ)	〇〇バス
事務所	〇〇県土整備事務所	橋梁名	〇〇橋
路線番号	70	所在地	〇〇町大字〇〇
橋梁区分	上下線一体 本線橋	橋長	44.4 m
橋梁種別	その他	径間数	2
重要度区分	グループ2	全幅員	16.80 m
路線名称	主要地方道〇〇〇〇線	河川名称	二級河川〇〇川
適用示方書	昭和55年 道路橋示方書	道路名称	高速道路
構造形式	上部工 下部工	架設年次	1991年12月
		PCプレテン床版橋	
		重力式橋台 壁式橋脚 重力式橋台	

### 2. 点検履歴

NO	点検種別	点検日
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

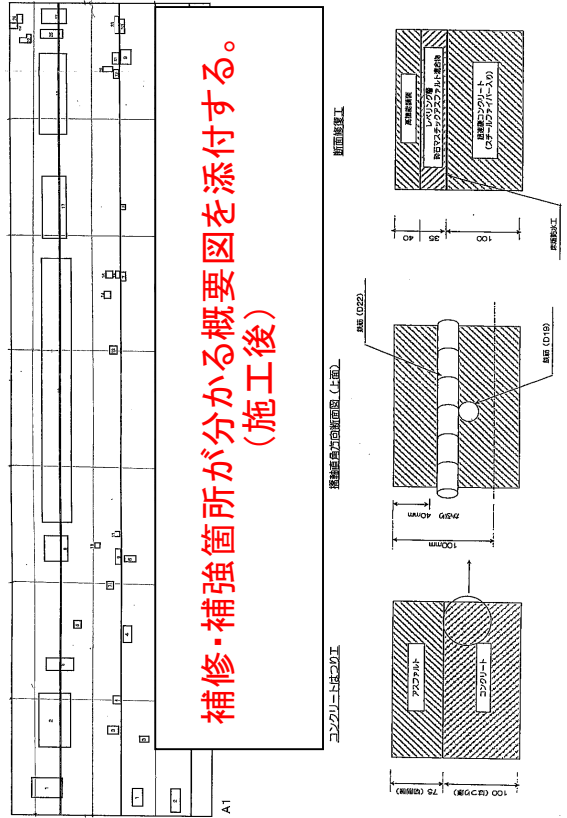
### 3. 作成情報

作成年月日	2007年 2月 10日
施工業者名	株〇〇建設

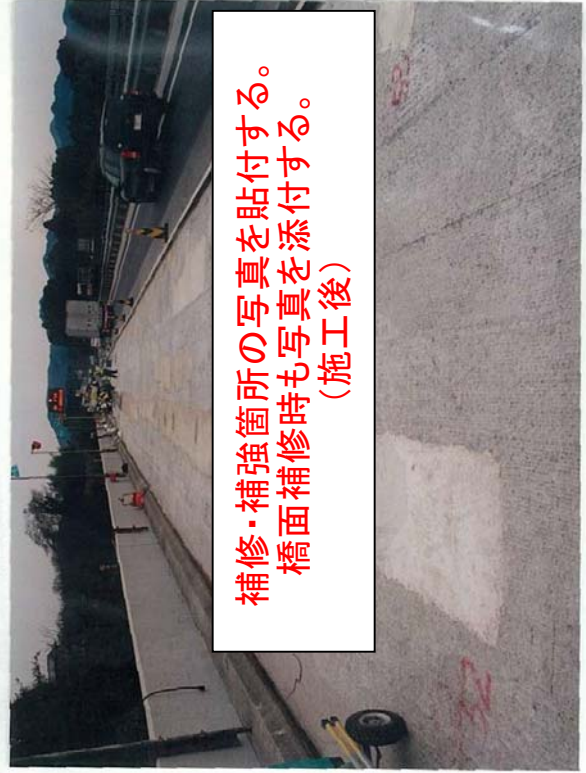
### 4. 補修・補強対策内容

補修・補強コード番号	スパン番号	部位	補修・補強年度	補修・補強年度	工種	種別	細別	単位	数量
07-1	A1-P1	上部構造	2007年度	2007年度	コンクリート補修	コンクリート補修・断面修復工法	コンクリート補修・断面修復工法・断面修復工法	m2	250

### 補修・補強概要図



### 補修・補強箇所写真



# 点検台帳(その1):点検履歴総括票

## 1. 橋梁諸元

橋梁コード	12345678	(フリガナ)	〇〇パン
事務所	〇〇県工務課事務所	橋梁名	〇〇橋
路線番号	35	所在地	〇〇町大字〇〇
橋梁区分	上下線一体 本線橋	橋長	52.0 m
橋梁種別	その他	径間数	2
重要区分	グループ2	全幅員	9.35 m
路線名称	主要地方道〇〇〇〇線	河川	二級河川 〇〇川
適用方書	昭和31年コンクリート標準示方書	架橋状況	高速道路
構造形式	下部工	架設年次	1981年9月
		架設形式	PC単純プレテン工橋

補修工事後、対策区分の修正を行った場合

## 2. 点検履歴

NO	点検種別	点検日
1	定期点検(直営)	1995/8/15
2	定期点検(直営)	2000/6/23
3	定期点検(直営)	2004/7/15
4	定期点検(直営)	2009/12/7
5	定期点検(直営)	2014/5/2
6	対策実施時	2016/11/5
7		
8		
9		
10		

損傷程度、対策区分を変更した年月日記載する。また、「対策実施時」と記載する。

## 3. 点検結果(橋梁毎の部材別判定)

点検日	2016/11/5		2009/12/7		2004/7/15	
	対策実施時	××業者	定期点検(直営)	△△△△	定期点検(直営)	□□□□
点検業者名	××業者					
点検部材	上部構造					
主桁	A	5	c	6	d	B
横桁	A	5	c	6	c	B
縦桁	*					*
対傾構	*					*
横構	*					*
床版	B	6	d	8	c	B
下部工	A	5	c	13	e	A
支承	A	11	e			A
路面	A	10	c			A
高欄・防護欄	A	1	b			A
照明・標識	A	1	b			A
排水施設	A	1	c			A
総合判定	総合判定					

点検種別の欄に「対策実施時」と記載する。

対策を実施した業者名を記載

対策を実施したため、損傷[a]未記入

対策工事を行った箇所以外の部材は前回点検の内容を記入する。

対策工事を実施したことを記載する。

【損傷の種類】	
①腐食	⑪支承の機能障害
②亀裂	⑫下部工の変状
③ポルトの脱落	⑬変色・劣化
④破断	
⑤ひびわれ・漏水・遊離石灰	
⑥鉄筋露出	
⑦抜け落ち	
⑧床版ひびわれ	
⑨PC定着部の異常	
⑩路面の凹凸	

## 福岡県要領

## 対策区分

A	損傷が認められず、損傷が軽微で補修を行う必要はない
B	状況に応じた補修を行う必要がある
C	速やかに補修等を行う必要がある
E	緊急対応の必要がある
M	維持工事で対応する必要がある

## S83点検要領の損傷度判定

1 腐食	5 破断	9 遊離石灰	13 鋼板接着部の損傷	17 ポットホール	21 変色・劣化	25 異常たわみ	29 移動
2 亀裂	6 塗装劣化	10 豆板、空洞	14 床版ひびわれ	18 舗装ひびわれ	22 漏水・滞水	26 変形	30 傾斜
3 ゆるみ	7 ひびわれ	11 すりへり、侵食	15 遊間の異常	19 わだち掘れ	23 異常音	27 土砂つまり	31 洗掘
4 脱落	8 剥離・鉄筋露出	12 抜け落ち	16 段差、コンゲーション	20 その他	24 異常振動	28 沈下	32 火損

# 点検台帳(その2):点検結果総括票(径間毎の部材別判定)

様式一B

補修工事後、対策区分の修正を行った場合

事務所名		〇〇県土整備事務所		カナ名称		〇〇パン		路線名		主要地方道〇〇〇〇線	
橋梁名コード		12345678		橋梁名称		〇〇橋		所在地		〇〇町大字〇〇	
重要度		グループ2		点検種別		対策実施時		点検日		2016/11/5	
径間番号		1		2		3		4		5	
		損傷程度の評価		損傷程度の評価		損傷程度の評価		損傷程度の評価		損傷程度の評価	
		左側:損傷種類 右側:損傷程度		左側:損傷種類 右側:損傷程度		左側:損傷種類 右側:損傷程度		左側:損傷種類 右側:損傷程度		左側:損傷種類 右側:損傷程度	
		対策区分		対策区分		対策区分		対策区分		対策区分	
上部構造	主桁	A		A							
	横桁	A	5 c	A	5 c						
	縦桁	*		*							
	対傾構	*		*							
	横構	*		*							
下部工	床版	B	6 d 8 c								
	下部工	A	5 c	A	5 c 13 e						
支承	支承	M	11 e								
	路面	A	10 c	A	10 c						
路上	高欄・防護柵	A	1 b	A	1 b						
	照明・標識	A	1 b	A	1 b						
排水施設	排水施設	A	1 c	A	1 c						
<p><b>【所見】</b></p> <p>(※記入例)          ・主桁、横桁において、0.2mm未満のひび割れが発生しているが、現時点ではひび割れ幅が小さいため、構造物に及ぼす影響は小さいと考えられる。しかし、塩害の可能性も考えられるため、機会を見て詳細調査を行うことが望ましい。          ・床版の間詰め部にて、遊離石吹を伴うひび割れが乗っている。また、部分的に鉄筋露出している箇所がある。これは、コンクリートの打継目からの漏水が原因と考えられる。          ・下部工は、伸縮装置からの漏水の影響によると思われるひび割れ、鉄筋露出が発生している。現段階では構造物の耐久性に影響する          ・主桁の対策工事を実施したため、主桁における対策区分を変更した。</p> <p><b>【その他】(周辺環境その他気付いた事項)</b>          (※記入例)          ・本橋は山間部に位置し、冬季の凍結防止剤を散布する路線である。凍結防止剤に含まれる塩分が、構造物の損傷要因と考えられるため、留意が必要である。          対策を実施した業者名を記載</p>											
<p><b>【対応】</b></p> <p>(※記入例)          ・主桁、横桁のひび割れは、塩害の可能性も考えられるため、機会を見て詳細調査を実施することが望ましい。          ・床版の間詰め部損傷は、進行すると抜け落ちる恐れがあるため、状況に応じて補修を行うことが望ましい。          ・下部工のひび割れは、損傷が軽微であるため、当面は補修を行う必要がないと判断される。しかし、伸縮装置からの漏水が損傷を助長する恐れがあるため、速やかに伸縮装置の非排水化などの対策を講じることが望ましい。          ・支承の機能障害が発生している。上部構造に影響を及ぼす可能性があるため、詳細調査を実施することが望ましい。          ・主桁に対して、対策工事を実施し、損傷程度、対策区分を変更した。</p> <p><b>【点検(業)者名】</b>          (有) × × 業者</p> <p><b>【損傷の種類】</b>          ①腐食 ④破断 ⑨PC定着部の異常 ⑩下部工の変状          ②亀裂 ⑤ひびわれ・漏水 ⑦抜け落ち ⑩路面の凹凸 ⑩変色・劣化          ③ポルトの脱落 ⑥床版ひびわれ ⑧遊離石吹 ⑪支承の機能障害</p>											

損傷程度、対策区分を変更した年月日を記載する

損傷程度、対策区分を変更した点検(対策)種別を記載する

対策工事後実施のため、対策区分を"C"→"A"に変更

対策工事後実施のため、損傷程度を"a"(記載なし)に変更

対策工事後実施した旨を記載

# 点検台帳(その3):点検結果記入票

補修工事後、対策区分の修正を行った場合

径間番号: 1  
 鋼部材の場合記入  コンクリート部材の場合記入  鋼部材以外の場合に記入   
 径間(下部工)名称: A1-P1  
 コンクリート部材以外の場合に記入  必ず記入

事務所名		〇〇県土整備事務所		カナ名称		〇〇バス		路線名		主要地方道〇〇〇〇線				
橋梁名コード		12345678		橋梁名称		〇〇橋		所在地		〇〇町大字〇〇				
重要度		グループ2		点検種別		対策実施時		点検日		2016/11/5				
部材区分	損傷種類	① 腐食	② 亀裂	③ ボルトの脱落	④ 破断	⑤ ひびわれ・漏水・遊離石灰	⑥ 鉄筋露出	⑦ 抜け落ち	⑧ 床版ひびわれ	⑨ PC定着部の露出	⑩ 路面の凸凹	⑪ 支承の機能障害	⑫ 下部工の変状	⑬ 変色・劣化
上部構造	主桁	*	*	*	*	a	a						a	1
	横桁	*	*	*	*	c	a						a	1
	縦桁	*	*	*	*	*	*						*	*
	床版	*	*	*	*	*	*						*	1
	対傾構	*	*	*	*	*	*						*	*
	横構	*	*	*	*	*	*						*	*
下部工	起点側	*	*	*	*	c	a			*			a	1
	終点側	*	*	*	*	c	a			*			a	1
支承	起点側											a	a	1
	終点側										e		a	1
路上	路面													1
	高欄・防護柵	b	a	a	a	*	*						a	*
	照明・標識	b	a	a	a								a	*
排水施設	c			a									*	*

損傷程度、対策区分を変更した年月日を記載する

損傷程度、対策区分を変更した年月日を記載する

損傷程度、対策区分を変更した年月日を記載する

主桁の対策工事実施のため、⑤、⑥に関する損傷程度を修正する。(e → a)

対策を実施した業者名を記載

【所見】

(※記入例)  
 ・主桁、横構、構造物細調査を行う  
 ・床版の間詰め部に、遊離石灰を伴うひび割れが乗っている。また、部分的に鉄筋露出している箇所がある。これは、コンクリートの打継目からの漏水が原因と考えられる。  
 ・下部工は、伸縮装置からの漏水の影響によると思われるひび割れ、鉄筋露出が発生している。現段階では構造物の耐久性に影響する

【その他】(周辺環境、その他気づいた事項)  
 (※記入例)  
 ・本橋は山間部に位置し、冬季の凍結防止剤を散布する路線である。凍結防止剤に含まれる塩分が、構造物の損傷要因と考えられるため、留意が必要である。  
 ※損傷以外の特筆する事項がある場合は、【その他】に記載する。

【点検(業)者名】  
 (有) × × 業者

点検台帳(その4): 損傷図

補修工事後、対策区分の修正を行った場合

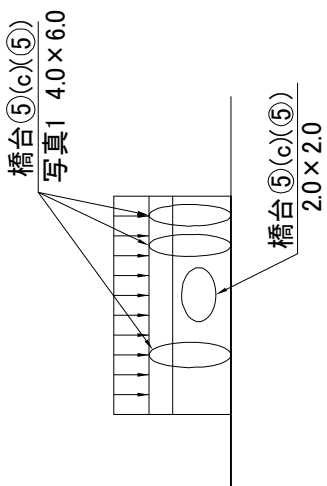
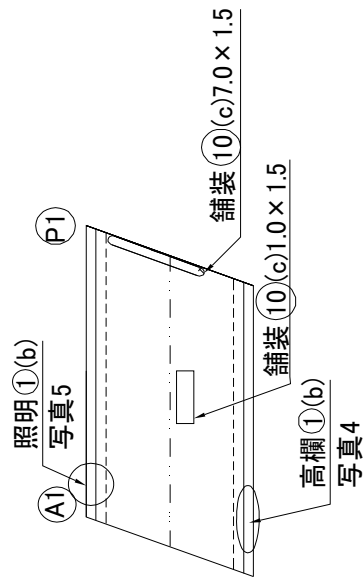
様式-D

事務所名	〇〇県土整備事務所	カナ名称	〇〇パン	路線名	主要地方道〇〇〇〇線
橋梁名コード	12345678	橋梁名称	〇〇橋	所在地	〇〇町大字〇〇
径間番号	1	点検項目	子エック用		
径間(下部工)名称	A1-P1				

部材	鋼部材	コン部材	その他	部材	鋼部材	コン部材	その他
上部構造	①②③④	⑤⑥⑨⑬	-	下部工	①②③④⑭	⑤⑥⑨⑫⑬	-
主桁	①②③④	⑤⑥⑨⑬	-	支承	①	-	⑩⑬
横桁	①②③④	⑤⑥⑬	-	路面	⑩	⑩⑬	-
縦桁	①②③④	⑥⑦⑧⑨⑬	-	高欄・防護柵	①②③④	⑤⑥⑬	-
床版	①②③④	-	-	照明・標識	①②③④	-	-
対傾構	①②③④	-	-	排水施設	①④	-	④⑬
横構	①②③④	-	-				

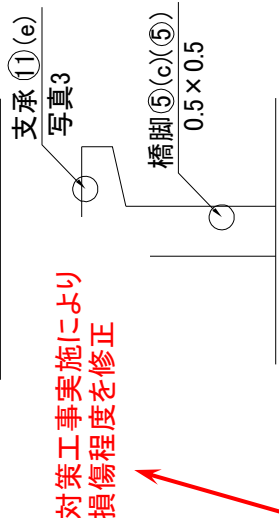
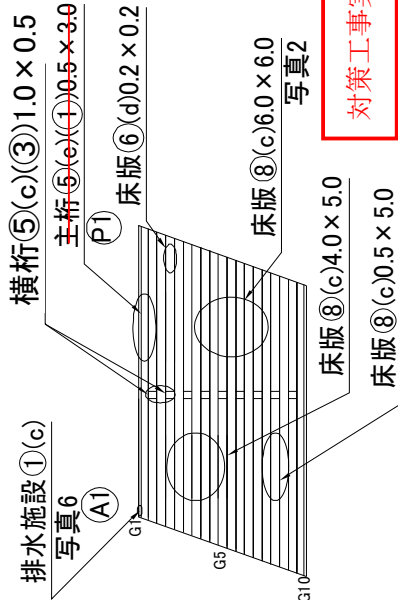
橋面

A1橋台



桁下面

P1橋脚(A1橋台側)



対策工事実施により  
損傷程度を修正

対策工事実施により損傷程度を修正した旨を記載する。

点検台帳(その5): 主要損傷写真

補修工事後、対策区分の修正を行った場合

様式-E


橋梁名コード	橋梁名称	撮影日	写真番号	径間番号	撮影部位	損傷の種類	損傷判定	備考
12345678	〇〇橋	2014/5/2	1	1	A1橋台	⑤ひびわれ・漏水・遊離石灰	c	【備考】 伸縮装置からの漏水が生じている。
		写真		1		A1橋台		
		径間		1		A1橋台		
		撮影		A1橋台		⑤ひびわれ・漏水・遊離石灰		
		種類		A1橋台		⑤ひびわれ・漏水・遊離石灰		
		判定		A1橋台		c		
		【備考】		A1橋台		伸縮装置からの漏水が生じている。		
		写真		2		主桁		
		径間		1		主桁		
		撮影		主桁		⑤ひびわれ・漏水・遊離石灰		
		種類		主桁		a		
		判定		主桁		a		
		【備考】		主桁		からの漏水が原因と推測される床版ひび割れが生じている。 対策工事実施により、損傷判定を変更した。		
		写真		3		支承		
		径間		1		支承		
		撮影		支承		①支承の機能障害		
		種類		支承		e		
		判定		支承		e		
		【備考】		支承		支承から漏水している。		
		写真		4		高欄		
		径間		1		高欄		
		撮影		高欄		①腐食		
		種類		高欄		b		
		判定		高欄		b		
		【備考】		高欄		高欄が腐食している。		
		写真		5		照明柱		
		径間		1		照明柱		
		撮影		照明柱		①腐食		
		種類		照明柱		b		
		判定		照明柱		b		
		【備考】		照明柱		照明柱のベースプレートが腐食している。		
		写真		6		排水施設		
		径間		1		排水施設		
		撮影		排水施設		①腐食		
		種類		排水施設		c		
		判定		排水施設		c		
		【備考】		排水施設		鋼製の排水管が腐食している。		



# 点検台帳(その5): 主要損傷写真

様式-E

橋梁名コード	12345678	橋梁名称	〇〇橋	撮影日	2014年5月2日
--------	----------	------	-----	-----	-----------

	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>写真番号</td><td>7</td></tr> <tr><td>径間番号</td><td>2</td></tr> <tr><td>撮影部位</td><td>A2橋台</td></tr> <tr><td>損傷の種類</td><td>⑤ひびわれ・漏水・遊離石灰</td></tr> <tr><td>損傷判定</td><td>c</td></tr> <tr><td>【備考】</td><td>橋台縦壁にひび割れが生じている。</td></tr> </table>	写真番号	7	径間番号	2	撮影部位	A2橋台	損傷の種類	⑤ひびわれ・漏水・遊離石灰	損傷判定	c	【備考】	橋台縦壁にひび割れが生じている。
写真番号	7												
径間番号	2												
撮影部位	A2橋台												
損傷の種類	⑤ひびわれ・漏水・遊離石灰												
損傷判定	c												
【備考】	橋台縦壁にひび割れが生じている。												



## ○トンネル編

**【台帳 記入方法・記入例】**

## 1. 入力規則

### 1.1 共通事項

- ・ 漢字、ひらがな、カタカナは全角とする
- ・ ローマ字および数字・記号は半角とする
- ・ 数字はアラビア数字とする
- ・ 数字入力については数字のみ入力（年度、単位は不要）
- ・ 記載事項がない場合は、半角「\*」無しを記入する
- ・ 不明の場合は、半角「？」不明を記入する
- ・ プルダウンの場合は、プルダウン内より選択する
- ・ 様式が複数枚におよぶ場合、下表の方法により追加する

トンネル						
	様式	追加方法		様式	追加方法	備考
トンネル 台帳	様式-1-1	-	トンネル 点検 台帳	様式-A	-	
	様式-1-2	行を挿入		様式-B-1	行を挿入	行選択し、下に「コピーしたセルの挿入」により行を追加する
	様式-2	シート内		様式-B-2	別シート	
	様式-3	シート内		様式-D-1	シート内	1～35行目を行選択し、36行目に「コピーしたセルの挿入」(36行目から70行目を選択し、71行目へ→繰り返し)
	様式-4	行を挿入		様式-D-2	シート内	1～35行目を行選択し、36行目に「コピーしたセルの挿入」(36行目から70行目を選択し、71行目へ→繰り返し)
	様式-5	シート内		様式-E	シート内	1～30行目を行選択し、31行目に「コピーしたセルの挿入」(31行目から60行目を選択し、71行目へ→繰り返し)
				様式-F	行を挿入	行選択し、下に「コピーしたセルの挿入」により行を追加する
			様式-G	シート内	1～39行目を行選択し、40行目に「コピーしたセルの挿入」(40行目から79行目を選択し、71行目へ→繰り返し)	

- : 複数ページとはならない

シート内 : 複数ページとなる場合、シート内にページを追加する。

別シート : 複数ページとなる場合、別シートにページを追加する。

行を挿入 : ページに入らない場合は、行を挿入する。

- ・ 事務所名は下表の通りとする。

コード	事務所	コード	事務所
01	福岡県土整備事務所	09	北九州県土整備事務所
02	久留米県土整備事務所	10	田川県土整備事務所
03	南筑後県土整備事務所柳川支所	11	飯塚県土整備事務所
04	直方県土整備事務所	12	那珂県土整備事務所
05	京築県土整備事務所行橋支所	13	南筑後県土整備事務所
06	福岡県土整備事務所前原支所	14	京築県土整備事務所
07	朝倉県土整備事務所	15	北九州県土整備事務所宗像支所
08	八女県土整備事務所		

- 道路種別は下表の通りとする。

コード	道路種別
1	一般国道
2	主要地方道
3	一般県道

## 1.2 各様式の入力例と入力規則

次ページに各様式の入力例とその入力規則を示す。

用語を入力する項目については、データベース登録の便宜上、次ページ以降に示すコード表を基に入力すること。

特に、コード表等を指定しない箇所については、後述の記入例を基に用語、コメント等を入力すること。

### 1.3 様式-1(基本諸元)

#### ① 作成年月日および完成年次

作成年月日 西暦で記載する。(以降の様式も同様) 例: 2006年12月1日→2006/12/1  
 完成年次 西暦の年度で記載する。(以降の様式も同様) 例: 1975年度→1975(数字のみ)

#### ② トンネル諸元

桁数および単位は下記の通りとする。  
 数値は四捨五入とする。

諸元	桁数	単位	
トンネル延長	整数	m	
最大土被り	〃	m	
内空断面積	小数点第1位	m <sup>2</sup>	
幅員	小数点第2位	m	
高さ	小数点第1位	m	
竣工巻厚	整数	cm	
半径	小数点第1位	m	
線形	縦断勾配	小数点第3位	%
	区間長	整数	m
	曲線半径	整数	m

(数値については最大値を記入)  
 (数値については最大値を記入)  
 (巻厚が何種類かある場合は一番厚い数値を記入)  
 (上り下りは関係なく最大勾配で記入)  
 (箇所内の最小曲線半径区間の数値を記入)  
 (箇所内の最小値を記入)

#### ③ 有料・無料の別

有料・無料の別は下表のとおりとする。

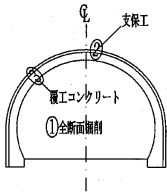
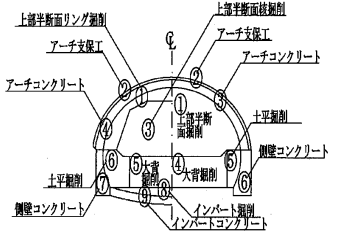
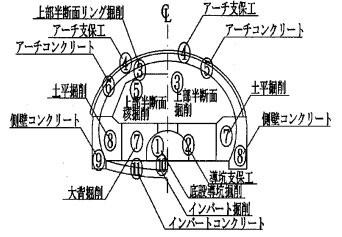
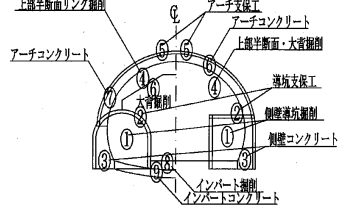
コード	有料・無料
1	有料
2	無料

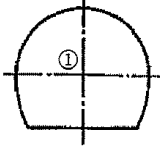
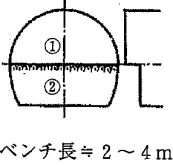
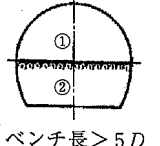
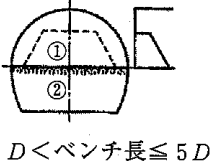
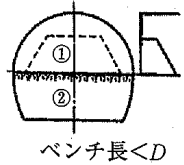
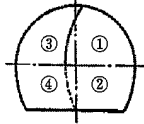
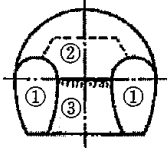
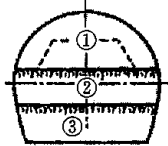
#### ④ トンネル工法

下表のように、施工工法および掘削方法および掘削工法を記入する。  
 ・下表に無い工種等は「その他」を記入。不明の時は「？」を記入する。

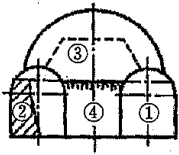
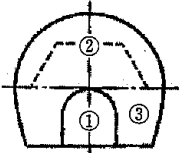
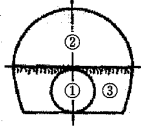
コード	施工工法
1	矢板工法
2	NATM
3	シールド工法
97	その他
99	「？」不明

コード	掘削方法
1	発破掘削
2	機械掘削
97	その他
99	「？」不明

コード	掘削工法	加背割図(参考図)	対象工法
1	全断面工法		
2	上部半断面先進工法		矢板工法
3	底設導坑先進上部半断面工法		
4	側壁導坑先進上部半断面工法		

コード	掘削工法	加背割(参考図)	対象工法
5	全断面工法		NATM
6	補助ベンチ付き全断面工法		
7	ロングベンチカット工法		
8	ミニベンチカット工法		
9	ショートベンチカット工法		
10	中壁分割工法	 上半のみ中壁分割する方法と上下半ともに分割する方法がある	
11	側壁導坑先進工法		
12	多段ベンチカット工法		



コード	掘削工法	加背割	対象工法
13	側壁導坑先進工法		NATM
14	底設導坑先進工法		
15	TBM先進工法	 上半に導坑を設ける場合もある	
97	その他		
99	「？」不明		

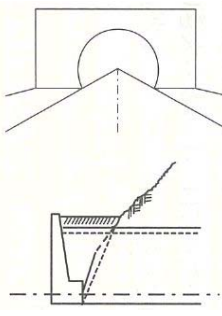
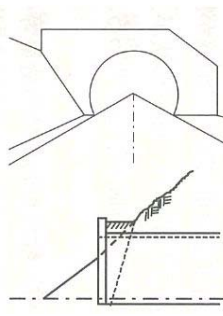
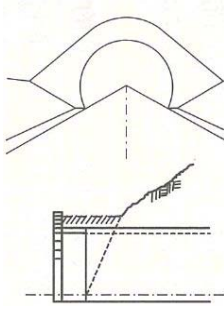
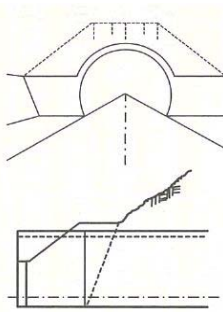


⑤ 壁面種類、天井種類

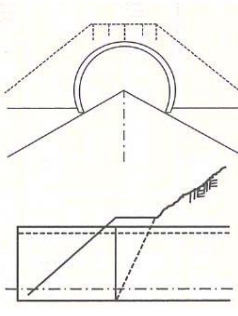
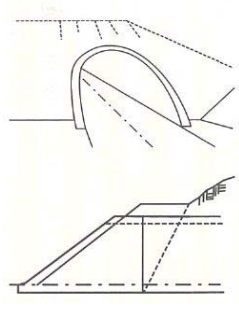
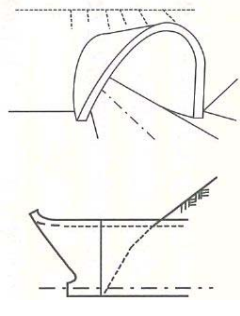



下表に従い入力する。

コード	種類
1	内装有り
2	内装無し
97	その他

⑥ 坑門

下記に列記した形式に当てはまるものを記入する。

コード	1	2	3	4
形式	重力式、半重力式	ウイング式	アーチウイング式	半突出式 パラペット式
概念図				
写真	—			—

コード	5	6	7	97	98	99
形式	突出式	竹割式 ベルマウス式	逆竹割式 逆ベルマウス式	その他	「*」無し	「?」不明
概念図				—	—	—
写真				—	—	—

⑦ 舗装種別と舗装厚

下記に列記した種別より当てはまるものを記入する。

コード	舗装種別
1	コンクリート
2	アスファルト
97	その他
98	「*」無し
99	「?」不明




舗装厚はcm単位とし、舗装面積はm2単位とする。

なお、舗装厚は小数1位四捨五入整数止め、面積は小数第2位四捨五入1位止めとする。

舗装厚が不明な場合は舗装厚の表示は「?」不明を記入する。

⑧ 照明種別

下記に列記した種別より当てはまるものを記入する。

コード	照明種別	光色	写真
1	低圧ナトリウム	橙黄色	
2	高圧ナトリウム	橙白色	
3	蛍光ランプ	白色	
97	その他	—	—
98	「*」無し	—	—
99	「?」不明	—	—

⑨ 換気の種別

コード	換気種別
1	自然換気
2	強制換気

⑩ 換気方式

下記に列記した方式より当てはまるものを記入する。

⑨で自然換気を選択した場合は換気方式の欄では「\*」無しを記入する。

コード	換気方式
1	ジェットファン式
2	サッカルド式
3	集中排気式
4	立坑送排気式
5	電気集塵機式
6	半横流換気方式
7	組合せ換気方式
97	その他
98	「*」無し
99	「?」不明

⑪ 排水設備の種別

下記に列記した種別より当てはまるものを記入する。

コード	排水設備の種別
1	L型側溝
2	U型側溝
3	円形側溝
97	その他
98	「*」無し
99	「?」不明

⑫ トンネル非常用施設の有無

施設の有無について、「有：○」または「無：×」を選択する。

コード	施設の有無
1	○
2	×

配置は、下記に列記したものより、当てはまるものを記入する。

施設が無しの場合は、配置と間隔のところにも「\*」無しを記入する。

施設がある場合、間隔の欄には10m単位で記入する。

コード	配置
1	千鳥配置
2	片側配置
3	向き合わせ配置
97	その他
98	「*」無し

⑬ 他域延長

県・市区町村名：県界トンネルなどの場合で、管理協定を結ぶ道路管理者を記入する。

路線名：相手道路管理者の路線名を記入する。

延長：本来の県管理延長を控除した延長を記入する。

⑭ 現況

通行規制や崩落の危険性がある場合など、現況として特に記載すべき事項がある場合は記入すること。

⑮ 特記

当該トンネルが、連続トンネルや二連トンネルであること等、特記すべき事項がある場合は記入すること。

⑯ 距離標

〇〇km〇〇〇+〇〇mまで記入すること。

例：14km500+8m 距離については小数1位止四捨五入整数とする。

トンネル台帳(その1)

フリガナ 名称		マルマル 〇〇トンネル		路線名		一般国道〇〇〇号		事務所		〇〇県土整備事務所		①作成年月日	
所在地		自 〇〇郡〇〇町大字〇〇		道路種別		一般国道				第3種3級		2006年12月1日	
③有料無料の別		無料		トンネル等級		種別		舗装		施設の内訳		有無	
①完成年次		1975年度		交通量(現状)		厚さ		舗装		非常用電話		〇	
②トンネル延長		565m		⑤壁面種類		面積		舗装		押ボタン通報装置		〇	
②最大土被り		110m		⑤天井種類		種別		照明		火災検知機		×	
③内空断面積		43.2㎡		起形式		灯数		ウイング式		警報表示板		〇	
②幅員		8.22m		延長		⑨自然・強制の種類		70cm		点滅灯		×	
		6.00m		終形式		⑩方式		ウイング式		音信号発生器		×	
		2.22m		ア一子		⑪排水設備の種類		70cm		誘導表示板		〇	
		4.5m		側壁		⑬他		60cm		排煙設備		〇	
		4.5m		インバート		域延長		60cm		避難通路		×	
		4.5m		ア一子		延長		60cm		消火栓		×	
		4.5m		側壁		⑭現況		60cm		消火器		〇	
		4.5m		インバート		⑮特記		4.9m		給水栓		×	
		4.5m		インバート				4.9m		無線通信補助装置		×	
②高さ		3.000%		種類				10.5m		ラジオ再放送設備		×	
		1,200m		電気				九州電力		拡声放送設備		×	
		*		寸法				φ300		水噴霧設備		×	
		A=400		台帳作成後に添架(占用)を行った場合は、道路管理者の指示により施工業者が台帳の修正を行う。						I T V		×	
		*		占用物件						非常用電源設備		×	
		*		矢板工法						非常駐車帯		×	
④施工工法		矢板工法		発破掘削						方向転換		×	
④掘削方法		矢板工法・全断面工法		掘削方法						施工業者			
④掘削工法													

変更する可能性があり、点検者が入力する項目

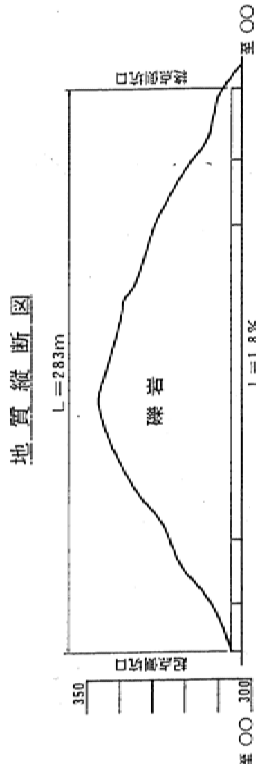
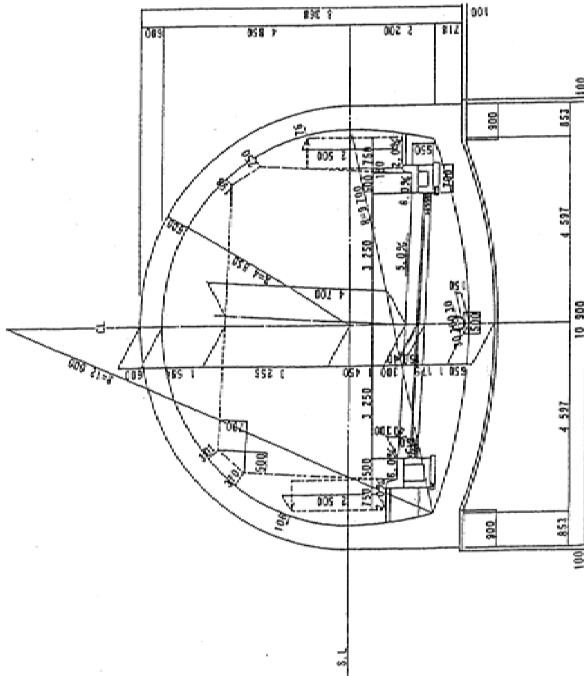
変更する可能性があり、変更を行った施工業者が入力する項目



トンネル台帳(その2)

フリガナ 名称	マルマル 〇〇トンネル	路線名	一般国道〇〇〇号	事務所	〇〇県土整備事務所
所在地	自 〇〇郡 〇〇町 大字 〇〇 至 〇〇郡 〇〇町 大字 〇〇	距離標	自 14km500+8m 至 14km700+91m	作成年月日	2006/12/1

平面図・地質縦断面図・標準断面図（・竣工図）を添付する






工 法		上部半断面 先進掘削工法			
地質・弾性波	固化した礫岩	礫岩	礫岩	礫岩	土砂
風削分類	D	C	B	C	D
施工区間	30.0m	30.0m	163.0m	30.0m	30.0m
支保工規格	H200	H200	H150	H200	H200
支保工間隔	90cm	120cm	120cm	120cm	90cm
ロックボルト	-	-	-	-	-
吹付又は矢板	-	-	掛 矢 板	-	-
覆工厚	60cm	60cm	60cm	60cm	60cm
インパート区間	-	-	有	-	-
その他	-	-	-	-	-

複数ページとなる場合、シート内に  
ページを追加する。

施工実績・地質縦断面図、巻厚、地山等級など



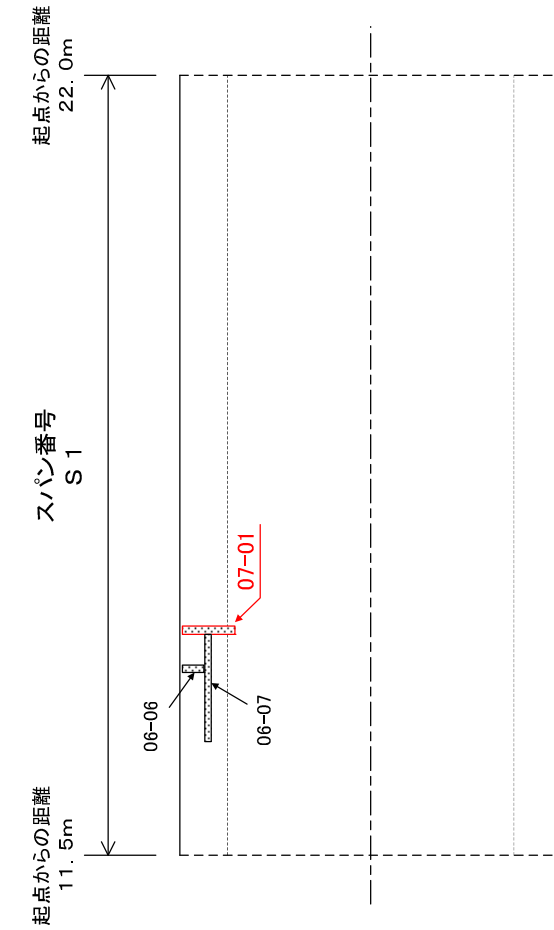
トンネル台帳(その3)

フリガナ 名称	マルマル 〇〇トンネル		路線名	一般国道〇〇〇号		事務所	〇〇県土整備事務所
	所在地	自 〇〇郡〇〇町大字〇〇 至 〇〇郡〇〇町大字〇〇		距離標	自 14km500+8m 至 14km700+91m		
起点側坑口							
							
トンネル内							
							
<p>写真は、100kB程度を目安とする。</p>							
<p>複数ページとなる場合、シート内にページを追加する。</p>							
現地写真							



トンネル台帳(その5)

フリガナ 名称	マルマル 〇〇トンネル		路線名	一般国道〇〇〇号		事務所	〇〇県土整備事務所	
所在地	自 〇〇郡〇〇町大字〇〇	至 〇〇郡〇〇町大字〇〇	距離標	自 14km500+	至 14km700+91m	作成年月日	2007/3/1	
①補修・補強 コード番号	07-1	②スパン番号	S1	③部位区分	側壁	④補修・補強年度	2007年度	
⑤工種	線導水		⑤材料	合成ゴム		⑥数量	8 m	
位置図	写真							



複数ページとなる場合、シート内に  
ページを追加する。

**【点検台帳 記入方法・記入例】**

## 1.4 トンネル点検台帳

### ① 点検種別

点検種別は、下記に従い入力する。

最新の点検を定期点検（2）に記入し、過去2回前までの点検内容を表示する。

コード	点検種別
1	初回定期点検
2	定期点検(1)
3	定期点検(2)
4	対策実施時

調査年を年度で入力する。 例) 2006(数字のみ)

点検年月日記入例 例：2007/12/1

その他の項目については、1.4 様式-4、様式-5を参照すること。

様式-B-1の中の車道幅等の各幅員は、道路構造令に基づき記入する。

点検者欄は、業務委託であれば会社名を、直営点検なら点検者氏名を記入すること。

点検後の対応方針は何もなければ「特になし」等を記入すること。

健全度については、点検結果から、点検箇所ごとに、最も悪い健全度を記入する。

また、点検箇所が存在しない場合は、「\*」無しを記入する。

## 1.5 トンネル点検台帳(その6)【詳細調査総括票】について

詳細調査については、試験方法や試験結果等、記入事項が多岐に渡ることから、コード表に基づいた入力を行わず、適宜用語等を入力する。

トンネル点検台帳(その1)

フリガナ 名称	マルマル 〇〇トンネル		路線名	一般国道〇〇〇号		事務所	〇〇県土整備事務所
所在地	自	〇〇郡〇〇町大字〇〇	距離標	自	14km500+8m	作成年月日	2007/12/1
	至	〇〇郡〇〇町大字〇〇		至	14km700+91m		

点検年月日	点検種別	直近点検			前回点検			前々回点検		
		2007/12/1	点検者	〇〇〇〇(株)	2007/9/1	点検者	〇〇、〇〇、〇〇	2005/11/1	点検者	〇〇〇〇(株)
		定期点検(2)			定期点検(1)			初回定期点検		
点検箇所	健全度	対応方針	備考(スパン番号)	健全度	対応方針	備考(スパン番号)	健全度	対応方針	備考(スパン番号)	
覆工	A	詳細調査を実施	S9	B	定期点検(2)を実施	S2, S9	S	特になし		
坑門	S	特になし		S	特になし		S	特になし		
内装板	*			*			*			
天井板	*			*			*			
路面・路肩・排水施設	S	特になし		S	特になし		S	特になし		
点検結果	<p>点検結果から、点検箇所ごとに、最も悪い健全度を記入する。</p> <p>点検箇所が存在しない場合は、「*」無しを記入する。</p>									
所見及び対応方針	<p>近接目視および打音調査の結果、ひび割れのブロック化およびうき部分がはく落する可能性があることから、詳細調査を実施する必要がある。</p> <p>覆工の補修を実施しているが、前回点検と比較した結果、新たなひび割れやひび割れ箇所からの漏水が確認された。緊急の応急対策は必要ないと思われるが、定期点検(2)を実施する必要がある。</p> <p>覆工の補修が実施されている。軽微なヘアークラックが僅かに確認された程度であり、利用者被害の可能性もなく健全である。</p>									

トンネル点検台帳(その2)

フリガナ 名称	マルマル 〇〇トンネル		路線名		一般国道〇〇〇号				事務所		〇〇県土整備事務所		
	所在地	〇〇郡〇〇町 大字〇〇	距離標	自 至	14km500+	8m	14km700+	91m	作成年月日	2007/12/1		調査年度	2006年度
完成年次	1975年度	全幅員	8.22m	左側	右側	車道幅		歩道幅		交通	200	(台)	
点検年月日	2007/12/1	有効幅員	6.00m	歩道幅	車道幅	車線	車線	歩道幅	0.0m	条件	1	(時間)	
点検種別	初回定期点検	検査ハンマー、クラックゲージ、メスシリンダー、ストッププウオッチ											
点検者	〇〇〇	使用器具	変 状 の 種 類										
スパン番号	部位区分	判定区分	剥離が見受けられる。										
S2	覆工(アーチ)	B	剥離が見受けられる。										
S2	覆工(アーチ)	B	ひび割れ。目地に連結するひび割れがあり、ブロック化して落下の恐れがある。										
S9	覆工(アーチ)	A	ひび割れ進展										
			落下防止応急対策が必要										
			前回の比較										
			変化なし										
			変化なし										
			ひび割れ進展										
			対応方針										
			要調査										
			要調査										
点 検 結 果													
変 状 概 要													
<ul style="list-style-type: none"> <li>・主な劣化症状は、クラック、豆板、漏水、遊離石灰の溶出である。</li> <li>・調査時の漏水は少なく、ほとんどはにじみ程度であった。</li> <li>・打音検査から、覆工自体の浮き部分は小さい範囲で数箇所確認された。</li> </ul>													
ページに入らない場合は、行を挿入する。													

# トンネル 定期点検(1) ≪ 点検票 ≫

トンネル名： ○○トンネル  
点検年月日： 2007/9/1

箇所別判定区分	OK … 変状はなく、あっても軽微 NG … 変状が著しく、専門家による点検や応急措置が必要
---------	---------------------------------------------------

S20以上ある場合は、別シートにページを追加する。

点検箇所	変状の種類	利用者被害の可能性のある状況	S1	S2	S3	S4	S5	S6	S7	S8	S9	S10	S11	S12	S13	S14	S15	S16	S17	S18	S19	S20	終点側 坑口
覆工 (アーチ)	ひび割れ、段差	ブロック化 (亀甲状) してコンクリート片が落下する可能性があるか?	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK								*
覆工 (アーチ)	うき、はく離	コンクリートのうき、はく離が見られ、その周囲部分がはく離する可能性があるか?	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK								*
覆工 (アーチ)	傾き、沈下、変形	目視により明らかに傾き、沈下、変形しているか?	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK								*
覆工 (打継目)	打継目の目地切れ、段差		OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK								*
覆工 (アーチ、側壁)	漏水、つらら、側氷	大規模な漏水、つらら、側氷が見られ、交通の支障となり得るか?	OK	OK	OK	NG	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK								*
補修箇所	補修材のうき、はく離、はく落	補修材のうき、はく離、はく落が見られ、その周囲の部分がはく離する可能性があるか?	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK								*
内装板※1	変形、破損	大規模な変形、破損が見られ、交通の支障となりうるか?	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*								*
路面、路肩、排水施設	段差、ひび割れ、変形	段差、ひび割れ、変形があり交通の支障となりうるか?	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK	OK								*
坑門	ひび割れ、段差	ブロック化 (亀甲状) してコンクリート片が落下する可能性があるか?	OK	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*							*	OK
坑門	うき、はく離	コンクリートのうき、はく離が見られ、その周囲部分がはく離する可能性があるか?	OK	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*							*	OK
坑門	傾き、沈下、変形	目視により明らかに傾き、沈下、変形しているか?	OK	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*							*	OK
坑門	鉄筋の露出	鉄筋の露出している部分の周囲は、コンクリートがはく離する可能性があるか?	OK	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*							*	OK
周辺環境	周辺環境の変状	坑口背面天端への落石、法面崩壊の予兆、上部樹木の根曲がりなどトンネル構造に影響が及ぶと考えられる変状が見受けられるか?	OK	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*							*	OK

判定が全て、「OK」であれば、「定期点検(1)」に○を、ひとつでも「NG」があれば「定期点検(2)」に○を付ける

※1 内装板の事故等による損傷は、健全度判定の対象としない。

## 総 評

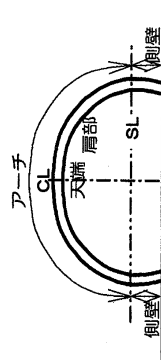
### 健全度

- 健全度S：変状はなく、あっても軽微
- 健全度AもしくはB：変状が認められ、専門家による点検・調査が必要

### 応急対策

- 応急対策が必要
- 応急対策が不要

< 記 事 >



トンネル覆工各部位の名称

⇒ 定期点検 (1)

⇒ 定期点検 (2)

⇒ 応急対策実施

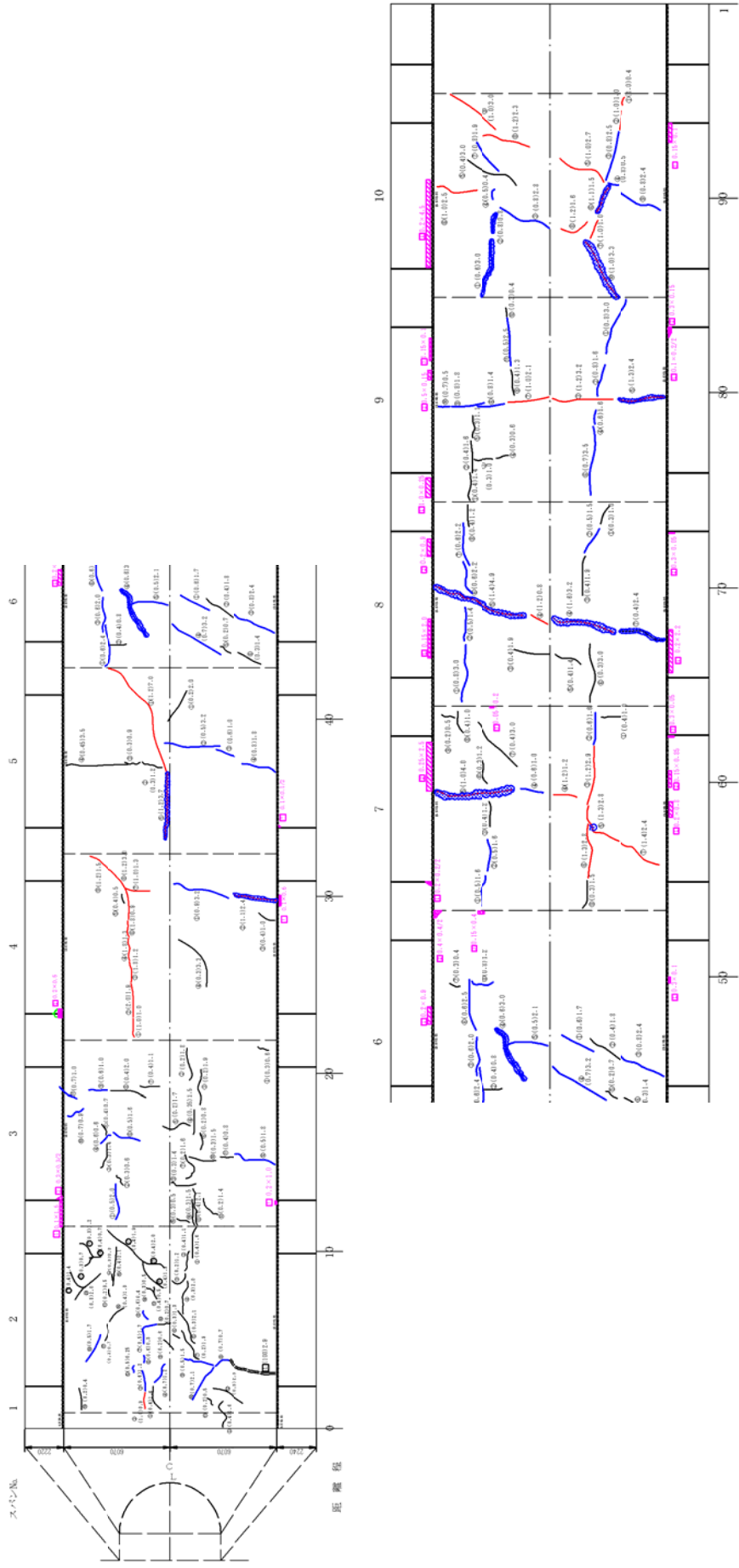
点検結果の所見を記入する

平成〇年に、アーチ部は2次製品の覆工、側壁は現場打ちにて全周的に補修している。今回、前回点検写真と照合した結果、側壁(現場打ち)に新たなひび割れが複数箇所発生しており、また、漏水もかなりの箇所及び量があるため、定期点検(2)を委託する必要がある。応急対策は必要ないと思われる。



トンネル点検台帳(その4)

フリガナ 名称	マルマル 〇〇トンネル		路線名	一般国道〇〇号		事務所	〇〇県土整備事務所
所在地	自	〇〇郡〇〇町 大字〇〇	距離標	自	14km500+ 8m	作成年月日	2006/12/1
	至	〇〇郡〇〇町 大字〇〇		至	14km700+91m		



複数ページとなる場合、シート内に  
ページを追加する。

縮尺1/300~1/400程度。 カラー表示。

トンネル点検台帳(その4)

フリガナ 名称	マルマル 〇〇トンネル	路線名	一般国道〇〇〇号	事務所	〇〇県土整備事務所
所在地	自 〇〇郡 〇〇町 大字 〇〇 至 〇〇郡 〇〇町 大字 〇〇	距離標	自 14km500+8m 至 14km700+91m	作成年月日	2007/12/1
スパン番号 S2	距離標自 14km500+19.5m	距離標至	14km500+30.0m		

凡 例

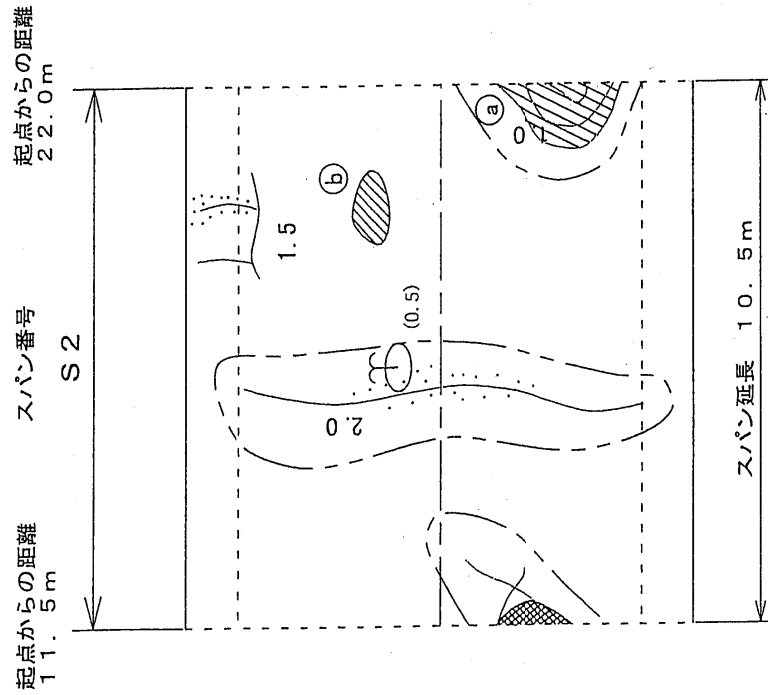




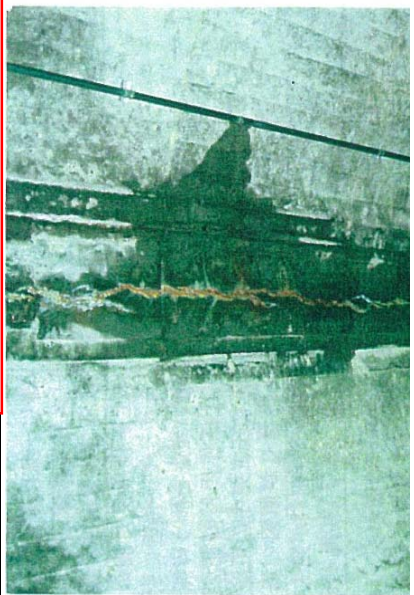
表 示	目視点検での変状種類	打音 検 査
---	施工目地	(a) 濁音(ボコボコ)がし、はく落の可能性がある。
~	ひび割れ(0.3mm)未満	(b) 濁音がする。
5.0	ひび割れ(0.3mm)以上 数値はひび割れ開口幅(mm)	(s) 清音を発し、反発がある。
2.0	段差 矢印側突出、数値は段差(mm)	打音検査により推定できる 深さ方向のひび割れの表示方法
+++++	コールドジョイント	打音検査範囲
//////	圧ざ	(推定できる ひび割れの方向)
	うき、はく離 (ハンマー打診異常箇所)	
	はく落(はく落跡)	
	骨材の露出(豆板部)	
	漏水(漏水量 リットル/分) (0.5)	
	漏水(濡れている部分)	(表示方法)
	溶脱物(遊離石灰など)	
	漏水防止工(導水工)	

複数ページとなる場合、シート内に  
ページを追加する。

縮尺1/200~1/300程度。 カラー表示。

複数ページとなる場合、シート内に  
ページを追加する。

トンネル点検台帳(その5)

フリガナ 名称	マルマル 〇〇トンネル		路線名	一般国道〇〇〇号		土木事務所	〇〇県土整備事務所
	自	至		自	至		
所在地	〇〇郡 〇〇町 大字 〇〇	〇〇郡 〇〇町 大字 〇〇	距離標	14km500+8m	14km700+91m	2007/12/1	
写真番号	1			写真番号	2		
スパン番号	S2			スパン番号	S2		
部位区分	覆工(側壁)			部位区分	覆工(側壁)		
変状の種類	剥離			変状の種類	剥離		
判定区分	B			判定区分	B		
メモ	剥離が見受けられる			メモ	剥離が見受けられる		<div style="border: 1px solid red; padding: 2px;">                     部位区分など記入例のように わかりやすく記入する。                 </div>
写真番号	3			写真番号	4		
スパン番号	S1			スパン番号	S9		
部位区分	覆工(アーチ)			部位区分	覆工(アーチ)		
変状の種類	ひび割れ 漏水			変状の種類	ひび割れ 漏水		
判定区分	S			判定区分	A		
メモ	ひび割れから漏水が見受けられる		メモ	目地に連結するひび割れがあり、ブロック化して落下の恐れがある。			



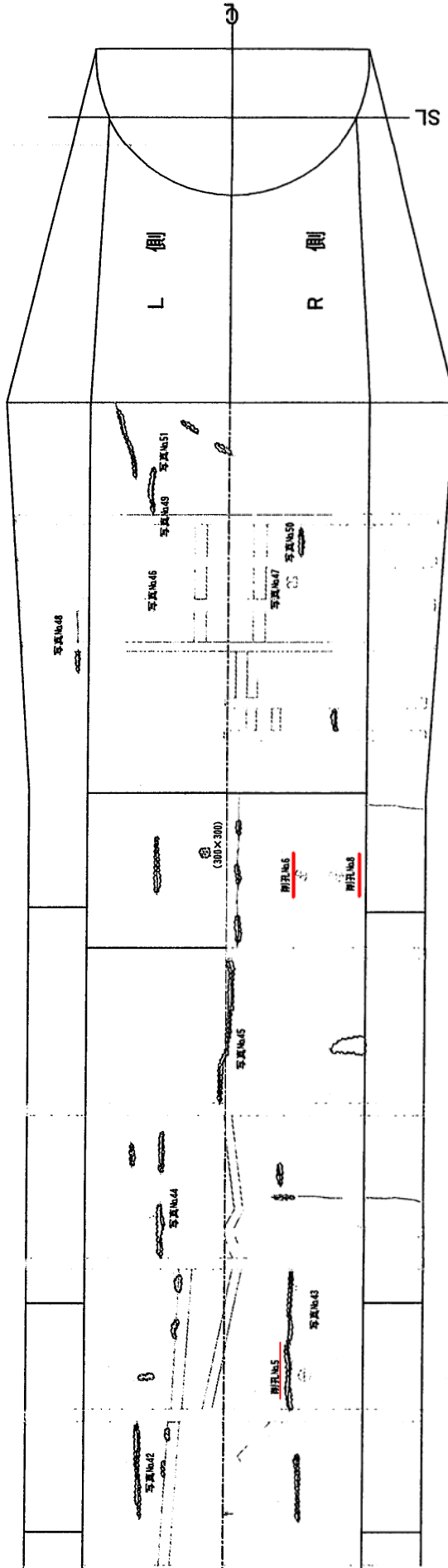
トンネル点検台帳(その7)

トンネル諸元		点検履歴					
フリガナ 名称	マルマル 〇〇トンネル	路線名	一般国道〇〇〇号	点検種別	点検日	点検種別	点検日
土木事務所	〇〇県土整備事務所	作成年月日	2008/4/1	初回定期点検	2005/11/1	No. 6	
所在地	自	距離標	14km500+8m	定期点検(1)	2007/9/1	7	
	至		14km700+91m	定期点検(2)	2007/12/1	8	
						9	
						10	

調査概要図

調査位置図

実施業者名



複数ページとなる場合、シート内に  
ページを追加する。

## 【対策工事を行った場合 記入方法・記入例】

対策工事を実施した場合は、補修・補強履歴関係様式のほか、対策を行った部材の損傷程度、対策区分を反映するため、点検台帳も作成する。

## 1.6 様式-4、様式-5

### ① 補修補強コード番号

対策年度毎（西暦）に施工順、箇所別に番号を付ける。

例) 2007年度の最初の補修・補強工事 → 07-1

上記ケース時に3箇所に対策を実施 → 07-1～07-3

### ② スパン番号

対策箇所のスパン番号を入力する。

例) 起点側坑門（P S）、スパン（起点側よりS1、S2、S3）、終点側坑門（P E）

### ③ 部位区分

対策部位として、全周、アーチ、側壁のいずれか下記に列記したものより当てはまるものを記入する。

コード	部位区分
11	覆工(全周)
12	覆工(アーチ)
13	覆工(側壁)
14	坑門
15	路面
16	内装板
17	天井板
97	その他

### ④ 補修年

補修年を西暦の年度で入力する。 例) 2007(数字のみ)

作成年月日について入力。 例: 2007/3/20

### ⑤ 工種・材料・数量

対策の工種、材料は下記から選択するものとし、当てはまるものを入力する。

工種を選択し、下記にないものについてはその他や不明を表記する。

例) 線導水（合成ゴム）→線導水と合成ゴム

対策数量を下記の単位で入力する。

例) 線導水→10m

工種や材料について表の中に無い場合は「その他※別途」を選択し、単位については適宜入力する。

「その他※別途」を選択した場合は、位置図の中で工種・材料等の具体名を記入すること。

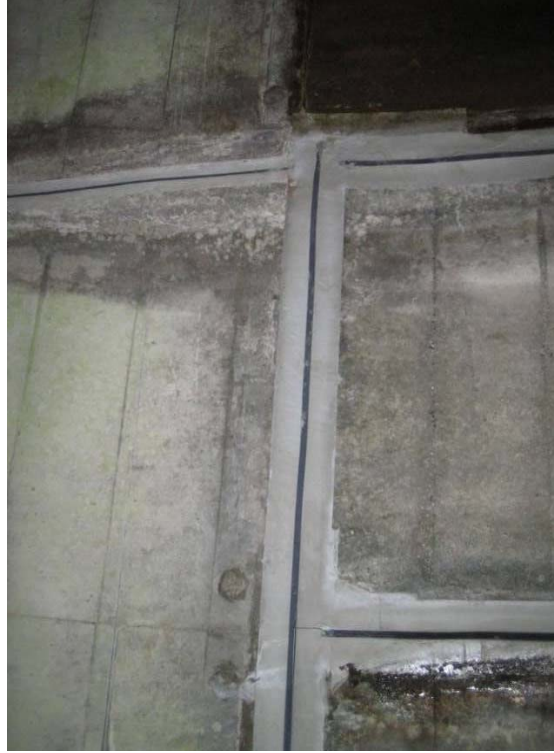
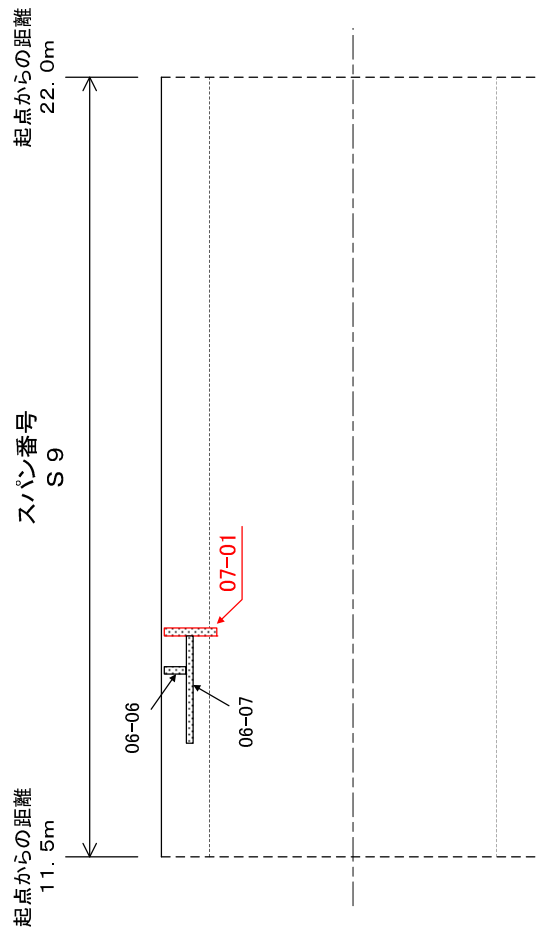
コード	工種	コード	材料	単位
1	内面補強	11	鋼板	m <sup>2</sup>
		12	炭素繊維	
		13	裏込注工	
		14	水抜ボーリング工	
		15	ロックボルト工	
2	線導水	21	パイプ	m
		22	合成ゴム	
3	面導水	31	パネル	m <sup>2</sup>
		32	塗布	
4	舗装工	41	打ち換え	m <sup>2</sup>
		42	オーバーレイ	
		43	シール工法	
5	パネル	51	取り替え	m <sup>2</sup>
97	その他	61	※別途	※別途
		97	その他	
		99	不明	





トンネル台帳(その5)

フリガナ 名称	マルマル 〇〇トンネル		路線名	一般国道〇〇〇号		事務所	〇〇県土整備事務所	
所在地	自 〇〇郡〇〇町 大字〇〇	至 〇〇郡〇〇町 大字〇〇	距離標	自 14km500+8m	至 14km700+91m	作成年月日	2008/4/1	
①補修・補強 コード番号	08-1	②スパン番号	S9	③部位区分	アーチ	④補修・補強年度	2007 年度	
⑤ 工種	線導水		⑤ 材料	合成ゴム		⑥ 数量	8 m	
位置図	写真							



複数ページとなる場合、シート内に  
ページを追加する。

トンネル点検台帳(その1)

フリガナ 名称		マルマル 〇〇トンネル		路線名		一般国道〇〇〇号		事務所		〇〇県土整備事務所	
所在地		距離標		自 至		14km500+8m 14km700+91m		作成年月日		2008/4/1	
対策工事実施年月日を記載		対策工事実施年月日を記載		対策工事実施年月日を記載		対策工事実施年月日を記載		対策工事実施年月日を記載		対策工事実施年月日を記載	
直近点検		点検		前々回点検							
点検年月日	2008/4/1	点検者	〇〇〇〇(株)	点検年月日	2007/12/1	点検者	〇〇〇〇(株)	点検年月日	2007/9/1	点検者	〇〇、〇〇、〇〇
点検種別	対策実施時	点検種別	定期点検(2)	点検種別	定期点検(1)						
点検箇所	健全度	対応方針	備考(スパン番号)	点検箇所	健全度	対応方針	備考(スパン番号)	点検箇所	健全度	対応方針	備考(スパン番号)
覆工	B	対策工事を実施	S2	覆工	A	詳細調査を実施	S9	覆工	B	定期点検(2)を実施	S2,S9
坑門	S	特になし		坑門	S	特になし		坑門	S	特になし	
内装板	*			内装板				内装板	*		
天井板	*			天井板	*			天井板	*		
路面・路肩・排水施設	S	特になし		路面・路肩・排水施設	S	特になし		路面・路肩・排水施設	S	特になし	
点検結果	<p>近接目視および打音調査の結果、ひび割れのブ ロック化およびうき部分のはく落する可能性がある ことから、詳細調査を実施する必要がある。 詳細調査の結果、覆工の劣化が著しくはく落が利 用者被害につながる恐れがあるため、対策を実施 する。 S9は対策工事を実施し改善されたため、最も悪い 健全度はS2のBとなる。</p>										
所見及び対応方針	<p>近接目視および打音調査の結果、ひび割れのブ ロック化およびうき部分のはく落する可能性がある ことから、詳細調査を実施する必要がある。 詳細調査の結果、覆工の劣化が著しくはく落が利 用者被害につながる恐れがあるため、対策を実施 する。 S9は対策工事を実施し改善されたため、最も悪い 健全度はS2のBとなる。</p> <p>〔健全度〕を変更 した旨を記載</p>										

トンネル点検台帳(その2)

フリガナ 名称	路線名		一般国道〇〇〇号		事務所		〇〇県土整備事務所		
所在地	対策工事実施を記 載		自 14km500+8m	至 14km700+91m	作成年月日		2008/4/1		
完成年次	1975年度	全幅員	左側	右側	調査年度		2006年度		
点検年月日	2008/4/1	有効幅員	車道幅 3.25m	車線 1	車道幅 3.25m	車線 1	歩道幅 1.5m	200 (台)	
点検種別	対策実施時	使用器具	検査ハンマー、クラックゲージ、メスシリンダー、ストッププウオッチ						1 (時間)
点検者	〇〇〇	備考	変状の種類						2 (%)
スパン番号	部位区分	判定区分	変状の種類						前回の比較
S2	覆工(アーチ)	B	剥離が見受けられる。						変化なし
S2	覆工(アーチ)	B	剥離が見受けられる。						変化なし
S9	覆工(アーチ)	S	ひび割れ。目地に連結するひび割れがあり、ブロック化して落下の恐れがある。						ひび割れ進展
点検結果									
対策工事実施のため、“A”→“S”に変更									

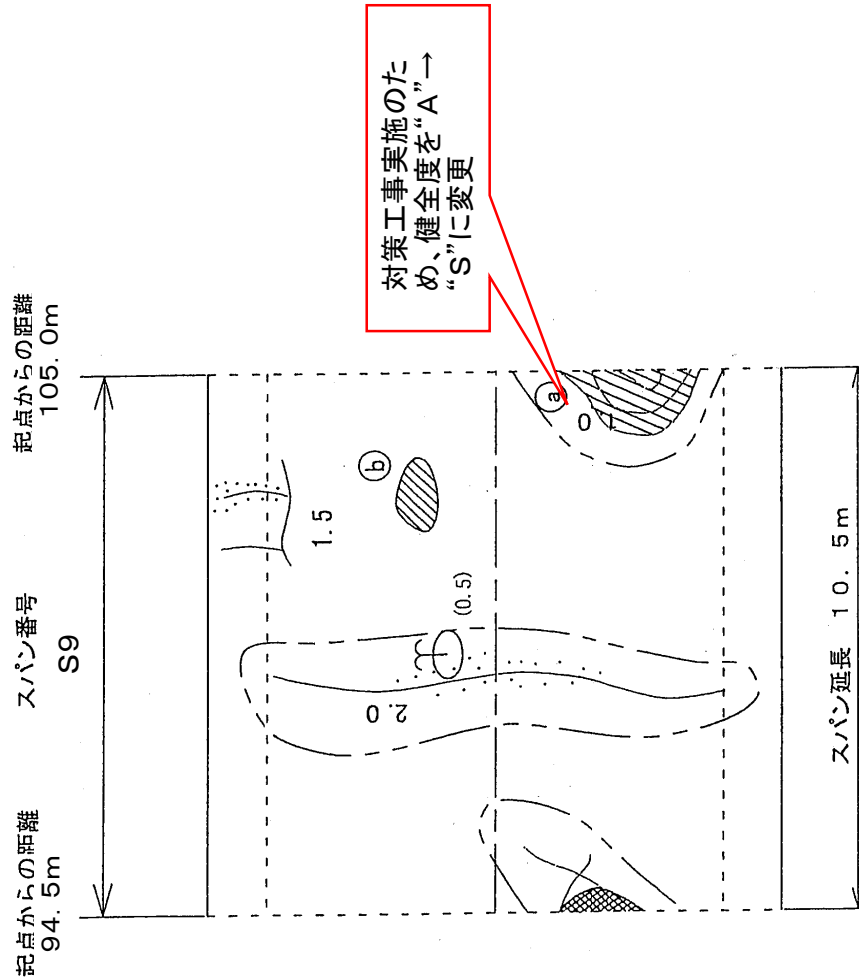
変状概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主な劣化症状は、クラック、豆板、漏水、漏れ、遊離石灰の溶出である。</li> <li>・調査時の漏水は少なく、ほとんどはにじみ程度であった。</li> <li>・打音検査から、覆工自体の浮き部分は小さい範囲で数箇所確認された。</li> </ul>
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

トンネル点検台帳(その4)

フリガナ 名称	マルマル 〇〇トンネル		路線名	一般国道〇〇〇号		事務所	〇〇県土整備事務所
所在地	自	〇〇郡〇〇町大字〇〇	距離標	自	14km500+8m	作成年月日	2008/4/1
	至	〇〇郡〇〇町大字〇〇		至	14km700+91m		
スパン番号 S9	距離標自	14km600+3.5m	距離標至	14km600+14.0m			


凡 例

表 示	目視点検での変状種類	打音 検 査
---	施工目地	(a) 濁音(ボコボコ)がし、はく落の可能性がある。
〰	ひび割れ(0.3mm)未満	(b) 濁音がする。
5.0	ひび割れ(0.3mm)以上 数値はひび割れ開口幅(mm)	(S) 清音を発し、反発がある。
2.0	段差 矢印側突出、数値は段差(mm)	打音検査により推定できる 深さ方向のひび割れの表示方法
+++++	コールドジョイント	打音検査範囲
//////	圧ざ	(推定できる ひび割れの方向)
〰	うき、はく離 (ハンマー打診異常箇所)	清音 濁音
〰	はく落(はく落跡)	(表示方法)
〰	骨材の露出(豆板部)	
⊕ <sup>(0.3)</sup>	漏水(漏水量 リットル/分)	
〰	漏水(濡れている部分)	
〰	溶脱物(遊離石灰など)	
〰	漏水防止工(導水工)	



縮尺1/200~1/300程度。 カラー表示。

トンネル点検台帳(その5)

フリガナ 名称	マルマル 〇〇トンネル		路線名	一般国道〇〇〇号		事務所	〇〇県土整備事務所
	自	至		自	至		
所在地	〇〇郡 〇〇町 大字 〇〇	〇〇郡 〇〇町 大字 〇〇	距離標	14km500+8m	14km700+91m		2008/4/1
写真番号	1			写真番号	2		
スパン番号	S2			スパン番号	S2		
部位区分	覆工(側壁)			部位区分	覆工(側壁)		
変状の種類	剥離			変状の種類	剥離		
判定区分	B			判定区分	B		
メモ	剥離が見受けられる			メモ	剥離が見受けられる		
写真番号	3			写真番号	4		
スパン番号	S1			スパン番号	S9		
部位区分	覆工(アーチ)			部位区分	覆工(アーチ)		
変状の種類	ひび割れ 漏水			変状の種類	ひび割れ 漏水		
判定区分	S			判定区分	S		
メモ	ひび割れから漏水が見受けられる			メモ	対策工事実施のため、“A”→“S”に変更		

## ○舖 装 編

**【台帳 記入方法・記入例】**

## 1. 入力規則

### 1.1 共通事項

舗装台帳および舗装点検台帳は、番号管理を基本とする。よって、台帳への入力、次項以降に示す入力要領、コード表に基づき入力を行う。

なお、入力する数字はすべて**半角**とする。また、不明な場合は「?」（半角）を入力する。また、様式が複数枚におよぶ場合、行を挿入する。

### 1.2 各様式の入力例と入力規則

次ページ以降に、各様式の入力例とその入力規則を示す。



(1) 舗装台帳

① 事務所名

下表に基づきコードを入力する。

コード	事務所
01	福岡県土整備事務所
02	久留米県土整備事務所
03	南筑後県土整備事務所柳川支所
04	直方県土整備事務所
05	京築県土整備事務所行橋支所
06	福岡県土整備事務所前原支所
07	朝倉県土整備事務所
08	八女県土整備事務所
09	北九州県土整備事務所
10	田川県土整備事務所
11	飯塚県土整備事務所
12	那珂県土整備事務所
13	南筑後県土整備事務所
14	京築県土整備事務所
15	北九州県土整備事務所宗像支所

② 道路種別

下表に基づきコードを入力する。

コード	道路種別
1	一般国道
2	主要地方道
3	一般県道

ランプ(3,4,5,6)複合の場合は、枝番3を記入

③ 路線名

路線番号、枝番、路線名の入力をする。また、枝番の記入は下表に従う。

枝番	記入方法	枝番	記入方法	枝番	記入方法
*	現道の場合	3	ランプ(上り・ON)	6	ランプ(下り・OFF)
1	旧道の場合	4	ランプ(上り・OFF)	7	種別により随時設定
2	BPの場合	5	ランプ(下り・ON)	∴	//

(例1) 主21 福岡直方線を記入する場合

大項目	②道路種別	③路線名		
		路線番号	枝番	路線名
中項目				
小項目				
	02	21	*	福岡直方線

(例2) 一般国道322号BPを記入する場合

大項目	②道路種別	③路線名		
		路線番号	枝番	路線名
中項目				
小項目				
	01	322	2	一般国道322号

④ 距離標

起点（自）および終点（至）のキロポストを入力する。

（例） 自：14km + 100m、至：14km + 200m を入力する場合(100m単位とする)

大項目	④距離標			
中項目	自		至	
小項目	km	m	km	m
	14	100	14	200

⑤ 市町村名

(i) 下表に基づき市区町村名を入力する。

市区町村名	市区町村名	市区町村名	市区町村名
北九州市門司区	八女市	那珂川町	香春町
北九州市若松区	筑後市	宇美町	添田町
北九州市戸畑区	大川市	篠栗町	糸田町
北九州市小倉北区	行橋市	志免町	川崎町
北九州市小倉南区	豊前市	須恵町	大任町
北九州市八幡東区	中間市	新宮町	赤村
北九州市八幡西区	小郡市	久山町	福智町
福岡市東区	筑紫野市	粕屋町	苅田町
福岡市博多区	春日市	芦屋町	みやこ町
福岡市中央区	大野城市	水巻町	吉富町
福岡市南区	宗像市	岡垣町	上毛町
福岡市西区	太宰府市	遠賀町	築上町
福岡市城南区	糸島市	小竹町	
福岡市早良区	古賀市	鞍手町	
大牟田市	福津市	桂川町	
久留米市	うきは市	筑前町	
直方市	宮若市	東峰村	
飯塚市	嘉麻市	大刀洗町	
田川市	朝倉市	大木町	
柳川市	みやま市	広川町	

(ii) 大字名を入力する。無い場合は「\*」を入力する。

(iii) 店舗等、目標物となるものを記入する。無い場合は道路台帳附図のページ数を入れる。

⑥ 地域区分

下表に従いコードを入力する。なお、地域区分は交通センサス「沿道状況別延長」を参照すること。

コード	地域区分
1	DID
2	市街地
3	平地
4	山地

⑦ 車線数

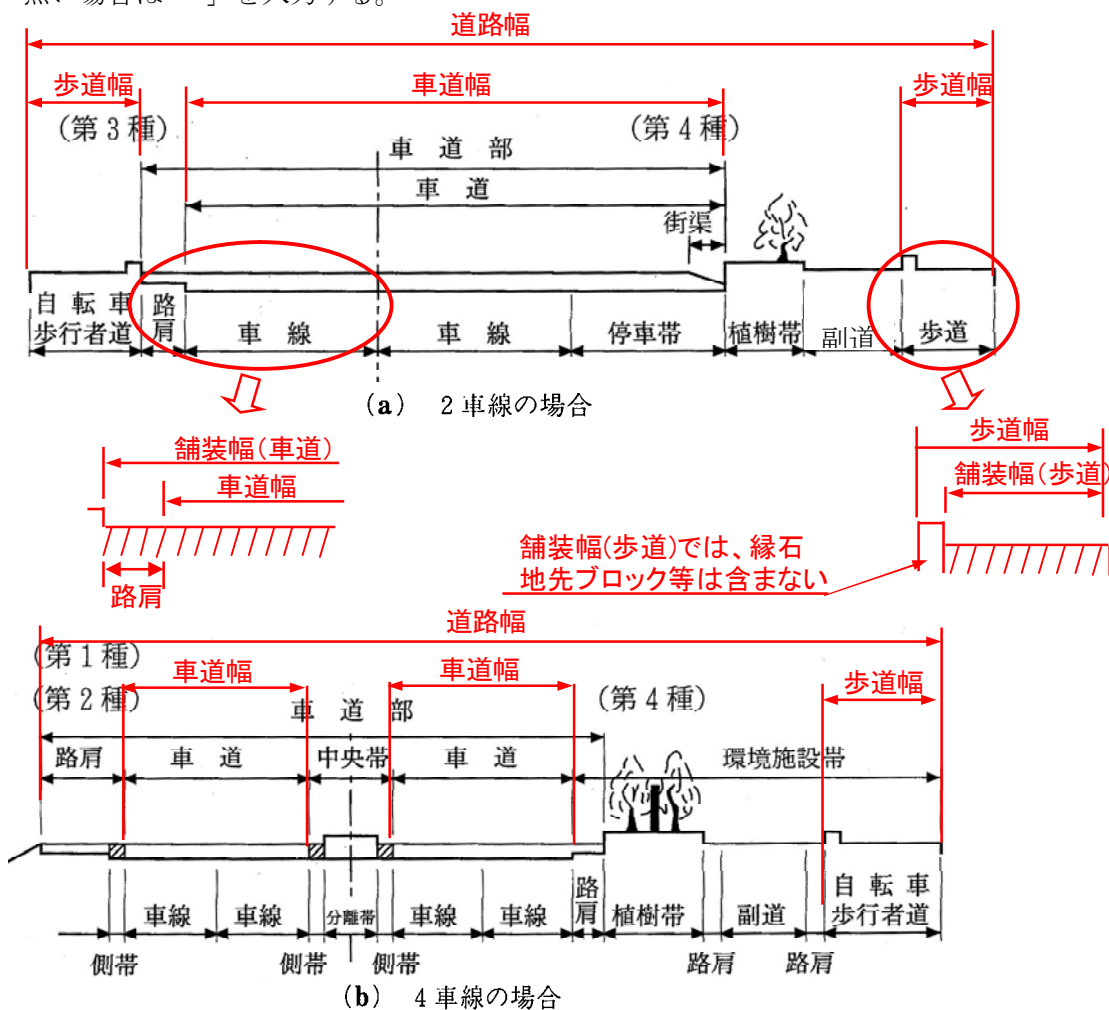
車線数（本線）を入力する。

⑧ 幅員

車道幅等の各幅員は、道路構造令に基づき、下図のとおりとする。

また、幅員の単位はm単位とし、小数第2位四捨五入第1位止とする。

無い場合は「\*」を入力する。



- ※ 車道幅は、路肩を含まない
- ※ 歩道は、自転車歩行者道を含む
- ※ 道路幅は、車道、路肩、植樹帯、歩道等の全てを含む幅
- ※ 副道は一般交通を供さないため対象外
- ※ 車道のみでの工事でも、歩道幅員等の記入は必要

⑨ 交通量

設計時の交通量（台／日）、大型車交通量（台／日・方向）。  
交通量区分は、下表に基づきコードを入力する。

コード	交通量区分	大型車交通量 (台／日・方向)	旧称との対比
1	N7	3,000以上	D交通
2	N6	1,000以上3,000未満	C交通
3	N5	250以上1,000未満	B交通
4	N4	100以上250未満	A交通
5	N3	40以上100未満	L交通
6	N2	15以上40未満	
7	N1	15未満	
?	不明		

⑩ 舗装種別

下表に基づきコードを入力する。

コード	舗装種別
1	アスファルト
2	コンクリート
#	その他
*	無し
?	不明

⑪ 打換え年月

直近の打ち換え年月を記入する。但し、「年」は西暦年とする。また、新設の場合舗設年月を入力する。但し、「年」は西暦とし、不明の場合は「?」を入力する。

※オーバーレイ及び切削オーバーレイの場合は打換え年月の書き換えは、不要

(例1) 1996年3月と入力する場合

大項目	⑪舗装年月	
中項目	年	月
小項目		
	1996	3

(例2) 不明の場合

大項目	⑪舗装年月	
中項目	年	月
小項目		
	?	?

⑫ CBR

- ・現場CBR（盛土の場合は、修正CBR）を入力する。
- ・小数第2位四捨五入第1位止とする。また、不明の場合は「?」、岩着等CBRによらない舗装設計を実施した場合は「#」を入力する。

⑬ 目標TA

- ・単位は、cm単位とする。
- ・不明の場合は「?」、岩着等CBRによらない舗装設計を実施した場合は「#」を入力する。

⑭ 舗装構成

(i) 材料

表層、中間層、基層の混合物の材料および路盤、路床の材料は、下表に基づきコードを入力する。

コード	材料種類(再生材含む)	適用箇所(参考)				コード	材料種類(再生材含む)	適用箇所(参考)			
		表層	基層	路盤	路床			表層	基層	路盤	路床
1	密粒度アスコン	○	○			18	石灰安定処理			○	○
2	密粒度ギャップアスコン	○	○			19	粒度調整碎石			○	
3	粗粒度アスコン	○	○			20	水硬性粒調鉄鋼スラグ			○	
4	細粒度アスコン	○				21	Fe石灰安定処理 (粒調Fe含む)			○	○
5	細粒度ギャップアスコン	○	○								
6	瀝青安定処理		○	○		22	クラッシュラン			○	
7	改質As粗粒AC-100	○	○			23	砂				○
8	改質As密粒AC-100	○	○			24	切土(地山)				○
9	改質As密粒Ⅰ型	○	○			25	盛土(流用土・購入土)				○
10	改質As密粒Ⅱ型	○	○			26	置換(良質土)				○
11	改質As粗粒Ⅰ型	○	○			27	路上再生路盤(セメント添加)			○	
12	改質As粗粒Ⅱ型	○	○			28	路上再生路盤 (セメント+アスファルト乳剤添加)			○	
13	開粒度(排水性)アスコン	○									
14	半たわみ性アスコン	○				#	その他	○	○	○	○
15	セメントコンクリート	○				*	無し	○	○	○	○
16	セメント・瀝青安定処理			○		?	不明	○	○	○	○
17	セメント安定処理			○	○						

(ii) 粒径

粒径は、骨材の最大粒径を下表に基づきコードを入力する。

コード	最大粒径(mm)
1	2.5
2	5
3	8
4	10
5	13
6	20
7	30
8	40
#	その他
*	無し
?	不明

(iii) バインダー種

表層、中間層、基層のバインダー種(再生材含む)は、下表に基づきコードを入力する。

コード	材料名	コード	材料名
1	ストレートアスファルト	10	ホットロールアスファルト
2	改質アスファルトⅠ	14	セメントコンクリート
3	改質アスファルトⅡ	#	その他
4	高粘度バインダー	*	無し
5	その他の改質アスファルト	?	不明
6	セミブローンアスファルト		
7	トリニダードアスファルト		
8	エポキシアスファルト		
9	グースアスファルト		

(iv) 厚さ

単位は、mm単位とする。ただし、該当する層がない場合「\*」を入力する。

(例：中間層が無い場合、「\*」を入力)

(v) 路床改良

路床改良の有無は、下表に基づきコードを入力する。

コード	路床改良
1	有
2	無
?	不明

(例) 舗装構成が下図のようになっていた場合

表層 密粒度(13)ストレートアスファルト t=50
基層 密粒度(20)ストレートアスファルト t=50
上層路盤(1) 瀝青安定処理 T=150
上層路盤(2) 粒調碎石 t=250
下層路盤(1) クラッシュラン t=350

中間層なし

下層路盤(2)なし

路床改良なし

大項目	⑭舗装構成											
中項目	表層				中間層				基層			
小項目	厚さ(mm)	粒径	材料	バインダー種	厚さ(mm)	粒径	材料	バインダー種	厚さ(mm)	粒径	材料	バインダー種
	50	5	2	1*	*	*	*	*	50	6	1	1

大項目	⑭舗装構成										
中項目	上層路盤1		上層路盤2		下層路盤1		下層路盤2		路床改良		
小項目	厚さ(mm)	材料	厚さ(mm)	材料	厚さ(mm)	材料	厚さ	材料	有無	厚さ(mm)	材料
	150	16	250	19	350	22*	*	*	2*	*	

⑮ 施工履歴

舗設、補修等を行った場合、**施工履歴 1** に、その工法および施工深さ等を入力する。  
 施工履歴 2 以降には、前回以前の施工履歴を入力する。

( i ) 工法

工法は下表に基づきコードを入力する。

コード	工法	備 考
1	新設	バイパス工事等
2	路上再生路盤	
3	全層打換え	路床からの打換え
4	路盤打換え	路盤からの打換え(アスファルト剥取りのみの場合も含む)
5	局部打換え	車道幅員の部分的な打換え
6	切削オーバーレイ	
7	オーバーレイ	
8	切削表面処理	
9	シール工法	
#	その他	

※ 工法が複数の場合は、距離標間での割合が大きい工法を選択。

( ii ) 施工深さ

単位は、mm単位とする。

※実際に行なった工事深さとする

( iii ) 施工範囲

片側 2 車線以上の道路については、下表に基づき入力する。ただし、片側 1 車線以下の道路については、施工範囲を「4 (全車線)」として入力する。

コード	施工範囲
1	左側車線
2	中車線
3	右側車線
4	全車線

( iv ) 施工面積

m<sup>2</sup>単位とする。なお、施工面積は距離標ごと(延長100m間)に分けて記載すること。





**【点検台帳 記入方法・記入例】**

(2) 舗装点検台帳1(路面性状調査)

①県土整備事務所～⑥地域区分

舗装台帳の入力規則を参照する。

⑦ 点検履歴

点検を行った場合、**点検履歴 1**に、点検結果等を入力する。  
点検履歴 2以降には、前回以前の点検履歴を入力する。

(i)点検年月

点検を行った年は、西暦として入力すること

(ii)上り・下りの別

上り・下りの別は、下表に基づき入力する。

コード	上り・下りの別
1	上り
2	下り

(iii)ひび割れ率

単位は、%とし、整数止とする。

(iv)わだち掘れ

単位は、mm単位とし、整数止とする。

(v)MCI値

MCI値は小数第3位四捨五入第2位止とする。



大項目	① 事務所	② 道路種別	③ 路線名	④ 距離		⑤ 市町村名	⑥ 地域区分	⑦ 履歴1点検				⑧ 履歴2点検				⑨ 履歴3点検			
				自	至			点検年月	上り・下り	平均割合	残	平均割合	残	平均割合	残	平均割合	残	平均割合	残
中項目	1:国 2:主 3:-		路線番号	km	km	市町村名	地域区分	点検年月	上り・下り	平均割合	残	平均割合	残	平均割合	残	平均割合	残	平均割合	残
小項目			路線名			市町村名	1:山 2:市街地 3:平地 4:山脚	年	1上 2下	0~50m 50~100m	わわわわ れれれれ	平均割合 %	残	平均割合 %	残	平均割合 %	残	平均割合 %	残
コード番号								月		0~50m 50~100m	わわわわ れれれれ		0~50m 50~100m	わわわわ れれれれ		0~50m 50~100m	わわわわ れれれれ		0~50m 50~100m
05	2	21	*福岡直方線	00.500	00.800	直方市		2003 6 2	2	25	22.5	12	11	11.5	4.33	7.02	4.50	4.33	
05	2	21	*福岡直方線	00.600	00.700	直方市		2003 6 1	30	20	25	13	11	12	4.14	3.93	4.33	4.14	
05	2	21	*福岡直方線	00.700	00.800	直方市		2003 6 2	25	30	27.5	11	10	10.5	3.97	7.20	4.36	3.97	

ダウンロード時に補修でダウンロードした場合は  
自動で履歴1→空欄  
履歴2→前回の点検履歴が移動

過去に行った目視点検は、点検履歴2以降に記載し、最大過去2回まで蓄積する。

## 【対策工事を行った場合 記入方法・記入例】

対策工事を実施した場合は、施工履歴のほか、対策を行った距離標区間のMC I 値を反映するため、点検台帳も作成する。

### (3) 舗装点検台帳2(目視点検)

#### ①県土整備事務所～⑥地域区分

舗装台帳の入力規則を参照する。

#### ⑦ 目視点検履歴

点検を行った場合、**目視点検履歴 1** に、点検結果等を入力する。また、前回分を目視点検 2 に、前々回を目視点検 3 に入力する。

##### (i) 点検年月

点検を行った年は、西暦として入力すること

##### (ii) 上り・下りの別

上り・下りの別は、下表に基づき入力する。

コード	上り・下りの別
1	上り
2	下り

##### (iii) ひび割れ率

単位は、%とし、整数止めとする。

なお、ひび割れ率の調査単位は50mであるため、「0～50m」および「50～100m」の欄に点検結果を入力する。結果を入力すると、**平均値が自動的に計算される。**

##### (iv) わだち掘れ

単位は、mm単位とし、整数止めとする。

なお、わだち掘れの調査単位は50mであるため、「0～50m」、「50～100m」、の欄に点検結果を入力する。結果を入力すると、**平均値が自動的に計算される。**

##### (v) MCI値

ひび割れ率およびわだち掘れの点検結果を入力すると、MCI値が自動的に算出される。

なお、MCI値は、ひび割れ率およびわだち掘れの平均値から算出する。

※切削オーバーレイや打換えなど表層そのものの対策工事を行った場合は、

様式B第AA列のMCI値を「9.00」と上書・入力する。

大項目	① 事業場所	② 道路種別	③ 路線名	④ 距離		⑤ 市町村名	⑥ 地域区分	⑦ 車線数	⑧ (m)員		⑩ 舗装種別	⑪ 精算年月	⑫ C B R	⑬ 舗装構成												⑭ 施工履歴1		⑮ 施工履歴2																			
				自	至				歩道	車道				歩道幅員	車道幅員	表層	中間層	基層	上1層	上2層	下1層	下2層	下3層	改良	年月	面積(m <sup>2</sup> )	年月	面積(m <sup>2</sup> )																			
中項目		01: 団地 02: 住宅 03: 商業 04: 工業	路線名	km	m	市町村名	地域区分		歩道幅員	車道幅員	歩道幅員	車道幅員	C B R	表層	中間層	基層	上1層	上2層	下1層	下2層	下3層	改良	年月 <td>面積(m<sup>2</sup>)</td> <td>年月</td> <td>面積(m<sup>2</sup>)</td> <td>年月</td> <td>面積(m<sup>2</sup>)</td>	面積(m <sup>2</sup> )	年月	面積(m <sup>2</sup> )	年月	面積(m <sup>2</sup> )																			
小項目			技術書																																												
コード番号																																															
05-02-21			*環状車道線	00.100.00	200	東海市			6.0	2.5	7.5	1.25	2000	600	3	1	1880	6.62	6.28	50	5	2	1	1	150	16	250	19	350	22	*	*	1880	6	1	850	3	4	750								
05-02-21			*環状車道線	00.200.00	300	東海市			6.0	2.5	7.5	2.5	2000	600	3	1	1980	6.64	6.28	50	5	2	1	1	1	150	16	250	19	350	22	*	*	1980	6	1	850	3	4	750							
05-02-21			*環状車道線	00.300.00	400	東海市			6.0	2.5	7.5	2.5	2000	600	3	1	1880	6.60	6.28	50	5	2	1	1	1	150	16	250	19	350	22	*	*	2007	3	7	50	1	1	350	1986	3	7	850	2	4	950
05-02-21			*環状車道線	00.400.00	500	東海市			6.0	2.5	7.5	2.5	2000	600	3	1	1880	6.57	6.28	50	5	2	1	1	1	150	16	250	19	350	22	*	*	2007	3	7	50	1	1	350	1986	3	7	850	2	4	950
05-02-21			*環状車道線	00.500.00	600	東海市			6.0	2.5	7.5	2.5	2000	600	3	1	1880	6.63	6.28	50	5	2	1	1	1	150	16	250	19	350	22	*	*	2007	3	3	100	1	1	250	1980	6	1	850	3	4	750

打ち換えを行い諸元が変更される場合は、変更箇所を更新すること。

対策工事を行った場合、入力規則に基づき入力する。

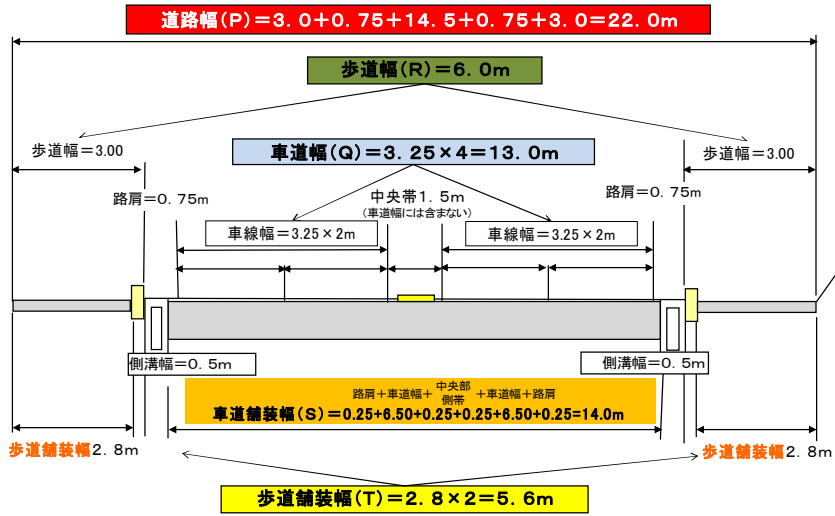




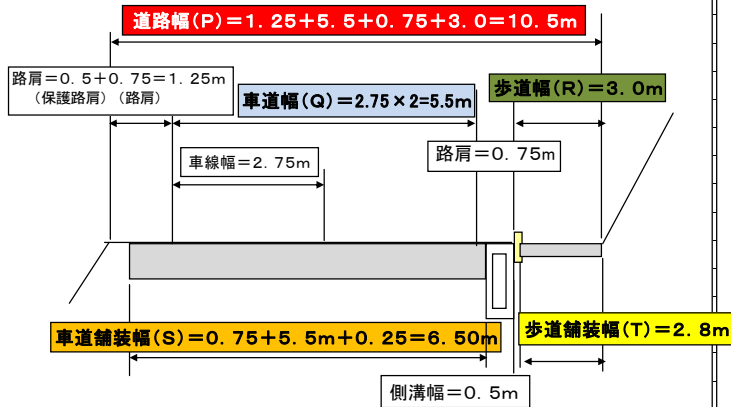
舗装台帳

大項目	① 事務所	② 道路種別	③ 路線名		④ 距離標		⑤ 市町村名		⑥ 地域区分	⑦ 車線数	⑧ (m)幅員				⑨ (交通量)		⑩ 舗装種別	⑪ 打換え年月	⑫ CBR		⑬ 目標TA	層							
			路線番号	枝番	路線名	自	至	市町村名			大字名	舗装種別	舗装幅	歩道幅	車道幅	道路幅			交通量	大型車			交通量	区分	年	月	現場	設計	厚さ (mm)
01	3	607	*	〇〇線	3	800	3	900	〇〇町	〇〇	16	2	4	22	13.0	6	14	5.6	500	2000	1	1	2011	12	0.5	3	20	50	5
01	3	607	1	〇〇線	3	900	4	0	〇〇町	〇〇	16	2	2	10.5	5.5	3	6.5	2.8	500	2000	1	1	2011	6	0.5	3	20	50	5
01	3	607	*	〇〇線	4	0	4	100	〇〇町	〇〇	16.17	2	1	5	4.0	*	5	*	500	2000	1	1	2011	6	0.5	3	20	50	5

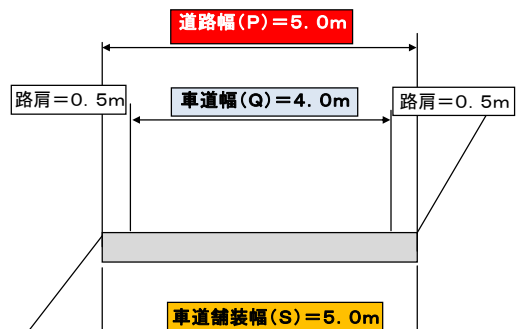
例1) 4車線道路標準断面



例2) 2車線道路標準断面



例3) 1車線道路標準断面



福岡県道路施設維持管理基本計画 台帳整備要領(案) (改訂版)

---

平成 19 年 3 月	初 版
平成 20 年 9 月	改訂版
平成 21 年 5 月	改訂版
平成 21 年 10 月	改訂版
平成 22 年 12 月	改訂版
平成 23 年 12 月	改訂版